

卷末資料

# 松江市消防団について

## 1 松江市消防団の現状

消防団は、市町村の非常備の消防機関であり、その構成員である消防団員は、他に本業を持ちながら、権限と責任を有する非常勤特別職の地方公務員として、「自らの地域は自らで守る」という精神に基づき消防活動を行っています。また、松江市消防団は水防隊を兼務し水防活動を行っています。

### 消防団の主な活動について

#### 平常時の活動

##### 消火・防災訓練

火災現場での活動を想定した訓練（放水訓練等）を行っています。また、各地域で開催される防災訓練にて、自主防災組織等への訓練指導等を実施しています。



##### 救命講習会

万が一に備えて、救急車が到着するまでの応急手当やAEDの使い方等を指導する講習会を行っています。



##### 防火啓発活動

各家庭を訪問しての防火指導、幼稚園などでの防火教育等の啓発活動を行っています。



#### 災害時の活動

##### 消火活動

火災発生時には、自宅や職場から現場に駆けつけます。消火活動、後方支援など、その場に応じた活動を行います。



##### 捜索・救助活動

大規模災害発生時等に地域をよく知る立場から、他機関と連携をとって、捜索・救助活動、避難誘導を行います。



##### 水防活動

台風などの風水害の際は、河川の水位の警戒、土のうづくり・土のう積みのほか、排水、浸水防止などに迅速に対応します。



### ● 組織体制

別紙 附属 1、2（資-7、8 ページ） 参照

### ● 消防団員の処遇

#### (1) 報酬等

消防団員に報酬と活動ごとに費用弁償を下記の額を支給しています。

	区 分		金額（円）
	職 名		
報 酬（年額）	消防団長		79,000
	副団長・方面団長		70,000
	方面副団長		65,500
	分団長		47,000
	副分団長		42,000
	班長、本部員、方面団本部員		33,500
	団員、本部員、方面団本部員		32,500
費用弁償（1回）	水火災その他の災害等に出動した場合		5,900
	計画に基づき警戒、訓練等に出動した場合		3,000

- (2) 公務災害補償・・・災害出動や訓練等で発生した損害を市が補償します。
- (3) 退職報償金・・・退団する際に、勤務年数や階級に応じて支給されます。
- (4) 被服の貸与・・・消防団活動に必要な活動服や長靴等を貸与します。

● 近年の活動に対する表彰等

- (1) 「第 25 回全国消防操法大会」ポンプ車の部で玉湯方面団が初優勝（島根県勢初）



- (2) 平成 25 年防災功労者内閣総理大臣表彰を受賞

平成 22 年 12 月 31 日午後から深夜にかけての豪雪により、7 日間延べ 1,397 名が出動し、豪雪により団員に出動指令が出せない中、昼夜問わず孤立集落の安否確認、倒木の処理、在宅酸素ポンベの搬送や傷病者の搬送等を行い、被害の軽減に多大な貢献をしました。

● 近年の大規模災害に対する活動

- (1) 島根町加賀大規模火災

令和 3 年 4 月 1 日 16 時 45 分頃に発生した島根町加賀における火災では、発生から鎮火まで約 22 時間を要し、建物 32 棟及び山林 2051.53 m<sup>2</sup>を焼く大規模な火災となりました。

消防署からは、車両 34 台、活動人員 119 人、そして当市消防団も車両 20 台、活動人員 328 人が活動を行いました。この火災では、当市消防団として初めて方面団の枠を超えた広域的な応援活動を行うこととなりました。

特に、山林山頂部での延焼防止活動や飛び火警戒のための水幕放水を行い、300 人を超える団員が、常備消防と連携をとりながら、被害の軽減を図りました。



## (2)令和3年7月 豪雨災害

7月4日から12日にかけての梅雨前線により、島根県東部では、7日明け方に線状降水帯が発生し、非常に激しい雨が降り続けました。7日5時47分に松江市では、約100ミリの雨を観測し、記録的短時間大雨情報が発表されました。

この大雨により市内各所で道路冠水や土砂災害が発生。7日から12日にかけて市内各地で、避難所支援や土嚢設置など、合計41分団から1,000人を超える団員が活動しました。

## 2 充実強化に向けた取り組み

### (1) 組織体制等の取り組み

#### ① 女性団員の採用

防災指導等の各種予防啓発を目的に、女性分団（カメラ隊）を設置。現在19名の方が活動。

火災予防啓発や応急手当指導等を中心に活動しており、平成31年度には、女性操法大会への参加も果たしました。

#### ② 災害応援団員の導入

消防団員経験者等で、主に火災等の災害応援活動を目的に導入。火災時の後方支援活動やその他の災害対応活動のみ参加する制度。

#### ③ 学生団員の導入

団員の高齢化が進む中、次世代の担い手育成など、若い力として学生団員を導入。現在3名が在籍し、PR動画の作成や火災予防啓発活動等へ参加。

#### ④ 消防団協力事業所表示制度の導入（55事業所 R3.4.1 現在）

サラリーマンである団員が仕事上の災害活動等に参加しやすくなるよう、消防団協力事業所表示制度を導入。協力いただける事業所には、入札時の加点等のメリットがあります。

#### ⑤ 松江市消防団の組織等に関する指針を策定（平成30年度から）

松江市消防団の組織等を強固にすることを目的に、『1班15人以上』等の指針を示し、各方面団における課題等を抽出。団員確保が困難な地域での班統合を進めるなど、団員と共に毎年度対応をしています。

#### ⑥ その他の制度と広報

- ・しまね消防団員さんさんクラブカードの導入（飲食店等で優遇措置。）
- ・消防団支援自動販売機の導入（売り上げ金からの支援）
- ・消防団員募集ラッピングバスの運行
- ・団員確保のための各種イベントにおける広報やPR動画の作成



## (2) 車両・消防機庫等の取組み

消防ポンプ自動車、小型動力ポンプ付積載車（普通・軽）及び小型ポンプは 24 年を目途に更新。  
令和 3 年度は、消防ポンプ自動車 1 台、小型動力ポンプ付積載車 4 台の更新を予定。

消防車両等 計 149 台所有（※24 年以上経過：26 台）



消防ポンプ自動車 15 台



小型ポンプ付積載車（普通・軽）106 台



消防機庫

消防機庫 132 機庫保有

※40 年以上経過する機庫 43 件（約 3 割）

## (3) その他の取組

### ① 消防団アプリの導入

団員の負担軽減を目的に導入。毎月の活動報告など支所や消防本部まで、団員がわざわざ足を運ばなくても、スマートフォンで報告が可能となります。また、各種連絡も行うことができ、迅速な情報共有が可能となりました。

将来的には、災害時に地図情報を掲載し、災害現場をより明確化することや、現場の画像や動画を共有することにより、消防団活動の充実を目標としています。



## ② 準中型免許取得補助金の新設

準中型自動車免許が新設されたことにより、消防団員となっても普通免許では、消防車が運転できないため、免許取得に係る経費への補助金制度を新設。

## ③ 訓練方法の検討

### ・YouTube を活用した訓練動画の作成

令和 2 年度当初、コロナ禍により従来の団員が多数集まる訓練の実施が困難であったため、YouTube 動画を活用し、規律やホース延長及び基本的なポンプ運用の動画を配信。



## ④ 消防団の魅力向上（小学校への出前授業の実施）（R3 年度 6 校で実施）

消防団員が、学校を訪問し消防団の役割（目的）や意義（重要性）を自らの体験談を踏まえ説明することにより、幼少期からの防火・防災思想の啓発を図ることを目的としています。

講師である消防団員も、消防団の存在意義について再認識する場となるとともに、団員自身がやりがいを感じる場となり、児童の中には、家族が消防団員である家庭も少なくないことから、消防団の必要性を理解すると同時に、家族への誇りを感じるきっかけとなることが期待できます。



## ⑤ 消防団の認知度向上（プロバスケットボールチームとの連携）

近年、生活様式の多様化（サラリーマン化・共働き）などにより、特に主力となる 20～30 歳代の団員確保が喫緊の課題となっていることから、若年層が多数集まる島根スサノオマジックと連携した広報活動を企画しました。また、SNS フォロワー数の多い方（インフルエンサー）を活用し、若い方をターゲットとしたネット上での広報活動を行いました。





# 消防団組織図

資料 1  
附属 1

島根方面団  
224名

美保関方面団  
273名

鹿島方面団  
242名

橋北方面団 359名

八東方面団  
140名

団本部  
・ 団長、副団長3名  
・ 女性分団 19名  
・ 学生団員 3名

消防機庫（拠点施設） 32棟



消防機庫（車庫） 86棟

橋南方面団 150名

東出雲方面団 155名



消防機庫（器具庫） 14棟

宍道方面団  
218名

玉湯方面団  
98名

八雲方面団  
119名

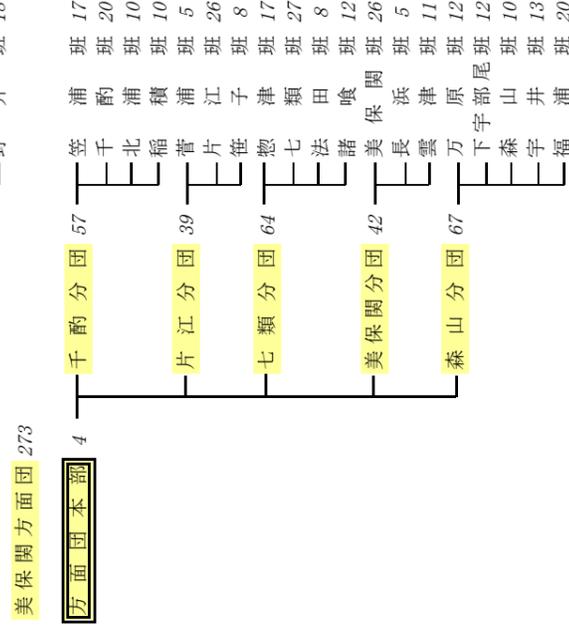
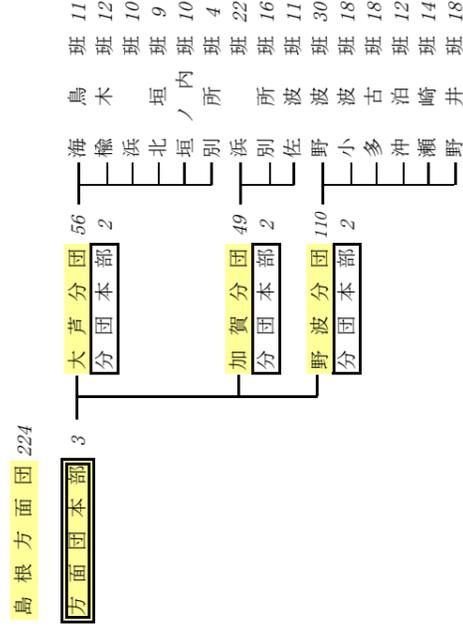
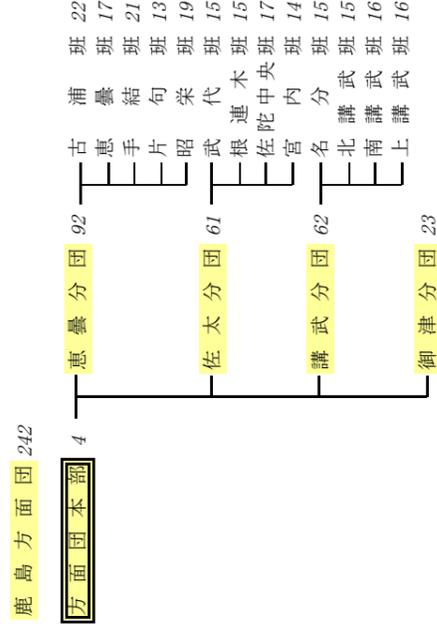
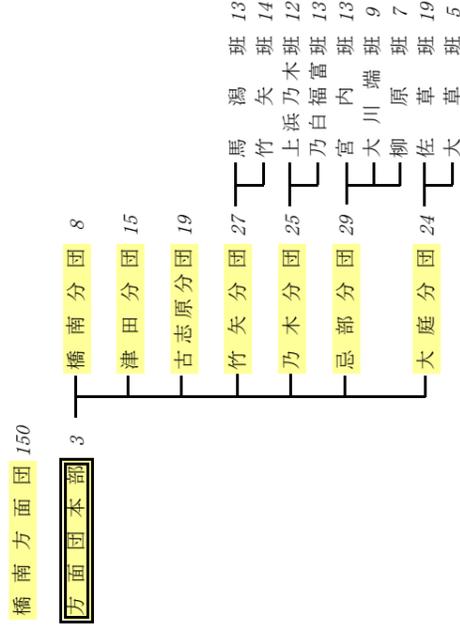
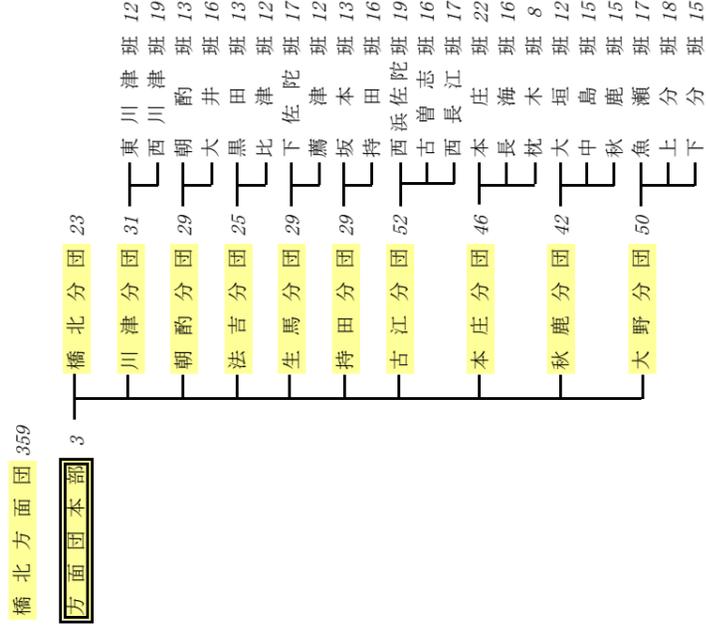
R3.4.1現在 1団、10方面団、40分団  
条例定数 2,255人／実員数 2,004人  
消防機庫132機庫（・は機庫位置）消防車両等 149台

# 松江市消防団

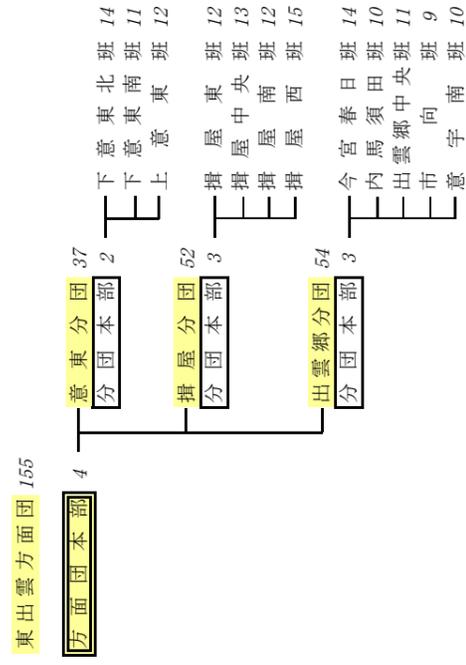
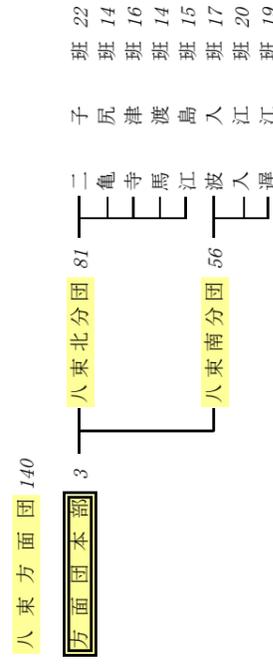
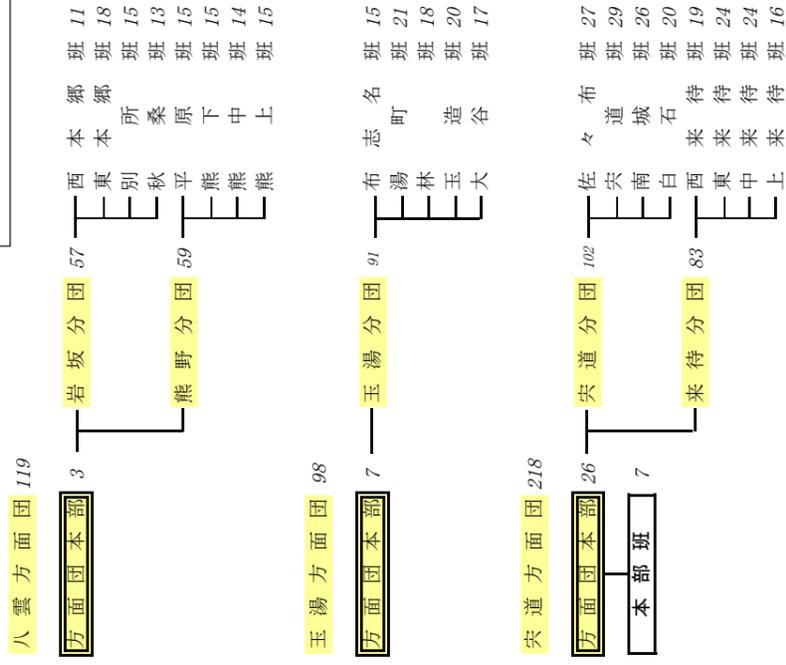
(令和3年4月1日現在)

松江市消防団  
2,004

団本部 7  
女性分団 19



# 資料1 附属2



## ※分団長・副分団長について

- 鳥根方面団・宍道方面団・東出雲方面団以外  
いずれかの班に兼ねて所属しており、班人員の内数に計上している。
- 宍道方面団  
班には所属せず、方面団本部の人員に計上している。
- 東出雲方面団・鳥根方面団  
班以外に「分団本部」を組織しており、分団本部の人員に計上している。

1. はじめに

松江市消防団充実強化計画は、将来にわたる地域防災力の維持、向上を目指すことを目的としており、そのための組織体系や新規団員の確保等について検討を行うために、将来の松江市の人口動態を把握することは重要です。そのため、コーホート変化率法（※1）を用いて、人口推計を行いました。

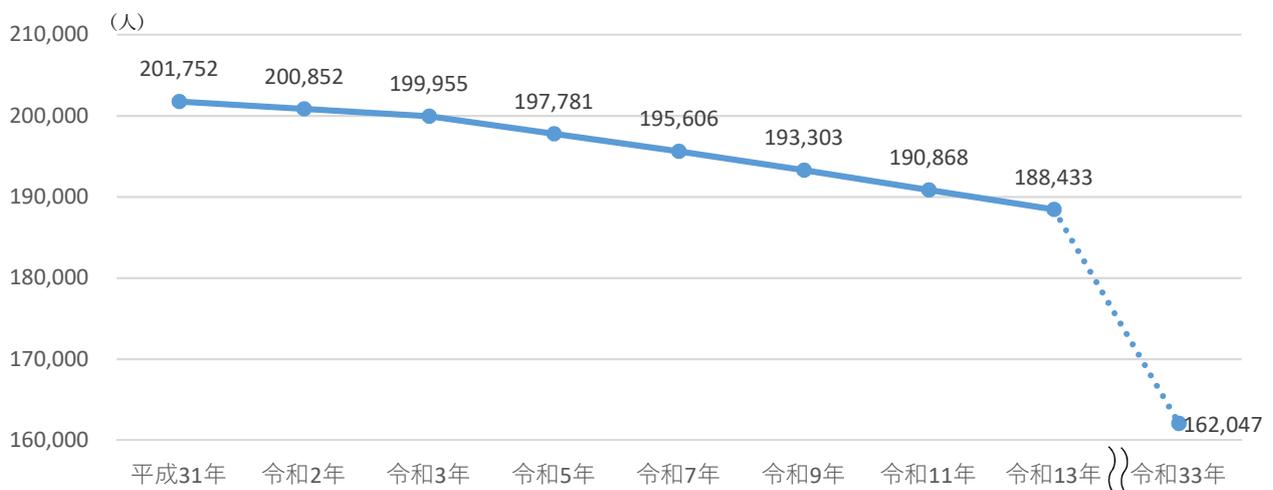
※1 コーホート変化率法とは、あるコーホート（同時出生集団）の一定期間における人口の変化率に着目し、その変化率が対象地域の年齢別人口の変化の特徴であり、将来にわたって維持されるものと仮定して、将来の人口を算出する方法です。  
【推計使用データ：島根県 地域振興部 中山間地域・離島振興課 「しまねの郷づくり 応援サイト」】

2. 松江市の人口推移について（概要）

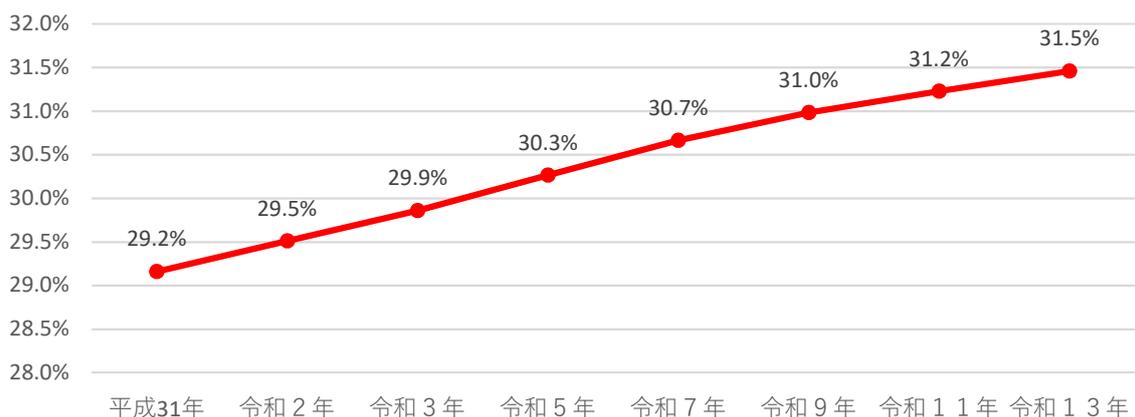
松江市全体では、人口減少が予測されます。（グラフ 1 参照）年齢階層別で比較すると、65 歳以上の高齢化率は上昇（グラフ 2 参照）が予測されるのに反し、生産年齢人口（15～64 歳）割合は、減少（グラフ 3 参照）することが予測されます。

これは、主として消防団員として活動いただく年齢層が減少し、消防団員一人一人に掛かる負荷が大きくなることが予想されます。

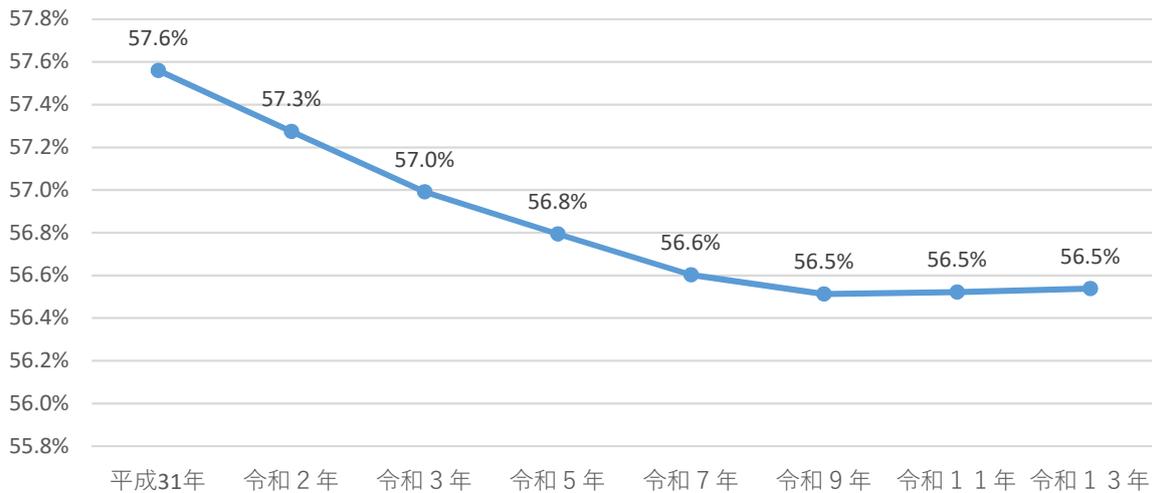
グラフ 1 松江市の総人口の推移



グラフ 2 松江市の高齢化率の推移



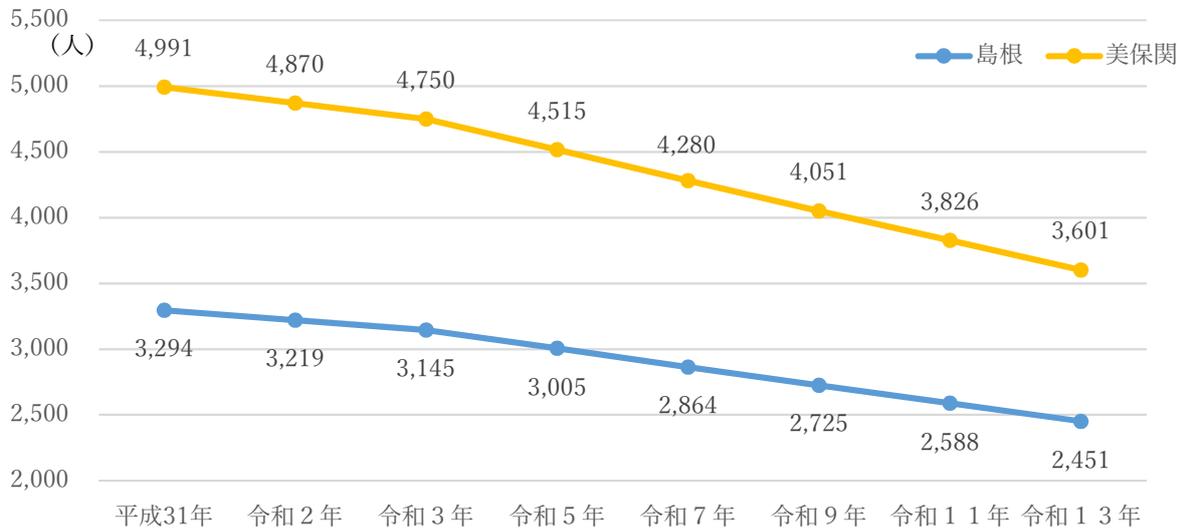
グラフ3 松江市の生産年齢（15～64歳）人口の推移



そして、旧松江市、旧八束郡でそれぞれの人口推移を見ると、玉湯町、東出雲町は人口の増加が予測されますが、他の全ての地区は人口減少が予測されています。(P4～以降参照)

特に、島根町、美保関町で人口減少割合が大きくなることが予測されます。(グラフ4参照)

グラフ4 島根町、美保関町の人口推移



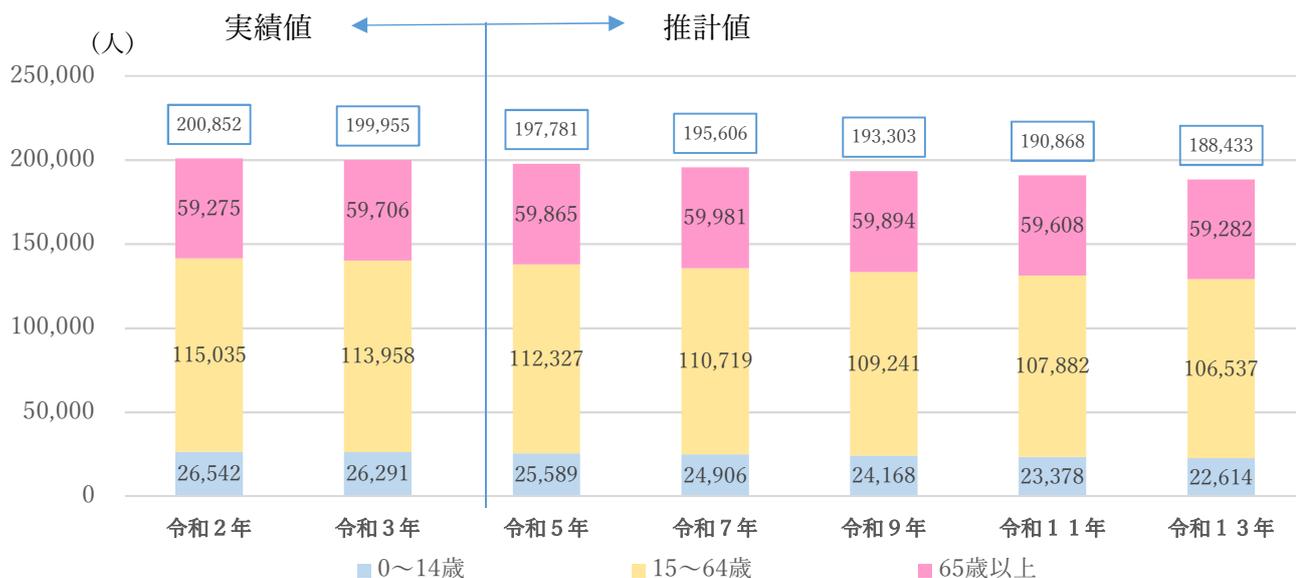
以上のことから、一部の地区では人口増加が予想されるも、多くの地区、そして、松江市全体では、人口減少及び生産年齢人口（15～64歳）の減少がみられることから、今後消防団員を確保することがさらに困難となることが予想されます。

### 3. 地域別の人口推計結果について

#### ① 松江市全体

松江市における今後10年間の人口推計を試みました。その結果、市全体では長期的に緩やかな人口減少が続き、10年後の令和13年には18万8千人台になることが予想されます。また、年齢階層別で見ると、いずれの年齢階層においても減少傾向となります。高齢化率については、令和3年では29.86%であったものが、令和13年には31.46%まで上昇すると予測されます。

グラフ5：松江市全体の人口の推移と推計人口の推移（令和2年～令和13年）



※グラフ上の□の数字は、総人口（人）を表しています。

表1：松江市全体の人口の推移

(人)

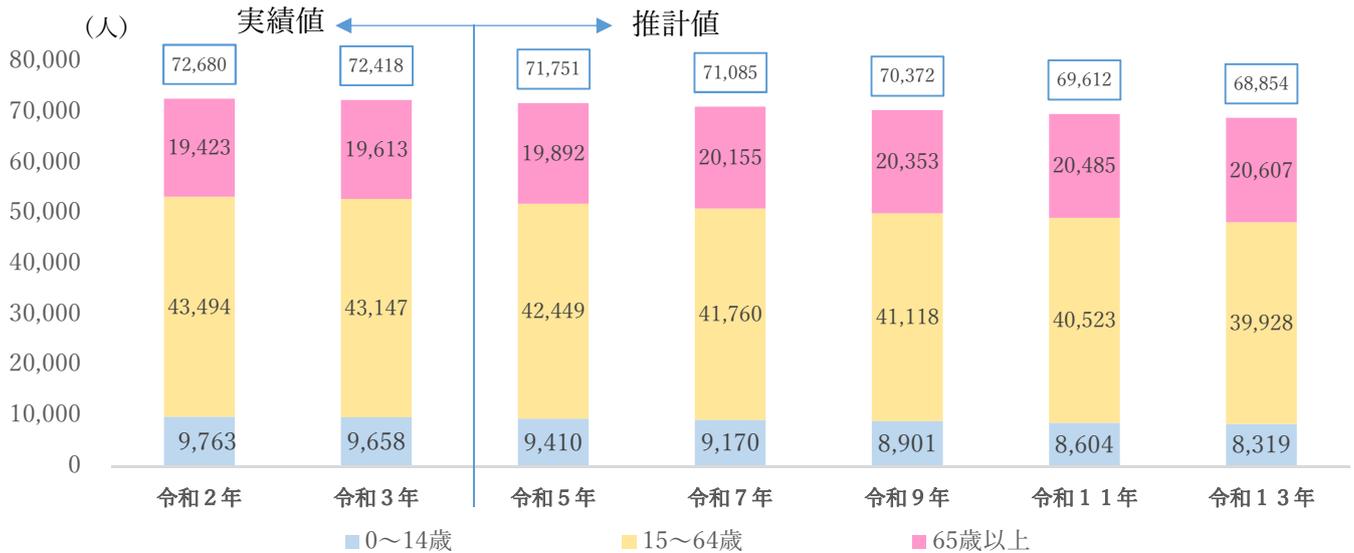
	実績値				推計値		
	平成30年	平成31年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年
総人口	202,649	201,752	200,852	199,955	198,869	197,781	196,694
高齢者人口 (65歳以上)	58,373 (28.80%)	58,834 (29.16%)	59,275 (29.51%)	59,706 (29.86%)	59,791 (30.07%)	59,865 (30.27%)	59,931 (30.47%)
生産年齢人口 (15～64歳)	117,227 (57.85%)	116,129 (57.56%)	115,035 (57.27%)	113,138 (56.99%)	113,138 (56.89%)	112,327 (56.79%)	111,520 (56.70%)
年少人口 (0～14歳)	27,049 (13.35%)	26,789 (13.28%)	26,542 (13.21%)	26,291 (13.15%)	25,940 (13.04%)	25,589 (12.94%)	25,243 (12.83%)
	推計値						
	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年	令和12年	令和13年
総人口	195,606	194,520	193,303	192,085	190,868	189,650	188,433
高齢者人口 (65歳以上)	59,981 (30.66%)	60,022 (30.86%)	59,894 (30.98%)	59,755 (31.11%)	59,608 (31.23%)	59,449 (31.35%)	59,282 (31.46%)
生産年齢人口 (15～64歳)	110,719 (56.60%)	109,925 (56.51%)	109,241 (56.51%)	108,558 (56.52%)	107,882 (56.52%)	107,206 (56.53%)	106,537 (56.54%)
年少人口 (0～14歳)	24,906 (12.73%)	24,573 (12.63%)	24,168 (12.50%)	23,772 (12.38%)	23,378 (12.25%)	22,995 (12.12%)	22,614 (12.00%)

※表（ ）内は年齢層ごとの割合を示します。

## ② 橋北地区

橋北地区では人口減少が予測されます。また、年齢階層別でみると、年少人口（0～14歳）や生産年齢人口（15～64歳）は減少傾向にあるのに対し、65歳以上の高齢者は令和3年の19,613人から10年後の令和13年には20,607人と、994人の増加が見込まれます。高齢化率についても令和3年では、27.08%であったものが、令和13年には29.93%まで上昇すると予測されます

グラフ6：橋北地域の人口の推移と推計人口の推移（令和2年～令和13年）



※グラフ内の□の数字は、総人口（人）を表しています。

表2：橋北地域の人口の推移

(人)

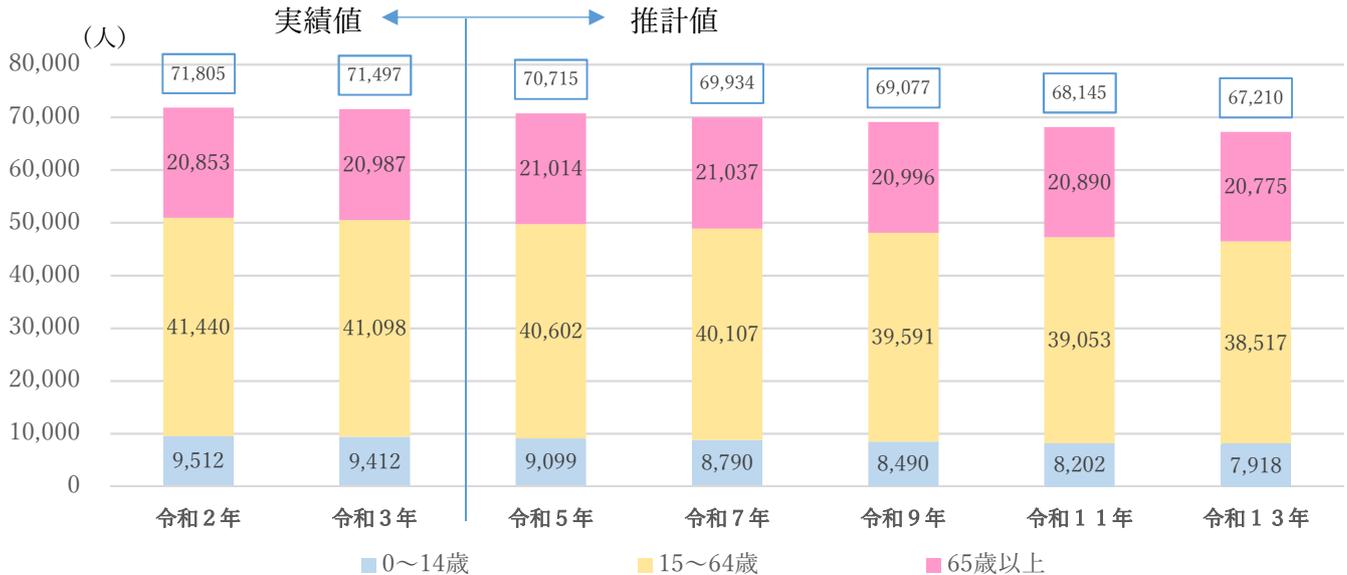
	実績値				推計値		
	平成30年	平成31年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年
総人口	73,207	72,942	72,680	72,418	72,084	71,751	71,418
高齢者人口 (65歳以上)	19,034 (26.00%)	19,231 (26.36%)	19,423 (26.72%)	19,613 (27.08%)	19,756 (27.41%)	19,892 (27.72%)	20,025 (28.04%)
生産年齢人口 (15～64歳)	44,194 (60.37%)	43,844 (60.11%)	43,494 (59.84%)	43,147 (59.58%)	42,794 (59.37%)	42,449 (59.16%)	42,105 (58.96%)
年少人口 (0～14歳)	9,976 (13.63%)	9,867 (13.53%)	9,763 (13.43%)	9,658 (13.34%)	9,534 (13.23%)	9,410 (13.11%)	9,288 (13.01%)
	推計値						
	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年	令和12年	令和13年
総人口	71,085	70,751	70,372	69,993	69,612	69,233	68,854
高齢者人口 (65歳以上)	20,155 (28.35%)	20,281 (28.67%)	20,353 (28.92%)	20,425 (29.18%)	20,485 (29.43%)	20,549 (29.68%)	20,607 (29.93%)
生産年齢人口 (15～64歳)	41,760 (58.75%)	41,418 (58.54%)	41,118 (58.43%)	40,816 (58.31%)	40,523 (58.21%)	40,224 (58.10%)	39,928 (57.99%)
年少人口 (0～14歳)	9,170 (12.90%)	9,052 (12.79%)	8,901 (12.65%)	8,752 (12.50%)	8,604 (12.36%)	8,460 (12.22%)	8,319 (12.08%)

※表（ ）内は年齢層ごとの割合を示します。

### ③ 橋南地区

橋南地区では人口減少が予測されます。また、年齢階層別でみると、年少人口（0～14歳）や生産年齢人口（15～64歳）は減少傾向にあります。そして、65歳以上の高齢者については、令和8年まで増加傾向をみせるものの、10年間でみると減少傾向にあります。高齢化率についても令和3年では29.35%であったものが、令和13年には30.91%まで上昇すると予測されます。

グラフ7：橋南地区の人口の推移と推計人口の推移（令和2年～令和13年）



※グラフ内の□の数字は、総人口（人）を表しています。

表3：橋南地域の人口の推移

（人）

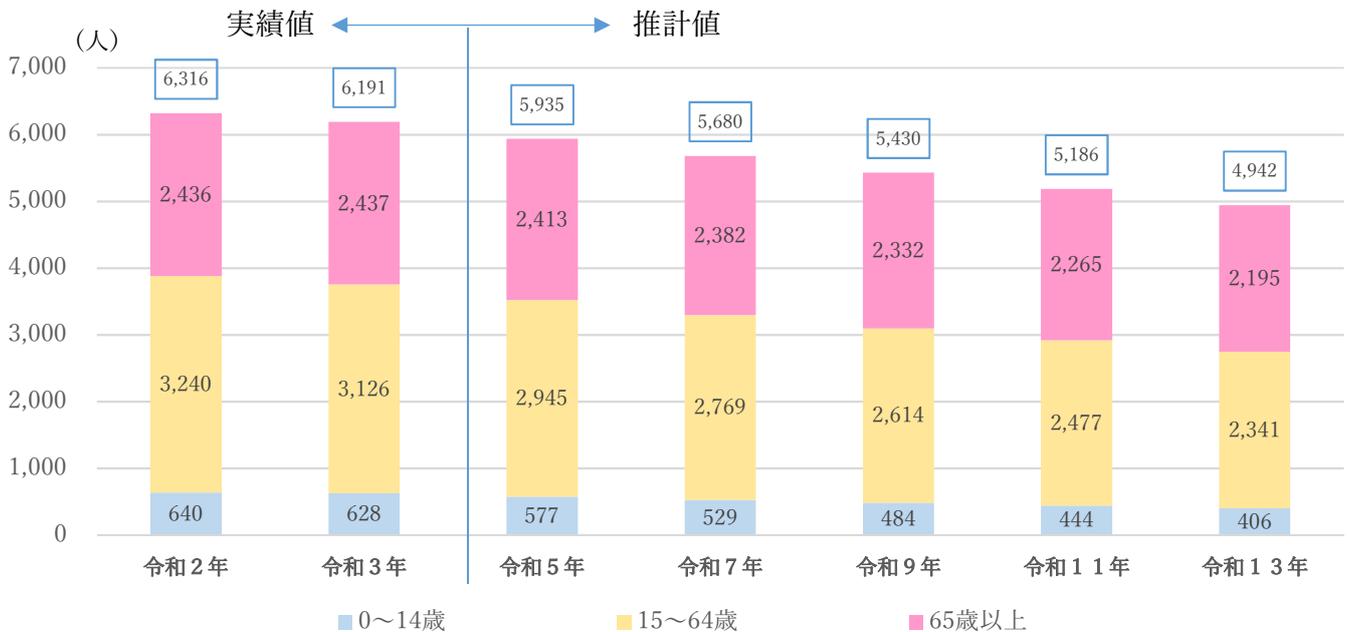
	実績値				推計値		
	平成30年	平成31年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年
総人口	72,418	72,113	71,805	71,497	71,106	70,715	70,325
高齢者人口 (65歳以上)	20,580 (28.42%)	20,720 (28.73%)	20,853 (29.04%)	20,987 (29.35%)	21,000 (29.53%)	21,014 (29.72%)	21,027 (29.90%)
生産年齢人口 (15～64歳)	42,124 (57.17%)	41,783 (57.94%)	41,440 (57.71%)	41,098 (57.48%)	40,850 (57.45%)	40,602 (57.42%)	40,355 (57.38%)
年少人口 (0～14歳)	9,714 (13.41%)	9,610 (13.33%)	9,512 (13.25%)	9,412 (13.16%)	9,256 (13.02%)	9,099 (12.87%)	8,943 (12.72%)
	推計値						
	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年	令和12年	令和13年
総人口	69,934	69,543	69,077	68,608	68,145	67,676	67,210
高齢者人口 (65歳以上)	21,037 (30.08%)	21,045 (30.26%)	20,996 (30.40%)	20,941 (30.52%)	20,890 (30.66%)	20,831 (30.78%)	20,775 (30.91%)
生産年齢人口 (15～64歳)	40,107 (57.35%)	39,861 (57.32%)	39,591 (57.31%)	39,321 (57.31%)	39,053 (57.31%)	38,785 (57.31%)	38,517 (57.31%)
年少人口 (0～14歳)	8,790 (12.57%)	8,637 (12.42%)	8,490 (12.29%)	8,346 (12.16%)	8,202 (12.04%)	8,060 (11.91%)	7,918 (11.78%)

※表（ ）内は年齢層ごとの割合を示します。

#### ④ 鹿島地区

鹿島地区では人口減少が予測されます。また、年齢階層別で見ると、いずれの年齢階層においても減少傾向にあります。そして、高齢化率については令和3年では39.36%であったものが、令和13年には44.41%まで上昇すると予測されます。

グラフ8：鹿島地区の人口の推移と推計人口の推移（令和2年～令和13年）



※グラフ内の□の数字は、総人口（人）を表しています。

表4：鹿島地区の人口の推移

(人)

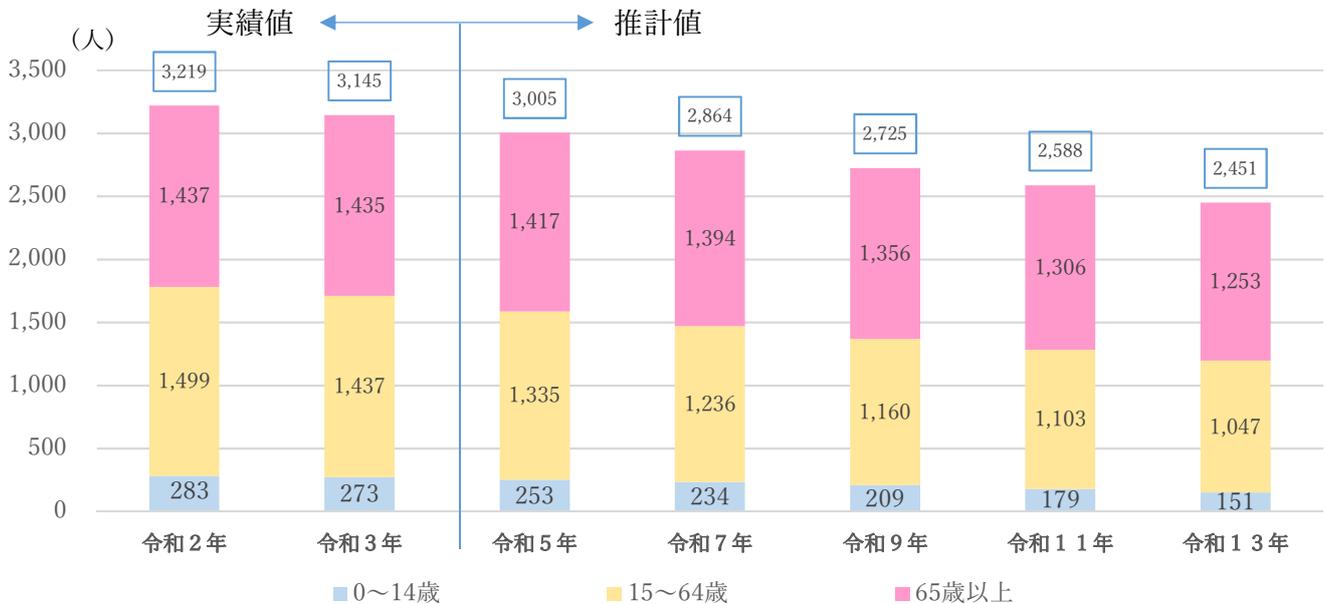
	実績値				推計値		
	平成30年	平成31年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年
総人口	6,565	6,441	6,316	6,191	6,063	5,935	5,808
高齢者人口 (65歳以上)	2,428 (36.99%)	2,433 (37.78%)	2,436 (38.57%)	2,437 (39.36%)	2,426 (40.01%)	2,413 (40.65%)	2,399 (41.30%)
生産年齢人口 (15～64歳)	3,473 (52.90%)	3,356 (52.09%)	3,240 (51.29%)	3,126 (50.49%)	3,035 (50.05%)	2,945 (49.62%)	2,856 (49.18%)
年少人口 (0～14歳)	664 (10.12%)	652 (10.12%)	640 (10.13%)	628 (10.14%)	602 (9.93%)	577 (9.72%)	553 (9.52%)
	推計値						
	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年	令和12年	令和13年
総人口	5,680	5,552	5,430	5,308	5,186	5,064	4,942
高齢者人口 (65歳以上)	2,382 (41.94%)	2,365 (42.59%)	2,332 (42.95%)	2,399 (43.32%)	2,265 (43.68%)	2,231 (44.05%)	2,195 (44.41%)
生産年齢人口 (15～64歳)	2,769 (48.75%)	2,682 (48.31%)	2,614 (48.12%)	2,545 (47.93%)	2,477 (47.74%)	2,408 (47.55%)	2,341 (47.36%)
年少人口 (0～14歳)	529 (9.31%)	505 (9.10%)	484 (8.92%)	464 (8.75%)	444 (8.57%)	425 (8.40%)	406 (8.22%)

※表（ ）内は年齢層ごとの割合を示します。

## ⑤ 島根地区

島根地区では人口減少が予測されます。また、年齢階層別でみると、いずれの年齢階層においても減少傾向にあるものの、高齢化率については令和3年では45.63%であったものが、令和13年には51.13%まで上昇すると予測されます。

グラフ9：島根地区の人口の推移と推計人口の推移（令和2年～令和13年）



※グラフ内の□の数字は、総人口（人）を表しています。

表5：島根地区の人口の推移

(人)

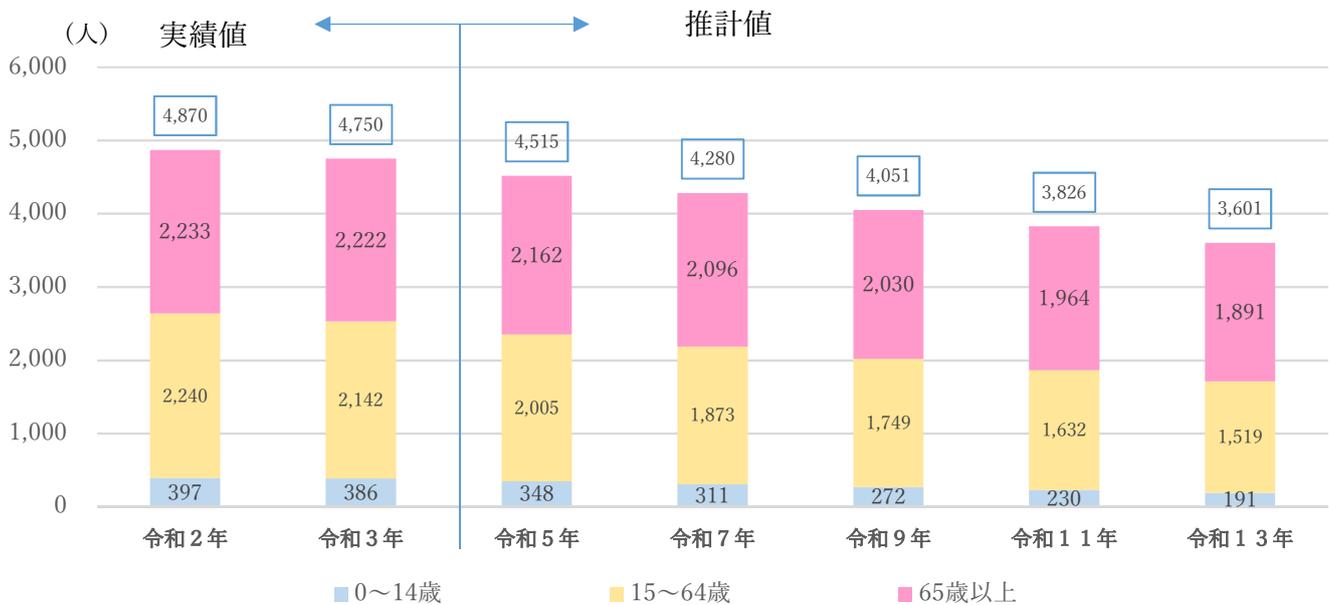
	実績値				推計値			
	平成30年	平成31年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	
総人口	3,368	3,294	3,219	3,145	3,075	3,005	2,934	
高齢者人口 (65歳以上)	1,436 (42.65%)	1,438 (43.64%)	1,437 (44.64%)	1,435 (45.63%)	1,426 (46.39%)	1,417 (47.15%)	1,406 (47.91%)	
生産年齢人口 (15～64歳)	1,629 (48.35%)	1,563 (47.47%)	1,499 (46.58%)	1,437 (45.69%)	1,386 (45.06%)	1,335 (44.43%)	1,284 (43.79%)	
年少人口 (0～14歳)	303 (9.00%)	293 (8.89%)	283 (8.79%)	273 (8.68%)	263 (8.55%)	253 (8.43%)	244 (8.30%)	
	推計値							
	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年	令和12年	令和13年	
総人口	2,864	2,794	2,725	2,657	2,588	2,520	2,451	
高齢者人口 (65歳以上)	1,394 (48.67%)	1,381 (49.43%)	1,356 (49.77%)	1,331 (50.11%)	1,306 (50.45%)	1,280 (50.79%)	1,253 (51.13%)	
生産年齢人口 (15～64歳)	1,236 (43.16%)	1,188 (42.53%)	1,160 (42.57%)	1,132 (42.60%)	1,103 (42.64%)	1,075 (42.67%)	1,047 (42.71%)	
年少人口 (0～14歳)	234 (8.18%)	225 (8.05%)	209 (7.67%)	194 (7.29%)	179 (6.92%)	165 (6.54%)	151 (6.16%)	

※表（ ）内は年齢層ごとの割合を示します。

## ⑥ 美保関地区

美保関地区では人口減少が予測されます。また、年齢階層別でみると、いずれの年齢階層においても減少傾向にあるものの、美保関地区は市内で最も高齢化率の高い地区となっており、その高齢化率は令和3年では46.78%であったものが、令和13年には52.52%まで上昇すると予測されます。

グラフ10：美保関地区の人口の推移と推計人口の推移（令和2年～令和13年）



※グラフ内の□の数字は、総人口（人）を表しています。

表6：美保関地区の人口の推移

(人)

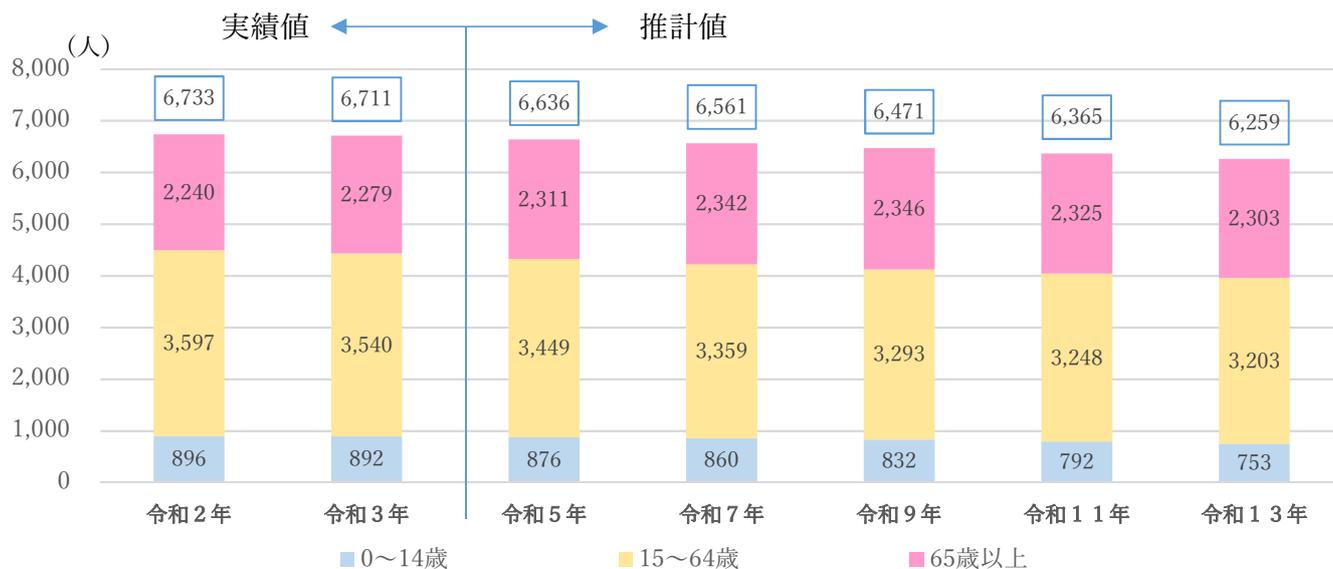
	実績値				推計値		
	平成30年	平成31年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年
総人口	5,111	4,991	4,870	4,750	4,633	4,515	4,398
高齢者人口 (65歳以上)	2,249 (44.00%)	2,242 (44.93%)	2,233 (45.85%)	2,222 (46.78%)	2,193 (47.33%)	2,163 (47.88%)	2,130 (48.42%)
生産年齢人口 (15～64歳)	2,444 (47.81%)	2,341 (46.91%)	2,240 (46.00%)	2,142 (45.09%)	2,073 (44.76%)	2,005 (44.42%)	1,939 (44.09%)
年少人口 (0～14歳)	418 (8.18%)	408 (8.17%)	397 (8.15%)	386 (8.13%)	367 (7.92%)	348 (7.70%)	329 (7.49%)
	推計値						
	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年	令和12年	令和13年
総人口	4,280	4,163	4,051	3,938	3,826	3,713	3,601
高齢者人口 (65歳以上)	2,096 (48.97%)	2,062 (49.52%)	2,030 (50.12%)	1,997 (50.72%)	1,964 (51.32%)	1,928 (51.92%)	1,891 (52.52%)
生産年齢人口 (15～64歳)	1,873 (43.75%)	1,807 (43.42%)	1,749 (43.17%)	1,691 (42.92%)	1,632 (42.67%)	1,575 (42.42%)	1,519 (42.17%)
年少人口 (0～14歳)	311 (7.27%)	294 (7.06%)	272 (6.71%)	250 (6.36%)	230 (6.01%)	210 (5.66%)	191 (5.31%)

※表（ ）内は年齢層ごとの割合を示します。

## ⑦ 八雲地区

八雲地区では人口減少が予測されます。また、年齢階層別で見ると、年少人口（0～14歳）や生産年齢人口（15～64歳）は減少傾向にあるのに対し、65歳以上の高齢者人口は増加が見込まれます。高齢化率についても令和3年では33.96%であったものが、令和13年には36.80%まで上昇すると予測されます。

グラフ11：八雲地区の人口の推移と推計人口の推移（令和2年～令和13年）



※グラフ内の□の数字は、総人口（人）を表しています。

表7：八雲地区の人口の推移

(人)

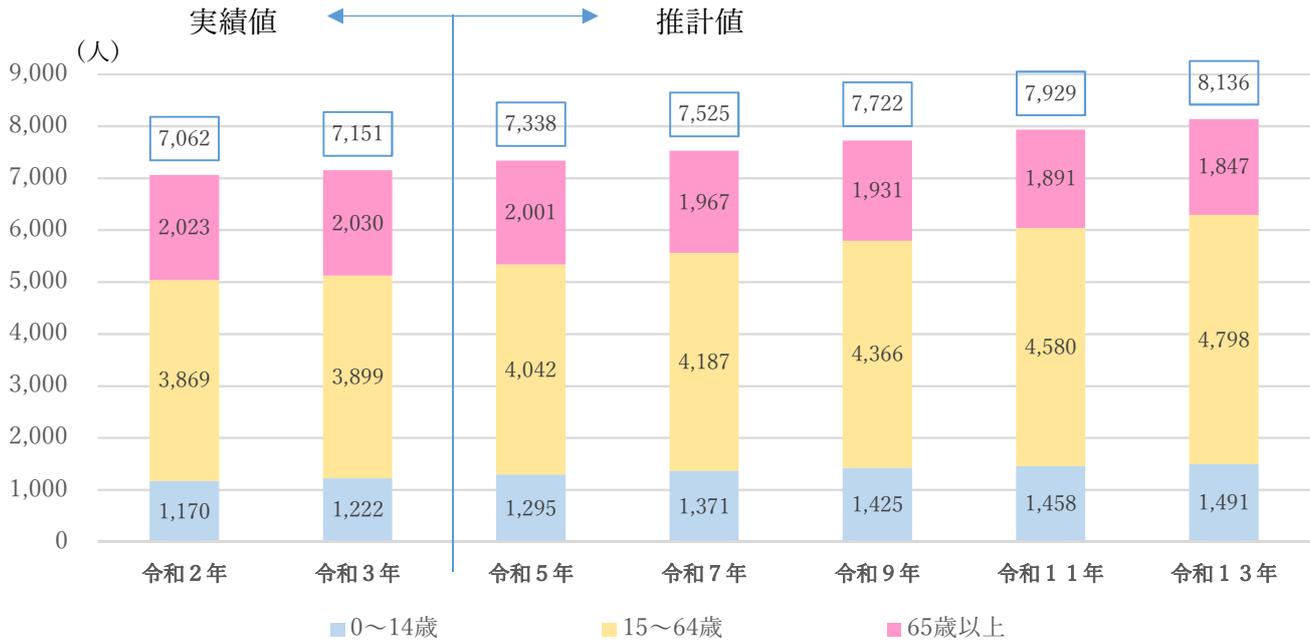
	実績値				推計値		
	平成30年	平成31年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年
総人口	6,778	6,756	6,733	6,711	6,674	6,636	6,599
高齢者人口 (65歳以上)	2,161 (31.88%)	2,200 (32.57%)	2,240 (33.27%)	2,279 (33.96%)	2,295 (34.39%)	2,311 (34.82%)	2,327 (35.26%)
生産年齢人口 (15～64歳)	3,711 (54.76%)	3,655 (54.09%)	3,597 (53.42%)	3,540 (52.75%)	3,495 (52.36%)	3,449 (51.98%)	3,404 (51.59%)
年少人口 (0～14歳)	906 (13.36%)	901 (13.34%)	896 (13.31%)	892 (13.29%)	884 (13.24%)	876 (13.20%)	868 (13.15%)
	推計値						
	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年	令和12年	令和13年
総人口	6,561	6,524	6,471	6,418	6,365	6,312	6,259
高齢者人口 (65歳以上)	2,342 (35.69%)	2,356 (36.12%)	2,346 (36.26%)	2,336 (36.39%)	2,323 (36.53%)	2,314 (36.66%)	2,303 (36.80%)
生産年齢人口 (15～64歳)	3,359 (51.21%)	3,316 (50.82%)	3,293 (50.89%)	3,270 (50.96%)	3,248 (51.03%)	3,225 (51.10%)	3,203 (51.17%)
年少人口 (0～14歳)	860 (13.11%)	852 (13.06%)	832 (12.85%)	812 (12.65%)	792 (12.44%)	773 (12.24%)	753 (12.03%)

※表（ ）内は年齢層ごとの割合を示します。

## ⑧ 玉湯地区

玉湯地区では人口増加が予測されます。また、年齢階層別でみると、年少人口（0～14歳）や生産年齢人口（15～64歳）は増加傾向にあるのに対し、65歳以上の高齢者人口は減少傾向にあります。高齢化率については令和3年では28.39%であったものが、令和13年には22.70%まで下降すると予測されます。

グラフ12：玉湯地区の人口の推移と推計人口の推移（令和2年～令和13年）



※グラフ内の□の数字は、総人口（人）を表しています。

表8：玉湯地区の人口の推移

(人)

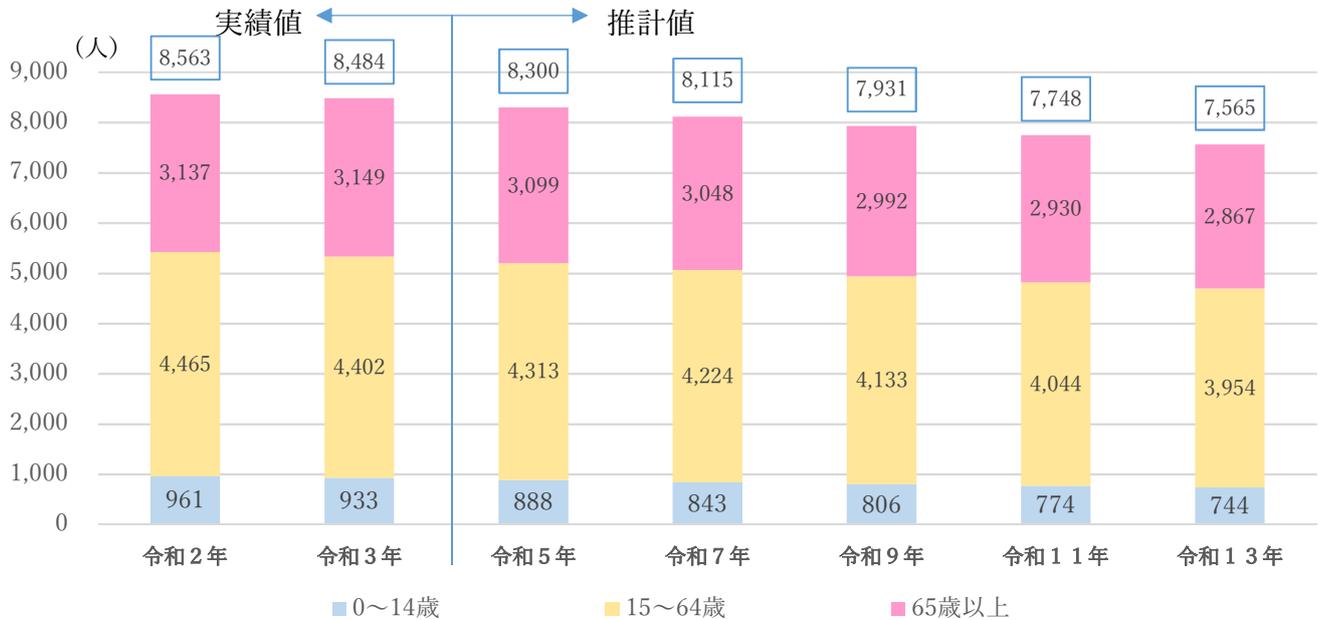
	実績値				推計値		
	平成30年	平成31年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年
総人口	6,884	6,973	7,062	7,151	7,245	7,338	7,432
高齢者人口 (65歳以上)	2,005 (29.13%)	2,014 (28.89%)	2,023 (28.64%)	2,030 (28.39%)	2,016 (27.83%)	2,001 (27.27%)	1,984 (26.70%)
生産年齢人口 (15～64歳)	3,811 (55.34%)	3,840 (55.07%)	3,869 (54.79%)	3,899 (54.52%)	3,971 (54.80%)	4,042 (55.08%)	4,115 (55.36%)
年少人口 (0～14歳)	1,068 (15.52%)	1,119 (16.05%)	1,170 (16.57%)	1,222 (17.09%)	1,258 (17.37%)	1,295 (17.65%)	1,333 (17.94%)
	推計値						
	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年	令和12年	令和13年
総人口	7,525	7,619	7,722	7,826	7,929	8,033	8,136
高齢者人口 (65歳以上)	1,967 (26.14%)	1,967 (26.14%)	1,931 (25.00%)	1,912 (24.43%)	1,891 (23.85%)	1,870 (23.28%)	1,847 (22.70%)
生産年齢人口 (15～64歳)	4,187 (55.64%)	4,187 (55.92%)	4,366 (56.53%)	4,472 (57.14%)	4,580 (57.76%)	4,688 (58.37%)	4,798 (58.98%)
年少人口 (0～14歳)	1,371 (18.22%)	1,410 (18.50%)	1,425 (18.46%)	1,442 (18.43%)	1,458 (18.39%)	1,475 (18.36%)	1,491 (18.32%)

※表（ ）内は年齢層ごとの割合を示します。

## ⑨ 宍道地区

宍道地区では人口減少が予測されます。また、年齢階層別で見ると、いずれの年齢階層においても減少傾向にあるものの、高齢化率については令和3年では37.12%であったものが、令和13年には37.90%まで上昇すると予測されます。

グラフ13：宍道地区の人口の推移と推計人口の推移（令和2年～令和13年）



※グラフ内の□の数字は、総人口（人）を表しています。

表9：宍道地区の人口の推移

(人)

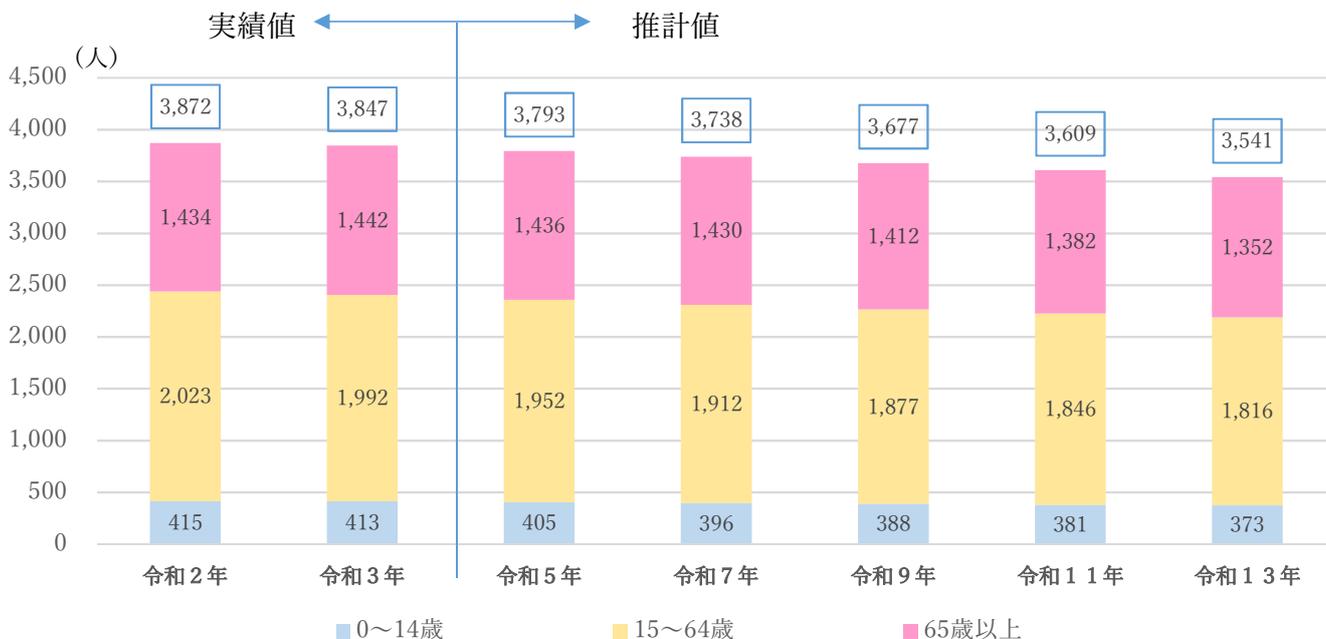
	実績値				推計値		
	平成30年	平成31年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年
総人口	8,722	8,643	8,563	8,484	8,392	8,300	8,207
高齢者人口 (65歳以上)	3,109 (35.65%)	3,124 (36.14%)	3,137 (36.63%)	3,149 (37.12%)	3,124 (37.23%)	3,099 (37.34%)	3,074 (37.45%)
生産年齢人口 (15～64歳)	4,597 (52.71%)	4,531 (52.43%)	4,465 (52.16%)	4,402 (51.89%)	4,357 (51.93%)	4,313 (51.97%)	4,268 (52.00%)
年少人口 (0～14歳)	1,016 (11.65%)	988 (11.43%)	961 (11.22%)	933 (11.00%)	911 (10.85%)	888 (10.70%)	865 (10.54%)
	推計値						
	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年	令和12年	令和13年
総人口	8,115	8,023	7,931	7,840	7,748	7,657	7,565
高齢者人口 (65歳以上)	3,048 (37.56%)	3,022 (37.67%)	2,992 (37.72%)	2,960 (37.76%)	2,930 (37.81%)	2,898 (37.85%)	2,867 (37.90%)
生産年齢人口 (15～64歳)	4,224 (52.04%)	4,179 (52.08%)	4,133 (52.12%)	4,090 (52.16%)	4,044 (52.19%)	4,000 (52.23%)	3,954 (52.27%)
年少人口 (0～14歳)	843 (10.39%)	822 (10.24%)	806 (10.16%)	790 (10.08%)	774 (9.99%)	759 (9.91%)	744 (9.83%)

※表（ ）内は年齢層ごとの割合を示します。

## ⑩ 八束地区

八束地区では人口減少が予測されます。また、年齢階層別で見ると、いずれの年齢階層においても減少傾向にあるものの、高齢化率については令和3年では37.48%であったものが、令和13年には38.19%まで上昇すると予測されます。

グラフ14：八束地区の人口の推移と推計人口の推移（令和2年～令和13年）



※グラフ内の□の数字は、総人口（人）を表しています。

表10：八束地区の人口の推移

(人)

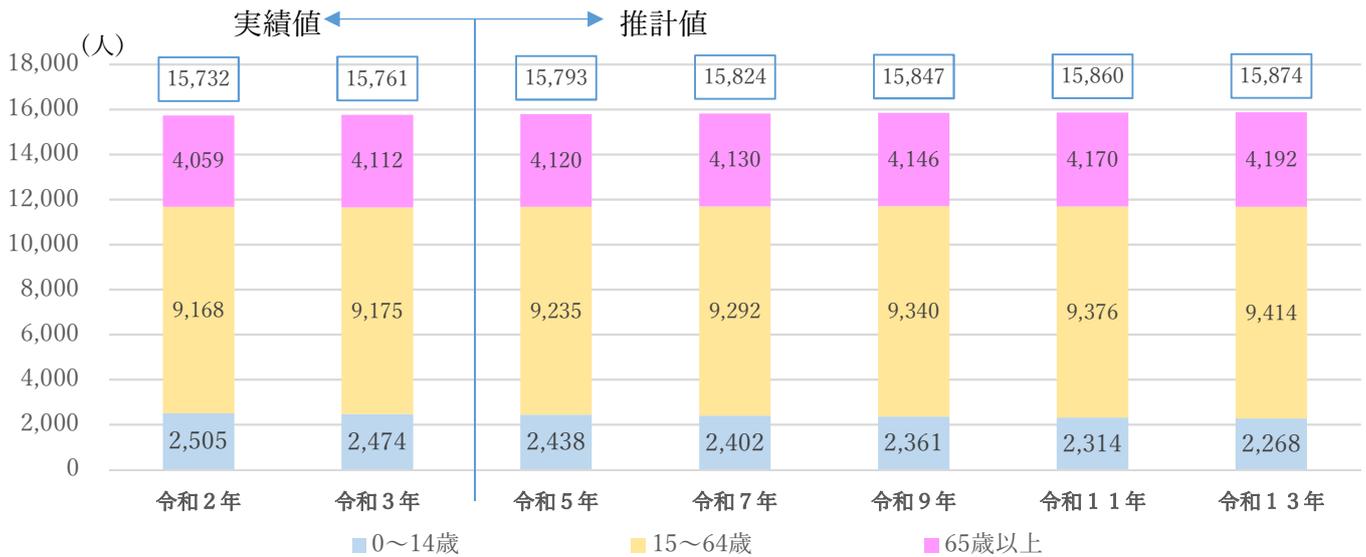
	実績値				推計値		
	平成30年	平成31年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年
総人口	3,923	3,897	3,872	3,847	3,820	3,793	3,765
高齢者人口 (65歳以上)	1,418 (36.15%)	1,426 (36.59%)	1,434 (37.04%)	1,442 (37.48%)	1,439 (37.67%)	1,436 (37.86%)	1,433 (38.06%)
生産年齢人口 (15～64歳)	2,084 (53.14%)	2,053 (52.68%)	2,023 (52.23%)	1,992 (51.78%)	1,972 (51.62%)	1,952 (51.47%)	1,932 (51.31%)
年少人口 (0～14歳)	421 (10.70%)	418 (10.72%)	415 (10.73%)	413 (10.74%)	409 (10.70%)	405 (10.67%)	400 (10.63%)
	推計値						
	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年	令和12年	令和13年
総人口	3,738	3,711	3,677	3,643	3,609	3,575	3,541
高齢者人口 (65歳以上)	1,430 (38.25%)	1,427 (38.44%)	1,412 (38.39%)	1,397 (38.34%)	1,382 (38.29%)	1,367 (38.24%)	1,352 (38.19%)
生産年齢人口 (15～64歳)	1,912 (51.16%)	1,892 (51.00%)	1,877 (51.05%)	1,862 (51.11%)	1,846 (51.16%)	1,831 (51.22%)	1,816 (51.27%)
年少人口 (0～14歳)	396 (10.60%)	392 (10.56%)	388 (10.56%)	384 (10.55%)	381 (10.55%)	377 (10.54%)	373 (10.54%)

※表（ ）内は年齢層ごとの割合を示します。

## ⑪ 東出雲地区

東出雲地地区は人口増加が予測されます。また、年齢階層別で見ると、年少人口（0～14歳）は減少傾向にあるのに対し、生産年齢人口（15～64歳）及び65歳以上の高齢者人口は増加が見込まれます。高齢化率についても令和3年では26.09%であったものが、令和13年には26.41%まで上昇すると予測されます。

グラフ 15：東出雲地域の人口の推移と推計人口の推移（令和2年～令和13年）



※グラフ内の□の数字は、総人口（人）を表しています。

表 11：東出雲地域の人口の推移

(人)

	実績値				推計値			
	平成30年	平成31年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	
総人口	15,673	15,702	15,732	15,761	15,777	15,793	15,808	
高齢者人口 (65歳以上)	3,953 (25.22%)	4,006 (25.51%)	4,059 (25.80%)	4,112 (26.09%)	4,116 (26.09%)	4,120 (26.09%)	4,126 (26.10%)	
生産年齢人口 (15～64歳)	9,157 (58.43%)	9,163 (58.36%)	9,168 (58.28%)	9,175 (58.21%)	9,205 (58.34%)	9,235 (58.47%)	9,262 (58.59%)	
年少人口 (0～14歳)	2,563 (16.35%)	2,533 (16.13%)	2,505 (15.92%)	2,474 (15.70%)	2,456 (15.57%)	2,438 (15.44%)	2,420 (15.31%)	
	推計値							
	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年	令和12年	令和13年	
総人口	15,824	15,840	15,847	15,854	15,860	15,867	15,874	
高齢者人口 (65歳以上)	4,130 (26.10%)	4,134 (26.10%)	4,146 (26.16%)	4,157 (26.22%)	4,170 (26.29%)	4,181 (26.35%)	4,192 (26.41%)	
生産年齢人口 (15～64歳)	9,292 (58.72%)	9,322 (58.85%)	9,340 (58.94%)	9,359 (59.03%)	9,376 (59.12%)	9,395 (59.21%)	9,414 (59.30%)	
年少人口 (0～14歳)	2,402 (15.18%)	2,384 (15.05%)	2,361 (14.90%)	2,338 (14.75%)	2,314 (14.59%)	2,291 (14.44%)	2,268 (14.29%)	

※表（ ）内は年齢層ごとの割合を示します。

## 松江市消防団に関するアンケート調査結果

### 目次

I. 調査概要 .....	1
1. 調査方法 .....	1
2. 調査結果の概要 .....	2
3. 考察 .....	7
II. 調査結果 .....	12
1. 市民 .....	12
2. 消防団員 .....	23
3. 方面団 .....	47
4. 女性分団 .....	58

令和3年11月

松江市消防本部消防総務課

## I. 調査概要

### 1. 調査方法

#### (1) 市民

- 調査対象：住民基本台帳から無作為抽出した 18 歳以上の松江市民 2,000 人
- 調査方法：郵送による配布・回収及びインターネットを活用
- 調査期間：令和 3 年 9 月 2 日～13 日
- 有効回答数：777 件(回答率 38.85%)  
※郵送 614 件（79%）、インターネット 163 件（21%）

#### (2) 消防団員

- 調査対象：松江市消防団に所属するすべての団員 2,009 人
- 調査方法：郵送による配布・回収及びインターネットを活用
- 調査期間： 令和 3 年 9 月 2 日～13 日
- 有効回答数： 1,118 件(回答率 55.65%)  
※郵送 736 件（66%）、インターネット 382 件（34%）

#### (3) 方面団・女性分団

- 調査対象：松江市消防団に所属する 10 方面団及び女性分団
- 調査方法：郵送による配布・回収
- 調査期間： 令和 3 年 9 月 2 日～13 日
- 有効回答数： 11 件(回答率 100%)

## 2. 調査結果の概要

### (1) 市民

#### 1) 回答者の属性

性別	男性6割、女性4割
年齢	60歳代以上が4割で、30歳代以下と40～50歳代が3割
職業	会社員が40%、無職が16%
居住年数	20年以上が、全体の8割
居住地域	橋北及び橋南が約17%、その他の地域は7～9%

#### 2) 防災について

情報収集手段（問1）	テレビ、スマートフォン・携帯電話が約8割
不安な災害（問2）	地震が約6割と最も多く、次いで火災、土砂災害、原子力、洪水が4割以上
災害の備え（問3）	懐中電灯・電池・携帯バッテリーが約8割と最も多く、次いで住宅用火災警報器、ハザードマップ・避難場所の確認、非常食・水、消火器具が約4割。

#### 3) 消防団の組織について

消防団・自主防災組織の入団・参加（問4・5）	消防団への入団経験者が本人・家族ともに16%、自主防災組織の参加経験者が本人17%、家族11%。
消防団組織の認知度（問6・7）	消防団の名前を知っている人は86%、地域の消防団を知っているのは半数。若年齢ほど認知度が低く、地域別では橋北、橋南、東出雲が低い。

#### 4) 消防団の活動について

消防団の主な活動（問8）	火災の消火活動（85%）、定期巡回、訓練、防災活動（約5割）を主な活動と認識している。
地元の消防団の評価（問9）	「必要不可欠・必要」が65%。30歳代以下で「わからない」が45%。島根、美保関、玉湯、宍道で「必要不可欠」が多く、橋北、橋南、東出雲で「わからない」が多い。
消防団の必要性（問10）	「必要・どちらかといえば必要」が8割であり、高年齢ほど高く、鹿島、島根、玉湯、宍道、八束で必要性を強く感じている。必要な理由として「災害時に必要、初期消火・対応、地域に詳しい・必要、高齢者が多い」、必要でない（わからない）理由として「消防署がある、活動内容が不明、活動をみたことがない」が多い。
消防団への期待（問11）	「火災の消火活動」が約8割、「地震、風水害の防災活動」「避難誘導」が5割。

## 5) 消防団への加入について

消防団への興味 (問 12)	「興味がある・どちらかといえば興味がある」が 28%、「あまり興味がない・興味がない」が 51%で、30 歳代以下で「興味がない」の割合が 40%と高い。鹿島、島根、美保関、八束で興味がある割合が高く、橋北、橋南、玉湯で興味のない割合が高い。
入団 (問 13)	「入団を考える」が 6.8%、「考えない」が 69.1%であった。40～50 歳代で「考える」が、30 歳代以下では「わからない」の割合が高い。入団を考える理由として「地域貢献」、考えない理由として「年齢・性別、仕事、体力、忙しい」、わからない理由として「年齢・性別、仕事、活動内容が不明」が多かった。
地域防災への協 (問 14)	地域防災へ協力したいと思っている人は 87%。

## (2) 消防団員

### 1) 回答者の属性

年齢	40 歳代が 4 割、30 歳代以下と 50 歳代以上が 3 割
職業	会社員が 7 割、自営・自由業が 12%、公務員・団体職員が 10%。 会社員の割合は若年齢ほど高く、所属別では、鹿島、宍道が高い。
居住年数	20 年以上が、全体の 8 割
所属（方面団）	橋北が 18%と最も多く、次いで美保関、宍道が 12%

### 2) 団員活動について

入団動機 (問 1)	「団員・元団員に誘われて」が全体の約 7 割、「地域の慣習」が 2 割。50 歳代以上、橋北、八雲、宍道で「地域の慣習」が多い。
入団後の感想 (問 2)	「多くの人と知り合え良かった」「防災知識技術が身についた」など肯定的な感想が多い。島根、八雲、玉湯、宍道、八束で否定的な感想（本業に支障、報酬・手当が少ない、家族に負担）が多い。
家族や職場の理解 (問 3)	家族より職場、災害対応より訓練・行事に対する理解が低い。高年齢ほど家族・職場の理解が高い。訓練・行事に対する家族の理解が、島根、美保関で高く、玉湯、宍道で低い。災害対応に対する職場の理解が島根、美保関、宍道で高く、玉湯、八束で低い。訓練・行事に対する職場の理解が、玉湯、八束、東出雲で低い。
平日昼間の出勤 (問 4)	「できる・ほぼできる」が 43%、「ほぼできない・できない」が 56%。 50 歳代以上、島根、八雲、玉湯でできる人が多く、橋南、鹿島、美保関、八束でできない人が多い。
やりがい (問 5)	「消火活動」「水防等防災活動」「日常の警戒（巡回）」が 4 割以上。50 歳代以上で各項目の割合が高く、所属別では項目により違う。

### 3) 消防団のあり方について

現在の課題 (問 6)	「分団(班)の人数の減少」「高齢化」「活動時に団員が集まらない」の順に多い。玉湯で「人数の減少」が9割と高く、「高齢化」が鹿島、美保関、宍道、「活動時に集まらない」が玉湯、島根、「資機材の老朽化」が島根・八束の割合が高い。
課題解決 (問 7)	「報酬、待遇の改善」「活動回数の見直し」「行政からの地域への働きかけ」「枠組みの見直し」が多い。30歳代以下で「報酬、待遇改善」、島根、八雲で「報酬、待遇の改善」、橋南、玉湯、宍道、東出雲で「行政からの地域への働きかけ」、鹿島、美保関で「枠組みの見直し」が多い。

### 4) 組織体制について

班(分団)の団員数(問 8)	「多い～妥当」が58%。橋北、八束、東出雲で「多い～妥当」、玉湯、橋南、鹿島で「やや少ない～少ない」の割合が高い。
枠組み見直しの必要性(問 9)	「はい」が若干多く、年代が高いほど「はい」が多く、橋南、島根、美保関、玉湯で「はい」が多い。
見直しが必要な理由(問 10)	「団員数の減少」「高齢化」「昼間消防力の低下」の順に多く、若年齢ほど「過疎化」が多い。橋北、島根、八束で「昼間消防力の低下」が7割以上、島根、美保関、八束で「過疎化」が6割以上。
統合の方法(問 11)	「近隣の班(分団)との統合」が6割、「公民館に合わせた統合」が2割。橋北・橋南で「近隣の班(分団)」と「公民館」が約4割。その他の所属で「近隣の班(分団)」が約7割。

### 5) 行事について

負担な行事・活動(問 12)	「操法訓練・大会」が8割以上、「出初式」が5割。八雲で「操法訓練・大会」が93%、宍道で「その他の訓練」が47%、八束で「会議参加」が40%と他の所属より多い。
行事・活動を変える必要性(問 13)	「操法大会の改革」が75%、「出初式等の行事の改革」が52%、「行事、活動回数の見直し」が42%。「操法大会」が橋南、八雲、東出雲で8割以上、「回数の見直し」が鹿島、宍道で5割以上。

### 6) 報酬・待遇について

年報酬額、費用弁償金額の周知(問 14)	知っている人が65%で、高年齢ほど多い。鹿島、島根、八雲、東出雲で知らない人が多い。
改善の必要性(問 15)	「はい」が60%で、若年齢ほど多い。鹿島、玉湯、八束の順に「はい」が多い。

### 7) 車両、機庫及び装備について

資機材、個人貸与品の改善の必要性(問 16)	「いいえ」が72%で、若年齢ほど多い。八雲、玉湯で「はい」が多い。
------------------------	-----------------------------------

具体的な改善内容 (問 17)	長靴、活動着、防寒着、雨具等の個人装備 (54%)、ポンプ・ホース等の資機材 (26%)、車両のオートマ化、エアコン装備等の車両関係 (22%)。
--------------------	---

#### 8) 消防団員の確保について

今後の新入団員の確保 (問 18)	「今は確保しているが今後は難しい」「現状もできていない」が共に4割。玉湯で「現状もできていない」が73%。
勧誘が行いやすくなる対策 (問 19)	「報酬等のメリットを周知」「自治会、公民館との連携」が5割以上。40歳代以下が「報酬等」、50歳代以上が「自治会連携」が多い。橋北、橋南、玉湯、宍道、東出雲で「自治会連携」、橋南、玉湯、鹿島、東出雲で「事業者への働きかけ」が多い。

#### 9) 家族の考えについて

家族の活動に対する考え(問 19)	「災害時が心配」「地域とのつながりができる」「地域に対する貢献が大きい」の順に5割以上。30歳代以下で「家族の時間を取られ負担」が多く、地域とのつながりや貢献が少ない。八束で「地域とのつながり」、島根で「地域貢献」、玉湯、宍道で「家族の時間を取られ負担」が多い。
-------------------	---

### (3) 方面団

#### 1) 活動のあり方について

活動の現状（問1）	「適切・どちらかといえば適切」が9件。
活動上の課題（問2）	「昼間消防力の低下」が9件。「団員数の減少、高齢化」が半数以上。
課題への対策（問3）	「消防団について積極的なPR」が8件、「報酬・待遇の改善」「国・市による財政支援の拡充」が6件。

#### 2) 行事について

行事の現状（問4）	「適切・どちらかといえば適切」が8件。
行事上の課題（問5）	「団員数の減少」「活動時に団員が集まらない」が5件、「高齢化」が4件。
課題への対策（問6）	「団員増加」「行事改革」「回数見直し」が各4件。

#### 3) 報酬・待遇について

改善の必要性（問7）	「必要と思う」が9件。
支払方法の改善（問8）	「必要と思わない」が7件。

#### 4) 車両、機庫及び装備について

車両（車種・配置）の改善の必要性・内容（問9・10）	「必要と思う」が4件。軽車両、オートマチック化等。
機庫（種類・配置）の改善の必要性・内容（問11・12）	「必要と思う」が5件。老朽化、トイレ、自治会との関連等。
資機材（種類・配置）の改善の必要性・内容（問13・14）	「必要と思う」が6件。雨具、水害時の資機材不足等。

#### 5) 団員の確保・勧誘について

今後の確保（問15）	「今は確保しているが今後は難しい」、「現状もできていない」がそれぞれ4件。
確保・勧誘のための方策（問16）	「自治会、公民館との連携」が9件、「周知のための情報発信」が8件、「報酬等のメリットの周知」が5件。

#### 6) 組織体制について

構成及び団員数（問17）	「適当」が9件。
統合・再編の必要性（問18）	「必要と思う」が7件。
統合等の方法（問19）	「近隣の班（分団）」が5件、「公民館区」が2件。

#### 7) 自治会・公民館との連携について

連携の内容（問20）	「地域の防災訓練支援」が7件、「自主防災組織との連携等による地域防災体制の確認」「災害時の捜索・救助」が6件
------------	--

#### 8) 団員育成・技術向上について

取組の内容（問21）	「消防操法訓練」が7件、「救助訓練」が4件、「消防本部による指導」「消防団間の意見交換」が2件。
課題（問22）	「教育訓練の機会が少ない」が5件、「消防団員間の意見交換の機会が少ない」が4件、「参加者が少ない」が3件。

### 3. 考察

市民アンケートでは、消防団組織はある程度周知されているが、地元の組織を知らない割合が若年齢や市街地が多い。また、消防団に興味がない人が半数で、勧誘されれば入団を考える人が1割であった。

これらの課題への対策としては、消防団の活動内容等の情報提供・PRを強化し、講習会・訓練等を通して地域と連携する等の意見があった。

消防団アンケートでは、新規団員の確保が団員の負担になっており、地域（自治会、公民館等）や職場（地元事業者）との連携の強化が必要との意見が多かった。平日昼間の出勤ができる体制の整備には、職場への活動の周知及びメリットの付加、組織体制（枠組み）の見直し等の意見があった。また、団員確保のためには、報酬・待遇の周知・改善を求める声が多かった。操法大会を負担に感じ、改革を求める意見は特に多く、早急に対応することで、団員確保につながる可能性がある。

#### (1) 市民

【課題①】消防団組織は必要と認識されているが、地元の組織や具体的な活動について、若い世代や市街地住民がよくわかっていない。
<ul style="list-style-type: none"><li>● 8割以上が消防団の存在を知っており、必要だと思っている。〈問 6、10〉</li><li>● 地元の消防団を具体的に知っているのは半数。若年齢や市街地（橋北、橋南、東出雲）で知らない割合が高い〈問 7〉。</li><li>● 消防団の活動に対して、近年災害のあった島根、玉湯で、必要不可欠と考えている割合が高く、若年齢や市街地（橋北、橋南、東出雲）で必要かどうかわからない割合が高い。〈問 9〉</li></ul>
<対策> 消防団の活動内容等の情報提供、PRを強化する。
<ul style="list-style-type: none"><li>● 活動内容を SNS で発信。年配には広報誌等で。〈自由記述：PR〉</li><li>● 地元消防団の役割は何か、小学生でもわかるように宣伝。〈自由記述：PR〉</li></ul>
【課題②】半数の人が消防団に興味がなく、入団を考える人が1割未満。
<ul style="list-style-type: none"><li>● 消防団に多少興味がある人が3割、あまり興味がない人が5割。若い人ほど興味がない人が多い。〈問 12〉</li><li>● 消防団への入団を考える人は7%、考えない人が69%〈問 13〉</li></ul>
<対策> 地域と連携し、防災に関する講習会・訓練等を実施する。
<ul style="list-style-type: none"><li>● 防火・防災等について町内会及び町内高齢者グループに出前講習を開催する。〈自由記述：講習・訓練〉</li><li>● 20年前は消火器を使った訓練、消火栓を使った水出し訓練をやっていた〈自由記述：地域との関わり〉</li></ul>

## (2) 消防団員

【課題①】新規団員の確保が団員に委ねられている
● 団員・元団員による勧誘が7割。地域の慣習が2割<問1>
<対策>地域（自治会、公民館等）や職場（地元事業者）との連携を強化する。
● 勧誘が行いやすくなる対策として、「自治会、公民館との連携」が多い。所属別では、橋北、橋南、玉湯、宍道、東出雲で割合が高い<問19>
● 勧誘が行いやすくなる対策として、橋南、玉湯、鹿島、東出雲で「地元事業者への働きかけ」の割合が高い。<問19>
【課題②】平日昼間の出勤ができない人が半数以上
● 「できる・ほぼできる」43%、「ほぼできない・できない」56%。島根、八雲、玉湯でできる人が多く、橋南、鹿島、美保関、八束でできない人が多い。<問4>
● 鹿島は会社員の割合が高く、出勤が困難な可能性がある。<問4>
● 災害対応に対する職場の理解は島根、宍道、美保関で高く、玉湯、八束で低い。<問3>
● 「団員のサラリーマン化による昼間消防力の低下」を組織体制の見直しが必要な理由としているのが、橋北、八束<問10>。
<対策①>職場に活動を周知し、メリットを検討する
● 勧誘が行いやすくなる対策として、橋南、玉湯、鹿島、東出雲で「地元事業者への働きかけ」の割合が高い。<問19>
● 企業・職場に活動や消防団への理解をしてほしい。協力事業所制度を徹底してほしい<自由記述：企業・職場の協力>
<対策②>地域ごとに班（分団）との統合・公民館に合わせた統合を検討
● 消防団員の課題解決に「分団(班)の統合等枠組みの見直し」の選択が多い。<問7>
● 「分団（班）の統合等枠組みの見直し」が多い。橋北・橋南では、「近隣の班（分団）との統合」と「公民館に合わせた統合」が共に約4割、その他地域では、約7割が「近隣の班（分団）との統合」を理想と考えている。<問11>

<p>【課題③】団員の確保（団員の減少、高齢化）、活動参加者が少ない</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 消防団の現在の課題は、「分団（班）の人数の減少」、「高齢化」、「活動時に団員が集まらない」の順に割合が高い。〈問 6〉</li> <li>● 団員確保について「今は確保しているが今後は難しい」、「現状もできていない」が共に4割。〈問 18〉</li> </ul>
<p>&lt;対策①&gt;報酬・待遇の周知・改善</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 消防団の現在の課題解決に「報酬・待遇の改善」が最も多かった。〈問 7〉</li> <li>● 30歳代以下の半数が報酬額・費用弁償金額を知らず、6割以上が改善を必要と考えている。〈問 14・15〉</li> <li>● 勧誘が行いやすくなる対策として、報酬等のメリット周知が最も多い。〈問 17〉</li> </ul>
<p>&lt;対策②&gt;地域ごとに班（分団）との統合・公民館に合わせた統合を検討《前掲》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 消防団員の課題解決に「分団（班）の統合等枠組みの見直し」の選択が多い。〈問 7〉</li> <li>● 橋北・橋南では、「近隣の班（分団）との統合」と「公民館に合わせた統合」が共に約4割、その他地域では、約7割が「近隣の班（分団）との統合」を理想と思っている。〈問 11〉</li> </ul>
<p>&lt;対策③&gt;自治会、公民館との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 消防団員の課題解決に「行政からの地元や地域の働きかけ」の選択が多い。〈問 7〉</li> <li>● 勧誘が行いやすくなる対策として、自治会、公民館との連携が多い。〈問 19〉</li> </ul>
<p>&lt;対策④&gt;活動回数等の見直し</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 消防団員の課題解決に「訓練・行事等の活動回数の見直し」の選択が多い。〈問 7〉</li> <li>● 勧誘が行いやすくなる対策として、自治会、公民館との連携が多い。〈問 19〉</li> </ul>
<p>【課題④】操法大会、出初式が負担となっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 負担に感じている行事・活動は「操法訓練・大会」が8割以上、「出初式」が5割であり、八雲で「操法訓練・大会」が93%、〈問 12〉</li> </ul>
<p>&lt;対策&gt;操法大会・出初式の改革</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 改革の必要性として、「操法大会の改革」が75%、「出初式等の行事の改革」が52%。〈問 13〉</li> <li>● 大会の訓練が厳しすぎるから誰も入団したいと思わない。〈自由記述：操法〉</li> </ul>

### (3) 所属別の現状・課題

所 属	現 状 ・ 課 題
橋北	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 地元消防団を知らず、必要かどうかわからない人が多い。&lt;市民 7・9&gt;</li> <li>● 入団後、防災知識・技術が身についたと感じる人が多い。&lt;団員 2&gt;</li> <li>● 昼間消防力の低下のため、枠組み（班・分団または公民館ごと）を見直す必要があると考える人が多い。&lt;団員 10・11&gt;</li> <li>● 自治会、公民館との連携による団員の勧誘を望む人が多い。&lt;団員 19&gt;</li> </ul>
橋南	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 地元消防団を知らず、必要かどうかわからない人が多い。&lt;市民 7・9&gt;</li> <li>● 平日昼間の出動が困難な人が多い。&lt;団員 4&gt;</li> <li>● 団員数が少なく、枠組み（班・分団または公民館ごと）を見直す必要があると考える人が多い。&lt;団員 8・9・11&gt;</li> <li>● 行政から地域への働きかけが必要で、自治会、公民館との連携、及び地元事業者への働きかけによる団員の勧誘を望む人が多い。&lt;団員 7・19&gt;</li> </ul>
鹿島	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 会社員の割合が高く、平日昼間の出動が困難な人が多い。&lt;団員 4&gt;</li> <li>● 人数の減少、高齢化が課題であり、解決のために枠組みを見直す必要があると考える人が多い。&lt;団員 6・7&gt;</li> <li>● 報酬額等を知らず、改善が必要と思う人が多い。&lt;団員 14・15&gt;</li> <li>● 報酬等のメリットの周知、及び地元事業者への働きかけによる団員の勧誘を望む人が多い。&lt;団員 19&gt;</li> </ul>
島根	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 消防団の活動を必要不可欠と考えている人が多い。&lt;市民 9&gt;</li> <li>● 入団後、人から喜ばれやりがいを感じている人が多く、地域に対する貢献が大きいと考える家族が多い。&lt;団員 2・20&gt;</li> <li>● 報酬・手当が少ないと感じている人が多く、解決に向けて「報酬、待遇改善」を挙げる人が多い。&lt;団員 2・7&gt;</li> <li>● 訓練・行事に対する家族の理解、災害対応に対する職場の理解が高い。&lt;団員 3&gt;</li> <li>● 過疎化により枠組み（班、分団）を見直す必要があると考える人が多い。&lt;団員 9・10・11&gt;</li> </ul>
美保関	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 消防団の活動を必要不可欠と考えている人が多い。&lt;市民 9&gt;</li> <li>● 入団後、防災知識・技術が身についた、人から喜ばれやりがいを感じている人が多い。&lt;団員 2&gt;</li> <li>● 訓練・行事に対する家族の理解、災害対応に対する職場の理解は高いが、平日昼間の出動が困難な人が多い。&lt;団員 3・4&gt;</li> <li>● 過疎化により枠組みを見直す必要があると考える人が多い。&lt;団員 9・10・11&gt;</li> </ul>

所 属	現状・課題
八雲	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 報酬が少ないと感じ、解決には報酬、待遇改善を挙げる人が多く、報酬等メリットの周知による団員の勧誘を望む人が多い。&lt;団員 2・7・19&gt;</li> <li>● 平日昼間の出勤が可能な人が多い。&lt;団員 4&gt;</li> <li>● 操法訓練・大会を負担に感じ、改革する必要があると考える人が特に多い。&lt;団員 12・13&gt;</li> <li>● 資機材・個人貸与品の改善を必要と考える人が多い。&lt;団員 16&gt;</li> </ul>
玉湯	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 消防団の活動を必要不可欠と考えている人が多い。&lt;市民：問 9&gt;</li> <li>● 入団後、多くの人と知り合えてよかった、本業に支障があると感じている人が多い。&lt;団員 2&gt;</li> <li>● 家族に負担をかけていると感じている人が多く、時間を取られて負担に感じている家族も多い。&lt;団員 2・20&gt;</li> <li>● 職場の理解が低いが、平日昼間の出勤が可能な人が多い。&lt;団員 3・4&gt;</li> <li>● 人数の減少及び活動時に集まらないことが課題であり、団員の確保が現状もできておらず、団員数の減少により枠組み（分団、班）を見直す必要があると考える人が多い。&lt;団員 6・9・10・18&gt;</li> <li>● 資機材・個人貸与品の改善を必要と考える人が多い。&lt;団員 16&gt;</li> <li>● 課題解決には行政から地域への働きかけが必要と考え、自治会、公民館との連携、及び地元事業者への働きかけによる団員の勧誘を望む人が多い。&lt;団員 7・19&gt;</li> </ul>
宍道	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 消防団の活動を必要不可欠と考えている人が多い。&lt;市民 9&gt;</li> <li>● 入団後、家族に負担をかけていると感じている人が多く、時間を取られて負担に感じている家族も多い。&lt;団員 2・20&gt;</li> <li>● 災害対応に対する職場の理解が高く、訓練・行事に対する家族の理解が低い。&lt;団員 3&gt;</li> <li>● 課題解決には、行政から地域への働きかけが必要と考える人が多い&lt;団員 7&gt;</li> </ul>
八束	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 職場の理解が低く、平日昼間の出勤が困難な人が多い。&lt;団員 3・4&gt;</li> <li>● 団員数の減少、昼間消防力の低下及び過疎化のため、枠組み（班・分団）を見直す必要があると考える人が多い。&lt;団員 10・11&gt;</li> <li>● 報酬等のメリットの周知による団員の勧誘を望む人が多い。&lt;団員 19&gt;</li> </ul>
東出雲	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 地元消防団を知らず、必要かどうかわからない人が多い。&lt;市民 7・9&gt;</li> <li>● 災害対応に対する職場の理解が低い。&lt;団員 3&gt;</li> <li>● 課題解決には行政から地域への働きかけが必要と考え、自治会、公民館との連携、及び地元事業者への働きかけによる団員の勧誘を望む人が多い。&lt;団員 7・19&gt;</li> </ul>

## Ⅱ. 調査結果

### 1. 市民

#### (1) 回答者の属性

- ・ 回答者の性別は、男性 6 割、女性 4 割。
- ・ 年齢は、60 歳代以上が 4 割で、30 歳代以下と 40～50 歳代がそれぞれ 3 割。
- ・ 職業は、会社員が 40%、無職が 16%。
- ・ 居住年数は、20 年以上が、全体の 8 割。
- ・ 居住地域は、橋北及び橋南が約 17%と多く、その他の地域は 7～9%。

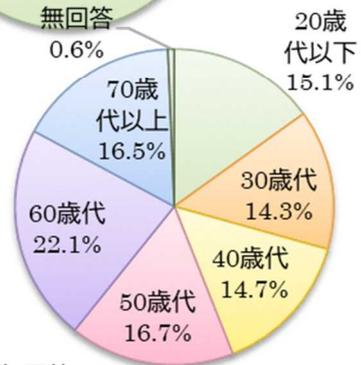
##### <性別>

	実数	割合
男性	464	59.7%
女性	302	38.9%
無回答	11	1.4%
合計	777	100.0%



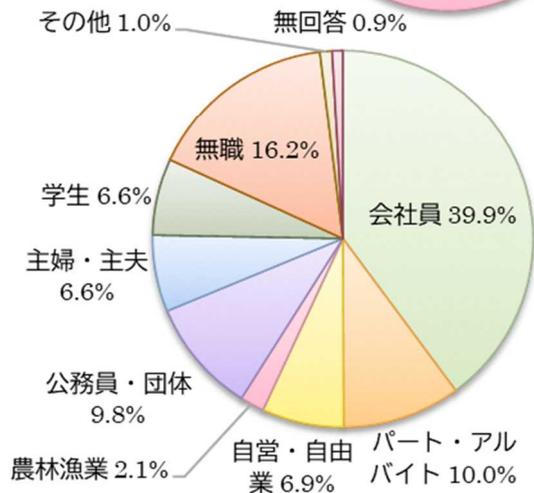
##### <年代>

	実数	割合	実数	割合
20歳代以下	117	15.1%	228	29.5%
30歳代	111	14.3%		
40歳代	114	14.7%	244	31.6%
50歳代	130	16.7%		
60歳代	172	22.1%		
70歳代以上	128	16.5%	300	38.9%
無回答	5	0.6%		
合計	777	100.0%	772	100.0%



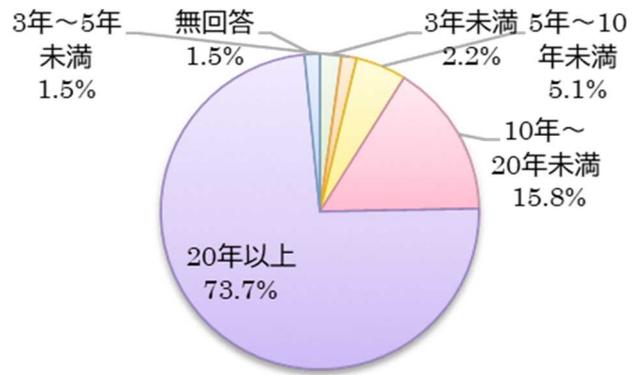
##### <職業>

	実数	割合
会社員	310	39.9%
パート・アルバイト	78	10.0%
自営・自由業	54	6.9%
農林漁業	16	2.1%
公務員・団体	76	9.8%
主婦・主夫	51	6.6%
学生	51	6.6%
無職	126	16.2%
その他	8	1.0%
無回答	7	0.9%
合計	777	100.0%



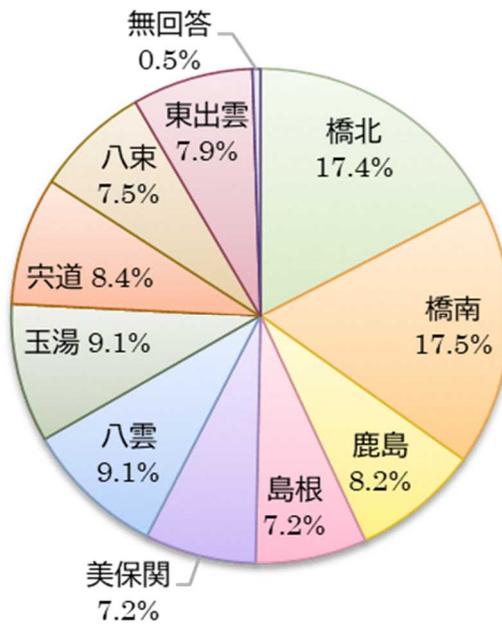
<居住年数>

	実数	割合
3年未満	17	2.2%
3年～5年未満	12	1.5%
5年～10年未満	40	5.1%
10年～20年未満	123	15.8%
20年以上	573	73.7%
無回答	12	1.5%
合計	777	100.0%



<居住地域>

	実数	割合
橋北	135	17.4%
橋南	136	17.5%
鹿島	64	8.2%
島根	56	7.2%
美保関	56	7.2%
八雲	71	9.1%
玉湯	71	9.1%
宍道	65	8.4%
八束	58	7.5%
東出雲	61	7.9%
無回答	4	0.5%
合計	777	100.0%



## (2) 防災について

<問1 情報収集の手段(複数回答)> 日常、どのような手段で情報を収集していますか。

- ・ テレビ、スマートフォン・携帯電話が共に約8割であった。

(n=777)	実数	割合
テレビ・テレビのデータ放送	645	83.0%
スマートフォン・携帯電話	612	78.8%
パソコン・タブレット	162	20.8%
ラジオ	94	12.1%
その他	24	3.1%
無回答	1	0.1%

※その他：新聞(11)、お知らせ君・防災無線(2)

<問2 不安な災害(複数回答)> お住まいの地域で不安を感じる災害は何ですか。

- ・ 地震が約6割と最も多く、次いで火災、土砂災害、原子力、洪水が4割以上であった。

(n=777)	実数	割合
地震	455	58.6%
火災	389	50.1%
土砂災害	369	47.5%
原子力	331	42.6%
洪水	306	39.4%
風害(竜巻等)	239	30.8%
津波	93	12.0%
その他	15	1.9%
無回答	6	0.8%

※その他：台風・雪害・高潮(3)

<問3 災害の備え(複数回答)> 災害に対し、備えていることを教えてください。

- ・ 懐中電灯・電池・携帯バッテリーが約8割と最も多く、次いで住宅用火災警報器、ハザードマップ・避難場所の確認、非常食・水、消火器具が約4割であった。

(n=777)	実数	割合
懐中電灯・電池・携帯バッテリー	606	78.0%
住宅用火災警報器	402	51.7%
ハザードマップ・避難場所の確認	356	45.8%
非常食・水	292	37.6%
消火器その他の消火器具	289	37.2%
その他	14	1.8%
何もしていない	11	1.4%
無回答	18	2.3%

### (3) 消防団の組織について

#### <問4・5 消防団・自主防災組織の入団・参加>

- ・ 消防団へ入団「している・以前していた」が16%、自主防災組織に参加「している・以前していた」が17%であった。
- ・ 家族が消防団へ入団「している・以前していた」が16%、自主防災組織に参加「している・以前していた」が11%であった。

【本人】

	消防団		自主防災組織	
	実数	割合	実数	割合
している	34	4.4%	81	10.4%
以前していた	91	11.7%	45	5.8%
していない	639	82.2%	617	79.4%
無回答	13	1.7%	34	4.4%
合計	777	100.0%	777	100.0%

【家族】

	消防団		自主防災組織	
	実数	割合	実数	割合
している	57	7.3%	62	8.0%
以前していた	70	9.0%	21	2.7%
していない	633	81.5%	652	83.9%
無回答	17	2.2%	42	5.4%
合計	777	100.0%	777	100.0%

#### <問6・7 消防団組織の認知度>

- ・ 消防団組織の「名前も活動も知っている・名前を知っている」は86%であり、地域の消防団を知っているのは、50%であった。
- ・ 若年齢ほど認知度が低く、地域別では橋北、橋南、東出雲が低かった。

【組織・活動について】

消防団が組織され、活動していることをご存じですか。

■年齢別

	名前も活動も知っている	名前は知っている	知らない
30歳以下 (n=228)	38.2%	42.1%	19.7%
40～50歳代 (n=244)	62.3%	27.9%	9.8%
60歳代以上 (n=300)	64.0%	22.3%	12.0%
合計 (n=772)	55.8%	29.9%	13.6%

■地域別

地域	名前も活動も知っている	名前は知っている	知らない
松江橋北 (n=135)	44.4%	31.9%	22.2%
松江橋南 (n=136)	31.6%	44.1%	22.1%
鹿島 (n=64)	62.5%	23.4%	14.1%
島根 (n=56)	78.6%	16.1%	5.4%
美保関 (n=156)	69.6%	21.4%	8.9%
八雲 (n=71)	66.2%	31.0%	2.8%
玉湯 (n=71)	66.2%	26.8%	7.0%
宍道 (n=65)	70.8%	26.2%	3.1%
八束 (n=58)	62.1%	29.3%	8.6%
東出雲 (n=61)	44.3%	31.1%	24.6%
合計 (n=773)	55.5%	30.1%	13.7%

【地域の消防団の名称】

住んでいる地域の消防団の名称は知っていますか。

■年齢別

	知っている	知らない
30歳以下 (n=228)	28.5%	71.5%
40～50歳代 (n=244)	53.3%	46.7%
60歳代以上 (n=300)	64.7%	34.3%
合計 (n=772)	50.4%	49.2%

■地域別

地域	知っている	知らない
松江橋北 (n=135)	34.8%	64.4%
松江橋南 (n=136)	19.9%	78.7%
鹿島 (n=64)	56.3%	43.8%
島根 (n=56)	75.0%	25.0%
美保関 (n=156)	78.6%	21.4%
八雲 (n=71)	52.1%	47.9%
玉湯 (n=71)	66.2%	33.8%
宍道 (n=65)	70.8%	29.2%
八束 (n=58)	63.8%	36.2%
東出雲 (n=61)	41.0%	59.0%
合計 (n=773)	50.2%	49.4%

#### (4) 消防団の活動について

##### <問8 消防団の主な活動（複数回答）>

問) 消防団の主な活動のうちどのような活動をご存じですか。

- ・ 「火災の消火活動」が85%と最も多く、次いで定期巡回、訓練、防災活動が約5割であった。

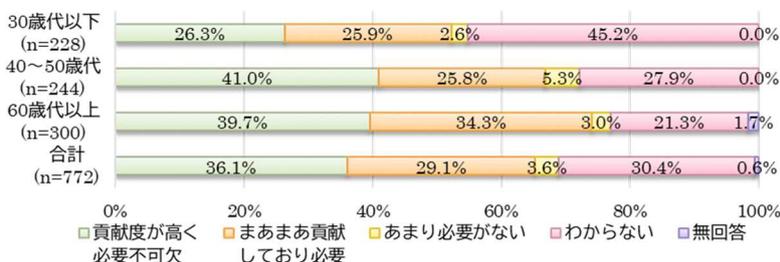
(n=777)	実数	割合
火災の消火活動	661	85.1%
まちの定期巡回（火災予防啓	450	57.9%
消防機材の取り扱いなどの訓練	399	51.4%
地震、風水害の防災活動	379	48.8%
応急手当などの救急講習	142	18.3%
知らない	60	7.7%
その他	13	1.7%
無回答	3	0.4%

※その他：行方不明者の捜索(4)、消火器点検(2)

##### <問9 地元の消防団の評価> 問) 地元の消防団の活動をどう評価されますか。

- ・ 「必要不可欠・必要」が65%であり、高年齢ほど高い。また、30歳代以下で「わからない」の割合が45%と高い。
- ・ 地域別では、島根、美保関、玉湯、宍道で「必要不可欠」が、橋北、橋南、東出雲で「わからない」の割合が高い。

##### ■年齢別

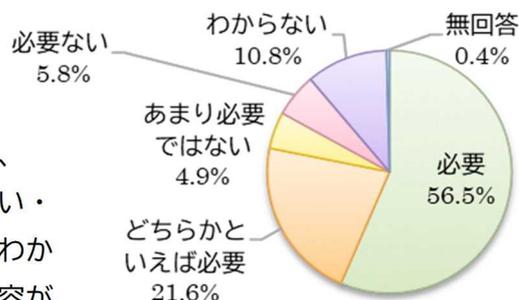


##### ■地域別

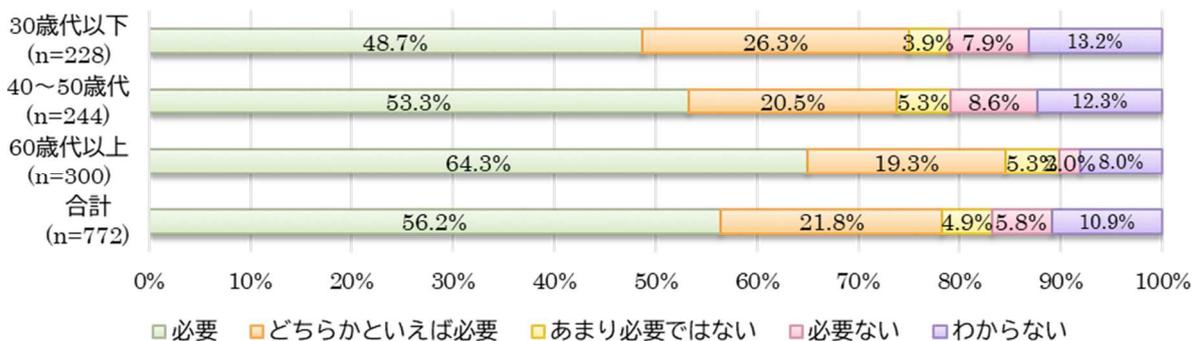


<問 10 消防団の必要性> 問) あなたの地区に、消防団は必要だと思いますか。

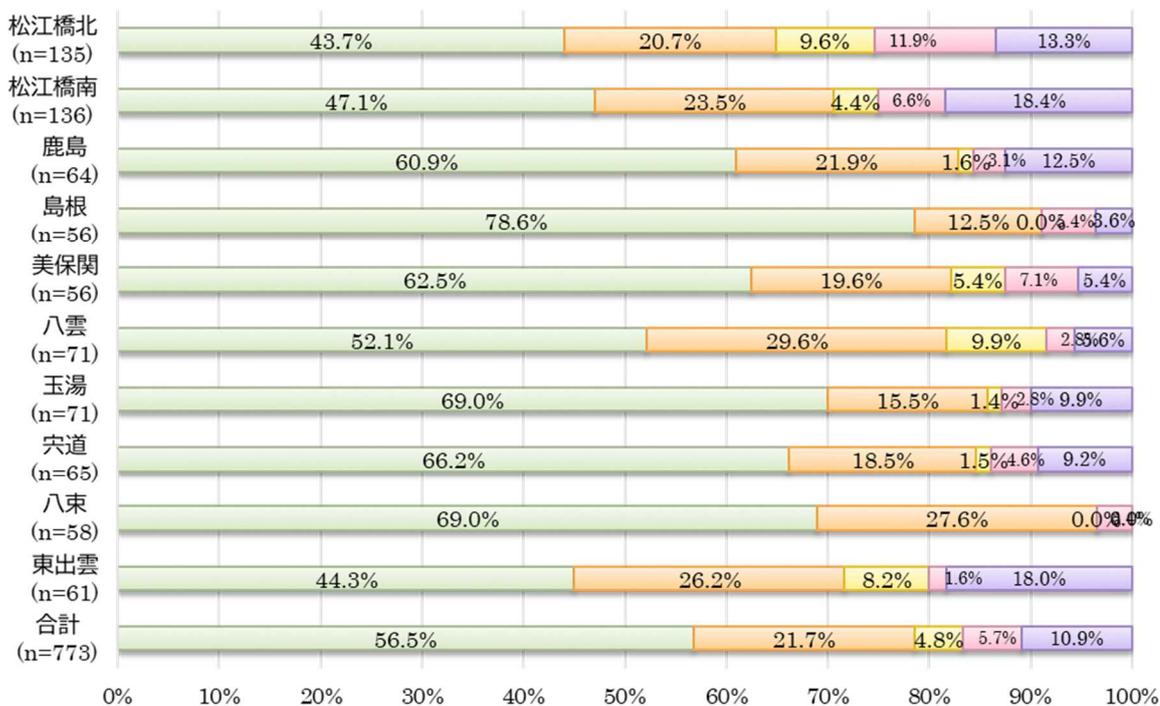
- ・ 「必要・どちらかといえば必要」が約8割であり、高年齢ほど必要性を強く感じている。
- ・ 鹿島、島根、玉湯、宍道、八束で必要性を強く感じている。
- ・ 「必要・どちらかといえば必要」な理由として、「災害時に必要、初期消火・対応、地域に詳しい・必要、高齢者が多い」、「あまり必要でない～わからない」理由として、「消防署がある、活動内容が不明、活動をみたことがない」が多かった。



■年齢別



■地域別



【「必要・どちらかといえば必要」な理由（自由記述）】

	実数	割合
災害時に必要	68	24.0%
初期消火・対応	42	14.8%
地域に詳しい・必要	37	13.1%
高齢者が多い	37	13.1%
安心・心強い	21	7.4%
消防署がない（遠い）	13	4.6%
消火活動	12	4.2%
消防職員が足りない	9	3.2%
巡回	5	1.8%
実際の活動	5	1.8%
災害の増加	4	1.4%
家が密集	4	1.4%
その他	26	9.2%
合計	283	100.0%

【「あまり必要ではない・必要ない・わからない」な理由（自由記述）】

	実数	割合
消防署がある	14	23.0%
活動内容が不明	11	18.0%
活動を見たことがない	10	16.4%
その他	26	42.6%
合計	61	100.0%

<問 11 消防団への期待（複数回答：3つ）> あなたは、消防団に何を期待しますか。

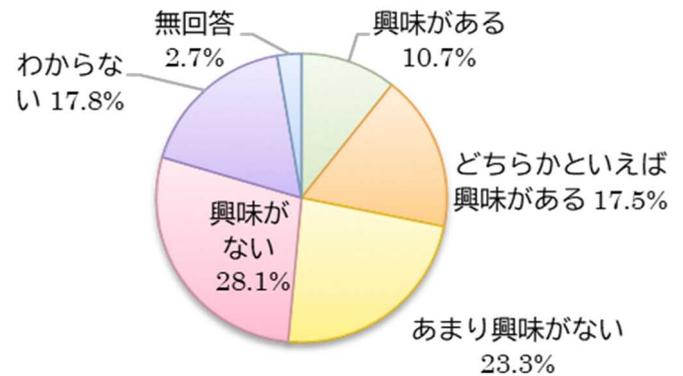
- ・ 「火災の消火活動」が約8割と最も高く、次いで「地震、風水害の防災活動」、「避難誘導」が5割であった。

(n=777)	実数	割合
火災の消火活動	599	77.1%
地震、風水害の防災活動	401	51.6%
避難誘導	398	51.2%
大規模災害時の対応	301	38.7%
日常の警戒（巡回）	247	31.8%
行方不明者の搜索	151	19.4%
市民への防災指導	135	17.4%
地域行事の警戒活動	92	11.8%
応急手当の普及啓発	73	9.4%
その他	17	2.2%
無回答	17	2.2%

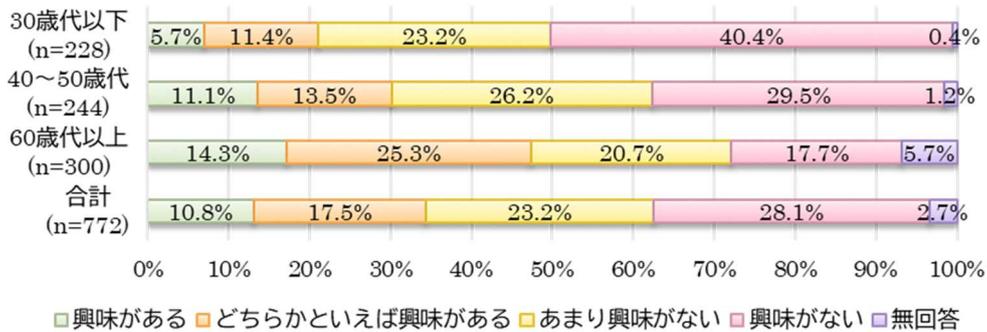
## (5) 消防団への加入について

<問 12 消防団への興味> 問) 消防団に興味はありますか。

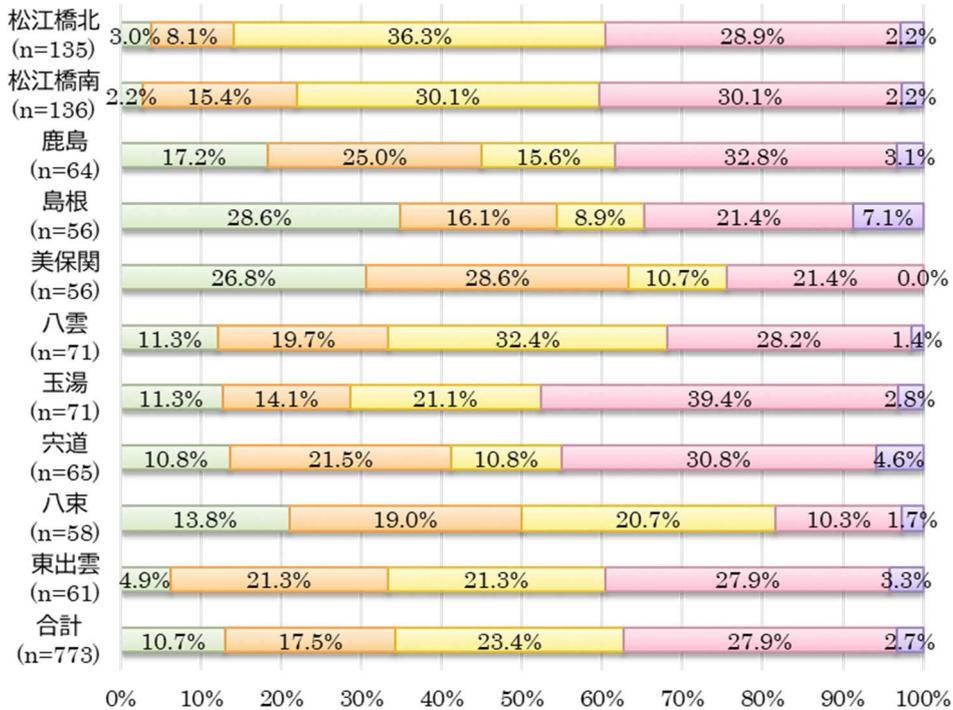
- ・ 「興味がある・どちらかといえば興味がある」が28%、「あまり興味がない・興味がない」が51%で、30歳代以下で「興味がない」の割合が40%と高い。
- ・ 地域別には、鹿島、島根、美保関、八束で興味がある割合が高く、橋北、橋南、玉湯で興味のない割合が高い。



### ■年齢別

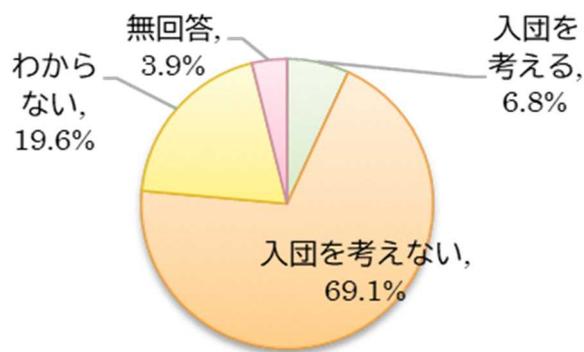


### ■地域別



<問 13 消防団への入団> 問) 消防団に勧誘されれば入団を考えますか

- ・ 勧誘されれば「入団を考える」が 6.8%、「考えない」が 69.1%であった。
- ・ 40～50 歳代で「入団を考える」が、30 歳代以下では「わからない」の割合が高い。
- ・ 鹿島、島根、美保関で「入団を考える」が、橋南、島根、八束で「わからない」の割合が高い。
- ・ 「入団を考える」理由として、「地域貢献」、「考えない」理由として、「年齢・性別、仕事、体力、忙しい」、「わからない」理由として、「年齢・性別、仕事、活動内容が不明」が多かった。



【「入団を考える」理由（自由記述）】

	実数	割合
地域貢献	15	24.6%
団員	5	8.2%
義務	2	3.3%
その他	10	16.4%
合計	32	52.5%

【「入団を考えない」理由（自由記述）】

	実数	割合
年齢・性別	157	49.8%
仕事	35	11.1%
体力	27	8.6%
忙しい	20	6.3%
以前入団	11	3.5%
子育て	11	3.5%
健康上	9	2.9%
地区に住んでいない	5	1.6%
その他	40	12.7%
合計	315	100.0%

【「わからない」理由（自由記述）】

	実数	割合
年齢・性別	21	34.4%
仕事	8	13.1%
活動内容が不明	8	13.1%
体力	6	9.8%
その他	18	29.5%
合計	61	100.0%

■年齢別

	考える	考えない	わからない	無回答
30歳代以下 (n=228)	9.6%	64.0%	24.6%	1.8%
40～50歳代 (n=244)	11.1%	66.0%	20.9%	2.0%
60歳代以上 (n=300)	1.3%	76.7%	15.0%	7.0%
合計 (n=772)	6.9%	69.6%	19.7%	3.9%

■地域別

	考える	考えない	わからない	無回答
松江橋北 (n=135)	2.2%	69.6%	25.2%	3.0%
松江橋南 (n=136)	3.7%	72.8%	20.6%	2.9%
鹿島 (n=64)	14.1%	60.9%	18.8%	6.3%
島根 (n=56)	16.1%	48.2%	25.0%	10.7%
美保関 (n=56)	16.1%	60.7%	21.4%	1.8%
八雲 (n=71)	8.5%	71.8%	16.9%	2.8%
玉湯 (n=71)	2.8%	78.9%	12.7%	5.6%
宍道 (n=65)	3.1%	76.9%	15.4%	4.6%
八束 (n=58)	8.6%	60.3%	29.3%	1.7%
東出雲 (n=61)	4.9%	82.0%	13.1%	0.0%
合計 (n=773)	6.9%	69.2%	20.2%	3.8%

<問 14 地域防災への協力>

問)消防団に入団しなくても、地域防災に出来る範囲で協力したいと思いますか。

- ・ 「地域防災に協力したいと思いますか」の問いに対して「はい」が87%であった。

(n=777)	実数	割合
はい	673	86.6%
いいえ	73	9.4%
無回答	31	4.0%
合計	777	100.0%



## (6) 自由記述

- ・ 有効回答数 777 件中 214 件 (28%) の自由記述があった。
- ・ 感謝・激励に関する意見が 79 件 (37%) であり、続いて、PR、存在意義、活動内容、地域との関わり、報酬・待遇などの意見が多かった。

No	分類	件数	割合
1	感謝・激励他	79	36.6%
2	PR	20	9.3%
3	存在意義	17	7.9%
4	活動内容	16	7.4%
5	地域との関わり	16	7.4%
6	報酬・待遇	16	7.4%
7	組織の見直し	13	6.0%
8	団員の確保	9	4.2%
9	講習・訓練	6	2.8%
10	予算	6	2.8%
11	巡回	5	2.3%
12	その他	13	6.0%
合計		216	100.0%

※ 記述内容が多岐にわたる意見については、主な意見で分類した。

※ 文字数が多く（概ね 250 字以上）、多岐にわたる意見については、意見を分割した。

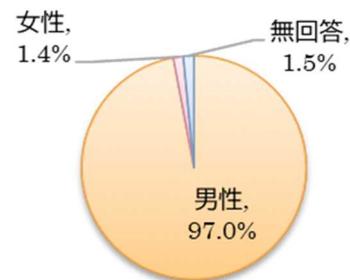
## 2. 消防団員

### (1) 回答者の属性

- ・ 回答者の年齢は、40歳代が4割、30歳代以下、50歳代以上がそれぞれ4割を占める。
- ・ 職業は、会社員が7割、自営・自由業が12%、公務員・団体職員が10%であった。会社員の割合は、若年齢ほどが高く、所属別では、鹿島、宍道の割合が高い。
- ・ 居住年数は、20年以上が、全体の8割を占める。
- ・ 所属する方面団は、橋北が18%と最も多く、次いで美保関、宍道が12%であった。

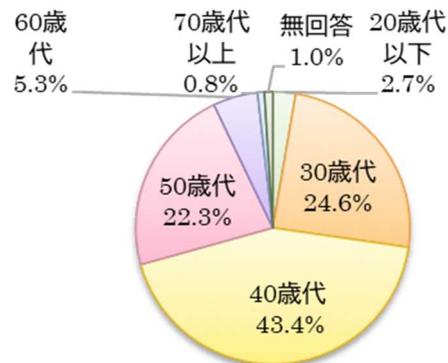
#### <性別>

(n=1,118)	実数	割合
男性	1085	97.0%
女性	16	1.4%
無回答	17	1.5%



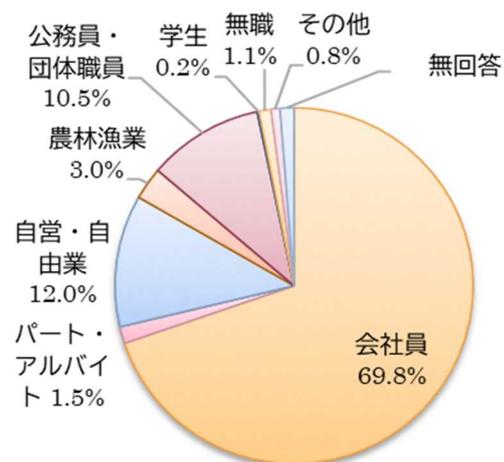
#### <年代>

(n=1,118)	実数	割合	実数	割合
20歳代以下	30	2.7%	305	27.3%
30歳代	275	24.6%		
40歳代	485	43.4%	485	43.4%
50歳代	249	22.3%		
60歳代	59	5.3%	317	28.4%
70歳代以上	9	0.8%		
無回答	11	1.0%	11	1.0%



#### <職業>

(n=1,118)	実数	割合
会社員	780	69.8%
パート・アルバイト	17	1.5%
自営・自由業	134	12.0%
農林漁業	33	3.0%
公務員・団体職員	117	10.5%
学生	2	0.2%
無職	12	1.1%
その他	9	0.8%
無回答	14	1.3%



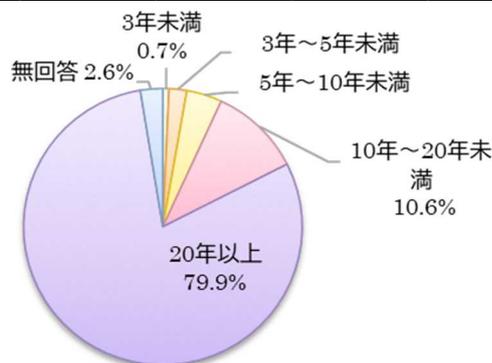
<年齢別・所属別の職業>

	会社員	パート・アルバイト	自営・自由業	農林漁業	公務員・団体職員	無職	その他
30歳代以下 (n=303)	77.2%	0.3%	6.6%	3.0%	10.6%	1.0%	1.3%
40歳代 (n=485)	69.9%	0.8%	13.6%	2.5%	10.9%	0.8%	1.4%
50歳代以上 (n=316)	63.9%	3.8%	14.9%	3.8%	10.1%	1.6%	1.9%
合計 (n=1,104)	70.2%	1.5%	12.0%	3.0%	10.6%	1.1%	1.5%

	会社員	パート・アルバイト	自営・自由業	農林漁業	公務員・団体職員	無職	その他
松江橋北 (n=198)	59.6%	2.0%	14.1%	4.5%	16.7%	2.0%	1.0%
松江橋南 (n=94)	62.8%	3.2%	14.9%	6.4%	10.6%	1.1%	1.1%
鹿島 (n=108)	80.6%	0.0%	5.6%	3.7%	9.3%	0.0%	0.9%
島根 (n=85)	70.6%	4.7%	11.8%	2.4%	7.1%	3.5%	0.0%
美保関 (n=132)	73.5%	0.8%	12.9%	5.3%	6.8%	0.8%	0.0%
八雲 (n=64)	73.4%	0.0%	17.2%	1.6%	7.8%	0.0%	0.0%
玉湯 (n=55)	74.5%	0.0%	12.7%	0.0%	12.7%	0.0%	0.0%
宍道 (n=131)	81.7%	0.8%	9.9%	0.8%	5.3%	1.5%	0.0%
八束 (n=60)	68.3%	1.7%	13.3%	0.0%	13.3%	0.0%	3.3%
東出雲 (n=85)	71.8%	1.2%	12.9%	0.0%	11.8%	1.2%	1.2%
合計 (n=1,012)	70.9%	1.5%	12.4%	3.0%	10.4%	1.2%	0.7%

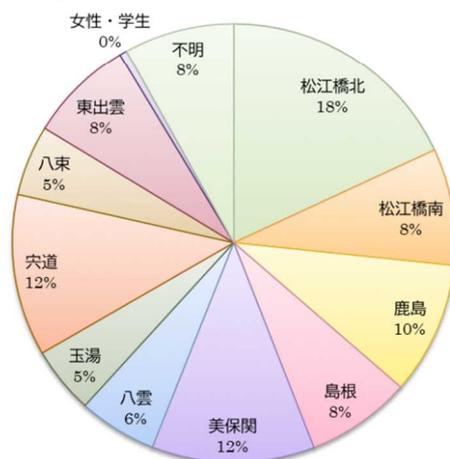
<居住年数>

(n=1,118)	実数	割合
3年未満	8	0.7%
3年～5年未満	23	2.1%
5年～10年未満	46	4.1%
10年～20年未満	119	10.6%
20年以上	893	79.9%
無回答	29	2.6%
合計	1118	100.0%



<所属する方面団>

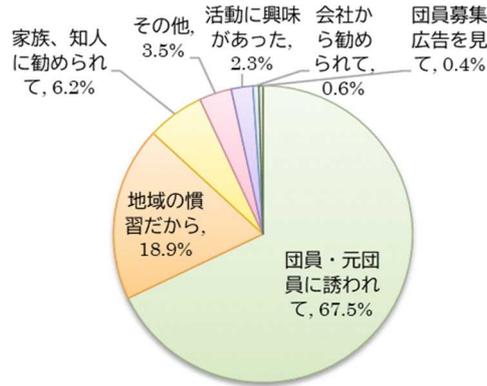
方面団	配布数	回答数	割合	回答率
松江橋北	362	202	18.1%	56%
松江橋南	151	96	8.6%	64%
鹿島	241	109	9.7%	45%
島根	224	86	7.7%	38%
美保関	272	133	11.9%	49%
八雲	118	64	5.7%	54%
玉湯	98	55	4.9%	56%
宍道	217	133	11.9%	61%
八束	140	58	5.2%	41%
東出雲	160	86	7.7%	54%
女性・学生	22	6	0.5%	27%
団本部	4			
不明		90		
合計	2,009	1,118	100.0%	55.65%



## (2) 団員活動について

<問1 入団動機> あなたの消防団への入団動機は何ですか。

- ・ 「団員・元団員に誘われて」が全体の約7割を占め、次いで「地域の慣習」が2割であった。
- ・ 「地域の慣習」の割合が平均より高かったのが、50歳代以上、所属別では、橋北、八雲、宍道であった。



### ■年齢別

	団員・元団員に誘われて	地域の慣習だから	家族、知人に勧められて	活動に興味があった	会社から勧められて	団員募集広告を見て	その他
30歳代以下 (n=305)	68.2%	17.0%	8.9%	3.0%	0.7%	0.7%	1.6%
40歳代 (n=482)	70.1%	17.2%	6.2%	1.7%	0.6%	0.4%	3.7%
50歳代以上 (n=315)	65.1%	23.8%	3.2%	2.9%	0.6%	0.3%	4.1%
合計 (n=1,102)	68.1%	19.1%	6.1%	2.4%	0.6%	0.5%	3.3%

### ■所属別

	団員・元団員に誘われて	地域の慣習だから	家族、知人に勧められて	活動に興味があった	会社から勧められて	団員募集広告を見て	その他
松江橋北 (n=200)	63.5%	25.5%	4.5%	2.5%	0.5%	0.5%	3.0%
松江橋南 (n=96)	66.7%	19.8%	5.2%	3.1%	2.1%	0.0%	3.1%
鹿島 (n=109)	84.4%	6.4%	5.5%	0.9%	0.9%	0.0%	1.8%
島根 (n=85)	72.9%	17.6%	8.2%	0.0%	0.0%	0.0%	1.2%
美保関 (n=133)	75.9%	11.3%	6.8%	4.5%	0.0%	0.0%	1.5%
八雲 (n=65)	56.9%	29.2%	4.6%	4.6%	0.0%	0.0%	4.6%
玉湯 (n=55)	76.4%	14.5%	5.5%	1.8%	0.0%	0.0%	1.8%
宍道 (n=130)	58.5%	30.0%	6.2%	0.0%	0.0%	0.0%	5.4%
八束 (n=58)	67.2%	20.7%	6.9%	1.7%	0.0%	0.0%	3.4%
東出雲 (n=86)	76.7%	4.7%	9.3%	1.2%	1.2%	0.0%	7.0%
女性・学生 (n=6)	16.7%	0.0%	0.0%	16.7%	33.3%	0.0%	33.3%
合計 (n=1,023)	69.1%	18.5%	6.1%	2.2%	0.7%	0.1%	3.4%

<問2 入団後の感想（複数回答：3つ）> 入団後どのような感想をお持ちですか。

- ・ 「多くの人と知り合え良かった」「防災等に関する知識技術が身についた」「人から喜ばれやりがいを感じる」などの肯定的な感想が上位を占めた。
- ・ 年齢別では大きな差はなく、所属別では、島根、八雲、玉湯、宍道、八束等で否定的な項目（本業に支障がある、報酬・手当が少ない、家族に負担をかけている）の割合が高かった。

■年齢別

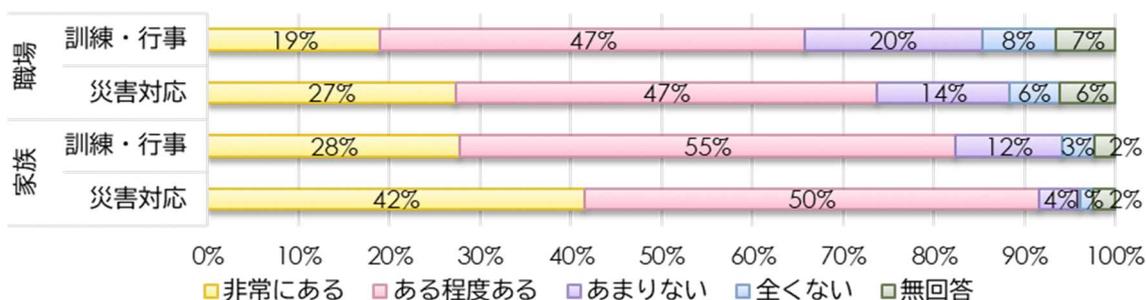
	多くの人と知り合え良かった	防災等に関する知識技術が身についた	人から喜ばれやりがいを感じる	訓練、支障がある本業に	報酬・手当が少ない	家族に負担をかけている	活動が住民に理解されていない	自分の時間がない	その他
30歳代以下 (n=304)	62.2%	47.0%	27.0%	30.6%	26.0%	28.0%	13.5%	20.7%	6.9%
40歳代 (n=485)	68.7%	53.8%	28.5%	32.0%	24.5%	23.5%	15.7%	10.3%	7.0%
50歳代以上 (n=317)	71.3%	66.2%	36.6%	24.6%	22.1%	18.0%	24.6%	5.7%	6.9%
合計 (n=1,106)	67.6%	55.5%	30.4%	29.5%	24.2%	23.1%	17.6%	11.8%	7.0%

■所属別

松江橋北 (n=202)	63.4%	61.4%	30.7%	27.7%	23.8%	20.3%	24.8%	9.9%	7.4%
松江橋南 (n=96)	74.0%	58.3%	21.9%	37.5%	19.8%	20.8%	26.0%	5.2%	10.4%
鹿島 (n=108)	70.4%	47.2%	25.0%	26.9%	25.9%	24.1%	14.8%	15.7%	4.6%
島根 (n=86)	59.3%	59.3%	51.2%	23.3%	37.2%	14.0%	5.8%	4.7%	11.6%
美保関 (n=133)	69.2%	72.2%	44.4%	20.3%	20.3%	11.3%	13.5%	5.3%	4.5%
八雲 (n=64)	57.8%	46.9%	29.7%	35.9%	40.6%	20.3%	18.8%	17.2%	7.8%
玉湯 (n=55)	83.6%	47.3%	29.1%	38.2%	12.7%	52.7%	10.9%	10.9%	3.6%
宍道 (n=133)	74.4%	42.9%	23.3%	35.3%	23.3%	38.3%	15.0%	21.8%	2.3%
八束 (n=58)	65.5%	60.3%	27.6%	25.9%	34.5%	5.2%	8.6%	6.9%	10.3%
東出雲 (n=86)	73.3%	48.8%	27.9%	27.9%	18.6%	3.5%	25.6%	10.5%	7.0%
女性・学生 (n=6)	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	16.7%
合計 (n=1,027)	68.8%	55.9%	31.1%	29.0%	24.7%	20.7%	17.7%	10.9%	6.7%

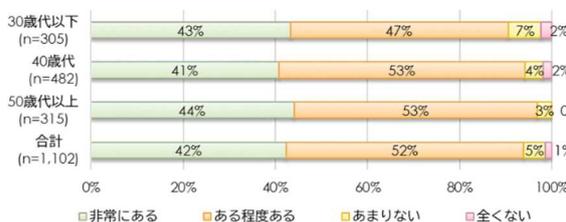
＜問3 家族や職場の理解＞ ご家族や職場の理解はありますか。

- ・ 家族より職場、災害対応より訓練・行事に対する理解が低い。
- ・ 高年齢ほど家族・職場の理解が高い。
- ・ 所属別では、訓練・行事に対する家族の理解は、島根、美保関で高く、玉湯、宍道で低い。災害対応に対する職場の理解が島根、美保関、宍道で高く、玉湯、八束で低い。訓練・行事に対する職場の理解が、玉湯、八束、東出雲で低い。

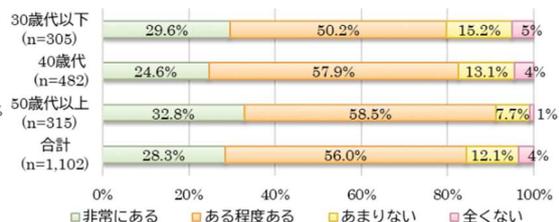


■年齢別

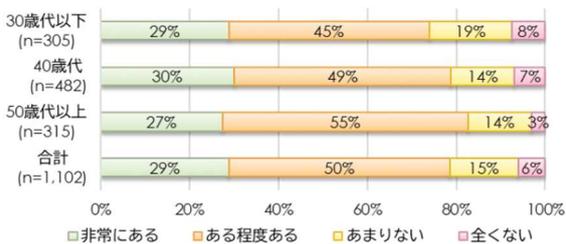
【家族の理解（災害対応）】



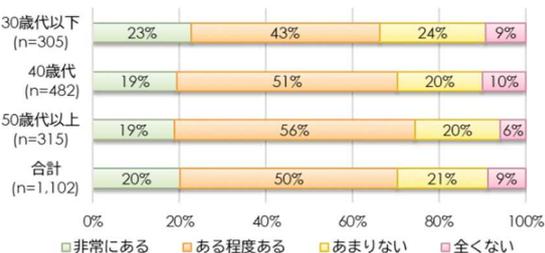
【家族の理解（訓練・行事）】



【職場の理解（災害対応）】

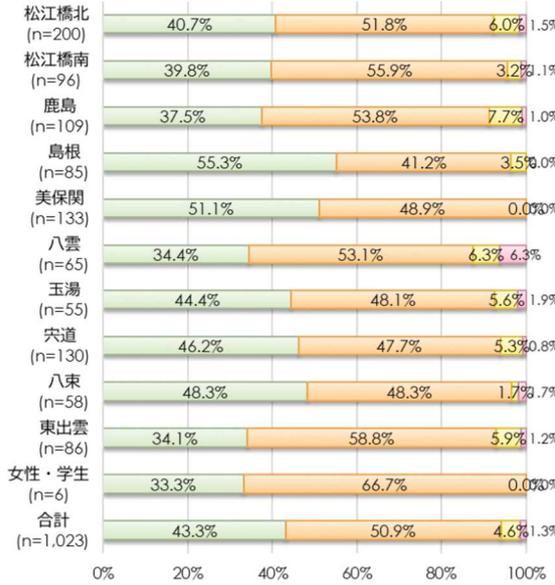


【職場の理解（訓練・行事）】

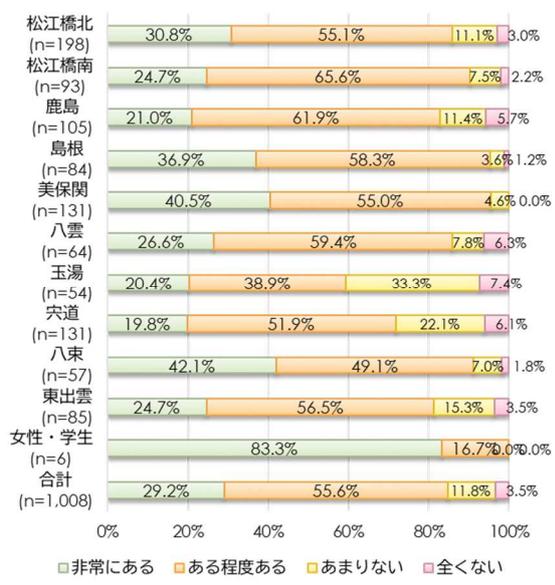


■所属別

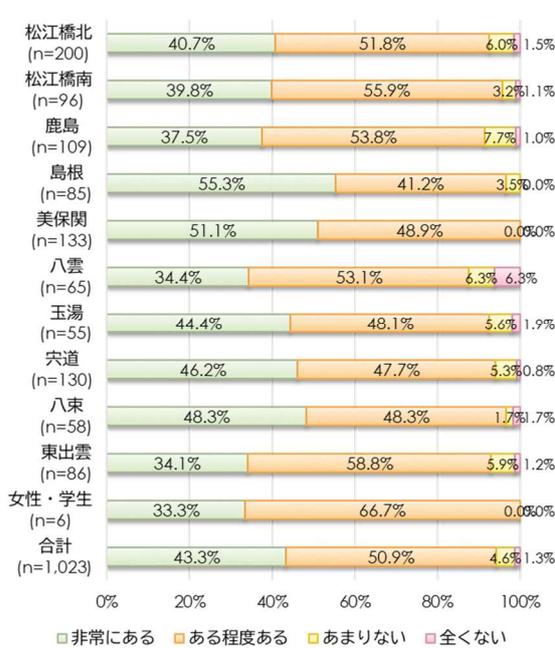
【家族の理解（災害対応）】



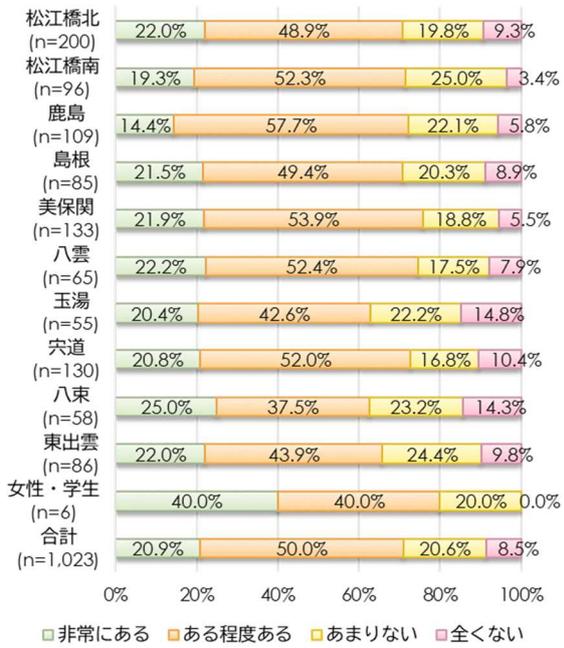
【家族の理解（訓練・行事）】



【職場の理解（災害対応）】

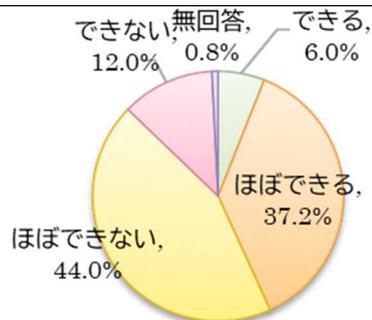


【職場の理解（訓練・行事）】

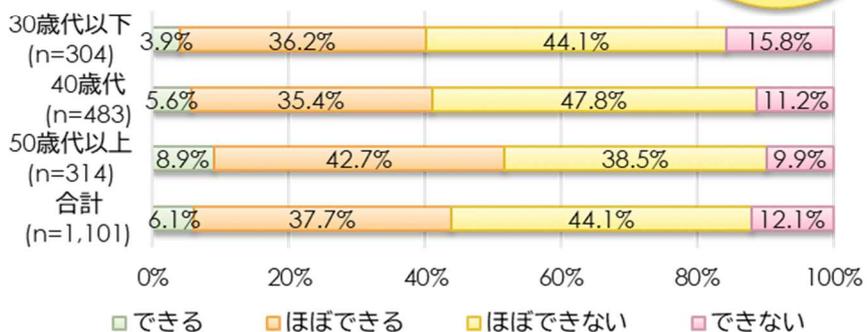


<問4 平日の出動> 平日の昼間に出動がかかった場合、あなたは出動できますか。

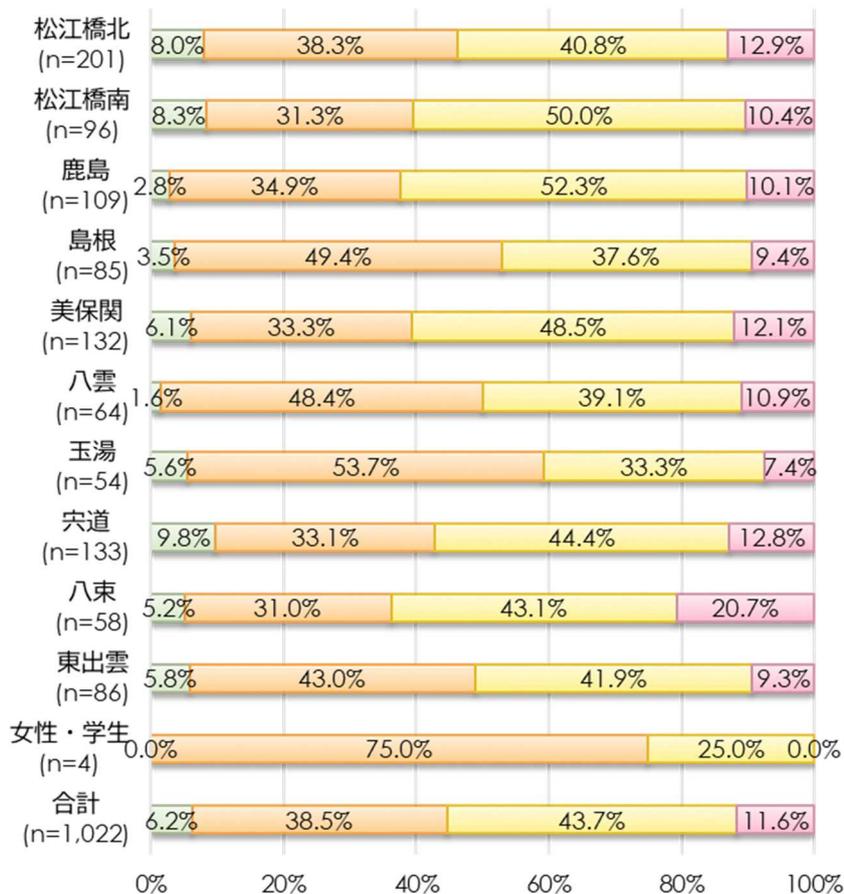
- ・ 「ほぼできない・できない」が56%、「できる・ほぼできる」が43%であった。
- ・ 年齢では50歳代以上、所属別では島根、八雲、玉湯が出動できる割合が高く、鹿島、八束で低い。



■年齢別



■所属別



<問5 消防団員としてのやりがい>消防団員としてどんなときにやりがいを感じますか。

- ・ 「消火活動」、「水防等防災活動」、「日常の警戒（巡回）」の順に高く、4割を超えた。
- ・ 年齢別では、50歳代以上が概ね各項目で割合が高く、所属別では、全ての項目で高い又は低い所属はなく、項目によって違いがある。

■年齢別

	消火活動	水防等防災活動	日常の警戒（巡回）	不明者の搜索	地域行事での警戒	市民への訓練（救急）指導等	・特になし
30歳代以下 (n=274)	49.6%	42.0%	36.5%	23.7%	21.5%	6.6%	5.5%
40歳代 (n=463)	56.2%	45.8%	43.0%	28.1%	27.6%	10.6%	5.8%
50歳代以上 (n=305)	70.8%	50.2%	40.3%	26.2%	32.8%	20.0%	2.6%
合計 (n=1,042)	58.7%	46.1%	40.5%	26.4%	27.5%	12.3%	4.8%

■所属別

松江橋北 (n=193)	63.2%	42.5%	47.2%	22.3%	26.4%	15.0%	3.6%
松江橋南 (n=90)	76.7%	40.0%	44.4%	12.2%	27.8%	17.8%	1.1%
鹿島 (n=102)	60.8%	31.4%	34.3%	31.4%	26.5%	8.8%	3.9%
島根 (n=85)	80.0%	50.6%	35.3%	36.5%	24.7%	5.9%	4.7%
美保関 (n=124)	53.2%	54.8%	45.2%	34.7%	40.3%	21.0%	2.4%
八雲 (n=62)	43.5%	50.0%	32.3%	25.8%	22.6%	8.1%	6.5%
玉湯 (n=52)	71.2%	65.4%	28.8%	23.1%	15.4%	3.8%	9.6%
宍道 (n=128)	53.9%	45.3%	40.6%	32.8%	24.2%	8.6%	7.0%
八束 (n=54)	66.7%	40.7%	42.6%	29.6%	24.1%	11.1%	3.7%
東出雲 (n=83)	44.6%	69.9%	41.0%	22.9%	36.1%	13.3%	3.6%
女性・学生 (n=4)	0.0%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	0.0%
合計 (n=977)	60.7%	47.6%	40.5%	27.1%	27.6%	12.4%	4.3%

### (3) 消防団のあり方について

#### <問6 消防団員の現在の課題（複数回答：3つ）>

問) 消防団の現在の課題は何だと思いますか。

- ・ 「分団（班）の人数の減少」、「高齢化」、「活動時に団員が集まらない」の順に割合が高く、年齢別・所属別でも同様な傾向がみられた。
- ・ 所属別では、玉湯で「人数の減少」が9割と高く、「高齢化」が鹿島、美保関、宍道、「活動時に集まらない」が玉湯、島根、「資機材の老朽化」が島根・八束の割合が高い。

#### ■年齢別

	減分 少団 (班) の 人数 の	高 齢 化	ら 活 動 時 に 団 員 が 集 ま ら な い	プ 車 等 の 資 機 材 の 老 朽 化	士 気 が 低 い	の 就 労 解 が な い 理 解 が な い 会 社 等	が 地 元 の 公 民 館 の 理 解	機 庫 の 配 置 が 悪 い	そ の 他
30歳代以下 (n=299)	78.9%	58.9%	42.5%	27.1%	22.4%	17.4%	5.0%	3.7%	11.0%
40歳代 (n=482)	78.0%	64.3%	50.2%	20.3%	19.1%	15.4%	8.3%	0.6%	10.2%
50歳代以上 (n=316)	76.3%	75.6%	46.8%	19.0%	19.3%	11.4%	9.8%	9.2%	7.3%
合計 (n=1,097)	77.8%	66.1%	47.1%	21.8%	20.1%	14.8%	7.8%	3.9%	9.6%

#### ■所属別

松江橋北 (n=200)	71.0%	67.5%	39.5%	25.5%	24.0%	12.5%	8.0%	11.0%	10.0%
松江橋南 (n=94)	78.7%	69.1%	38.3%	24.5%	16.0%	20.2%	21.3%	7.4%	8.5%
鹿島 (n=109)	81.7%	77.1%	45.9%	24.8%	13.8%	8.3%	1.8%	7.3%	9.2%
島根 (n=86)	80.2%	64.0%	60.5%	32.6%	15.1%	10.5%	1.2%	3.5%	14.0%
美保関 (n=133)	82.0%	72.9%	43.6%	18.8%	15.0%	14.3%	3.8%	9.0%	6.8%
八雲 (n=63)	69.8%	58.7%	58.7%	25.4%	27.0%	12.7%	9.5%	4.8%	14.3%
玉湯 (n=55)	90.9%	56.4%	63.6%	7.3%	9.1%	21.8%	5.5%	10.9%	5.5%
宍道 (n=132)	81.1%	70.5%	49.2%	4.5%	25.0%	17.4%	15.2%	0.8%	9.8%
八束 (n=58)	77.6%	48.3%	43.1%	44.8%	24.1%	19.0%	0.0%	0.0%	6.9%
東出雲 (n=85)	74.1%	57.6%	52.9%	18.8%	24.7%	16.5%	10.6%	4.7%	9.4%
女性・学生 (n=6)	83.3%	50.0%	50.0%	0.0%	16.7%	33.3%	0.0%	0.0%	16.7%
合計 (n=1,021)	78.1%	66.3%	47.5%	21.7%	19.8%	14.8%	8.0%	6.5%	9.5%

<問 7 課題へ向けて（複数回答：3つ）>

問）課題解決に向けてどうしたらよいと思いますか。

- ・ 「報酬、待遇の改善」、「訓練・行事等の活動回数の見直し」、「行政からの地元や地域への働きかけ」、「分団（班）の統合等枠組みの見直し」の割合が高かった。
- ・ 年齢別には、30歳代以下で「報酬、待遇の改善」の割合が高く、所属別では、島根、八雲で「報酬、待遇の改善」、橋南、玉湯、宍道、東出雲で「行政からの地元や地域への働きかけ」、鹿島、美保関で「枠組みの見直し」の割合が高い。

■年齢別

	報酬、待遇の改善	訓練・行事等の活動回数の見直し	行政からの地元や地域への働きかけ	分団（班）の統合等枠組みの見直し	消防団についての積極的PR	イメー事業所への特典やツブ	車両、資機材の充実	直庫の配置や規格の見直し	その他
30歳代以下 (n=298)	69.8%	44.0%	34.2%	30.9%	29.5%	24.2%	19.5%	6.0%	8.4%
40歳代 (n=480)	61.7%	43.8%	39.4%	39.6%	30.8%	18.8%	16.9%	7.1%	9.0%
50歳代以上 (n=313)	50.8%	39.3%	48.9%	37.4%	36.4%	26.8%	14.7%	9.9%	7.3%
合計 (n=1,091)	60.8%	42.5%	40.7%	36.6%	32.1%	22.5%	17.0%	7.6%	8.3%

■所属別

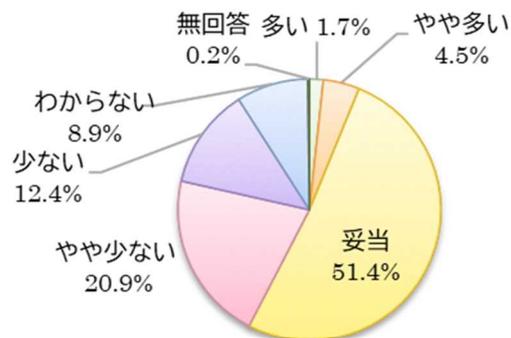
松江橋北 (n=200)	58.0%	43.0%	43.0%	29.0%	35.0%	23.0%	20.0%	11.0%	7.5%
松江橋南 (n=95)	62.1%	43.2%	52.6%	27.4%	34.7%	30.5%	21.1%	5.3%	5.3%
鹿島 (n=107)	62.6%	46.7%	37.4%	44.9%	24.3%	18.7%	15.9%	11.2%	7.5%
島根 (n=86)	69.8%	32.6%	27.9%	40.7%	33.7%	19.8%	31.4%	7.0%	9.3%
美保関 (n=132)	56.1%	35.6%	31.8%	45.5%	37.1%	17.4%	18.2%	15.9%	7.6%
八雲 (n=63)	68.3%	34.9%	30.2%	39.7%	27.0%	27.0%	14.3%	1.6%	11.1%
玉湯 (n=55)	54.5%	50.9%	56.4%	38.2%	36.4%	21.8%	5.5%	3.6%	10.9%
宍道 (n=130)	60.0%	51.5%	46.2%	43.1%	28.5%	23.8%	4.6%	2.3%	9.2%
八束 (n=58)	65.5%	44.8%	34.5%	37.9%	29.3%	25.9%	29.3%	3.4%	6.9%
東出雲 (n=85)	62.4%	41.2%	48.2%	31.8%	31.8%	25.9%	15.3%	4.7%	11.8%
女性・学生 (n=6)	16.7%	33.3%	33.3%	0.0%	66.7%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%
合計 (n=1,017)	60.9%	42.5%	40.8%	37.2%	32.4%	23.1%	17.3%	7.7%	8.4%

## (4) 組織体制について

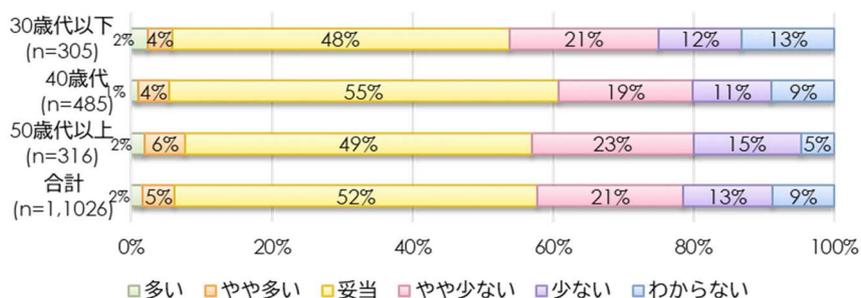
### <問 8 所属している班（分団）の団員数>

問) 所属している班（分団）の団員数は妥当だと思いますか

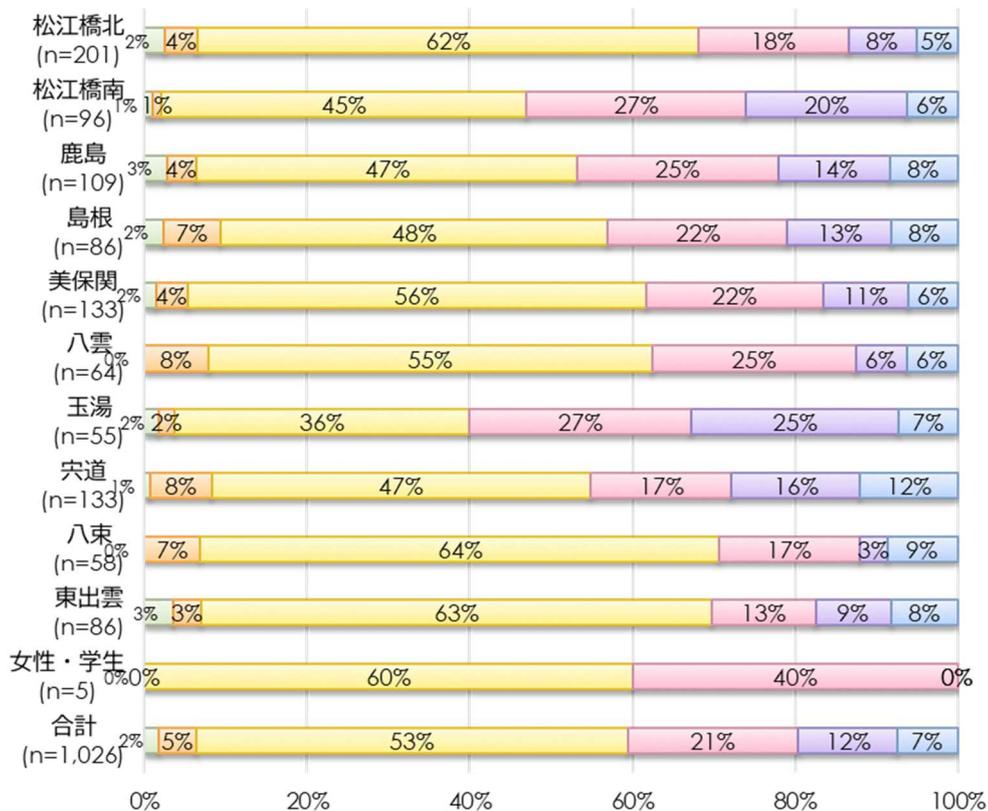
- ・ 「多い～妥当」が58%であり、年齢別もほぼ同様の傾向であった。
- ・ 所属別では、橋北、八束、東出雲で「多い～妥当」、玉湯、橋南、鹿島で「やや少ない～少ない」の割合が高い。



#### ■年齢別



#### ■所属別

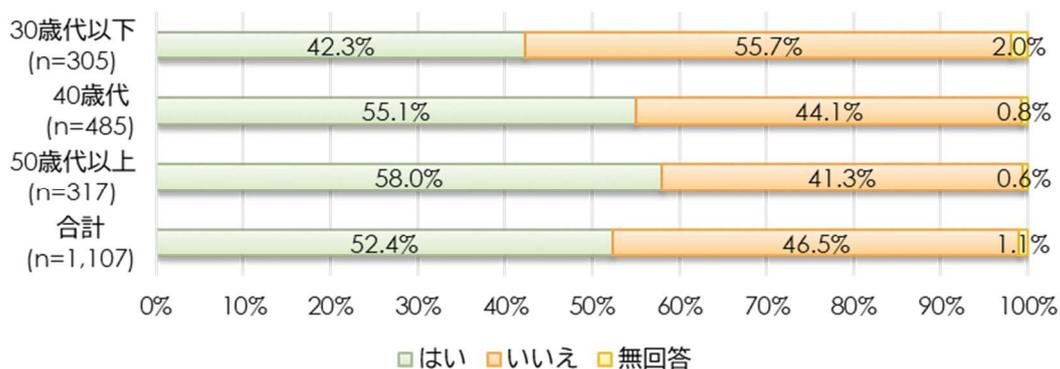


<問9 消防団の枠組み（分団、班）の見直しの必要性>

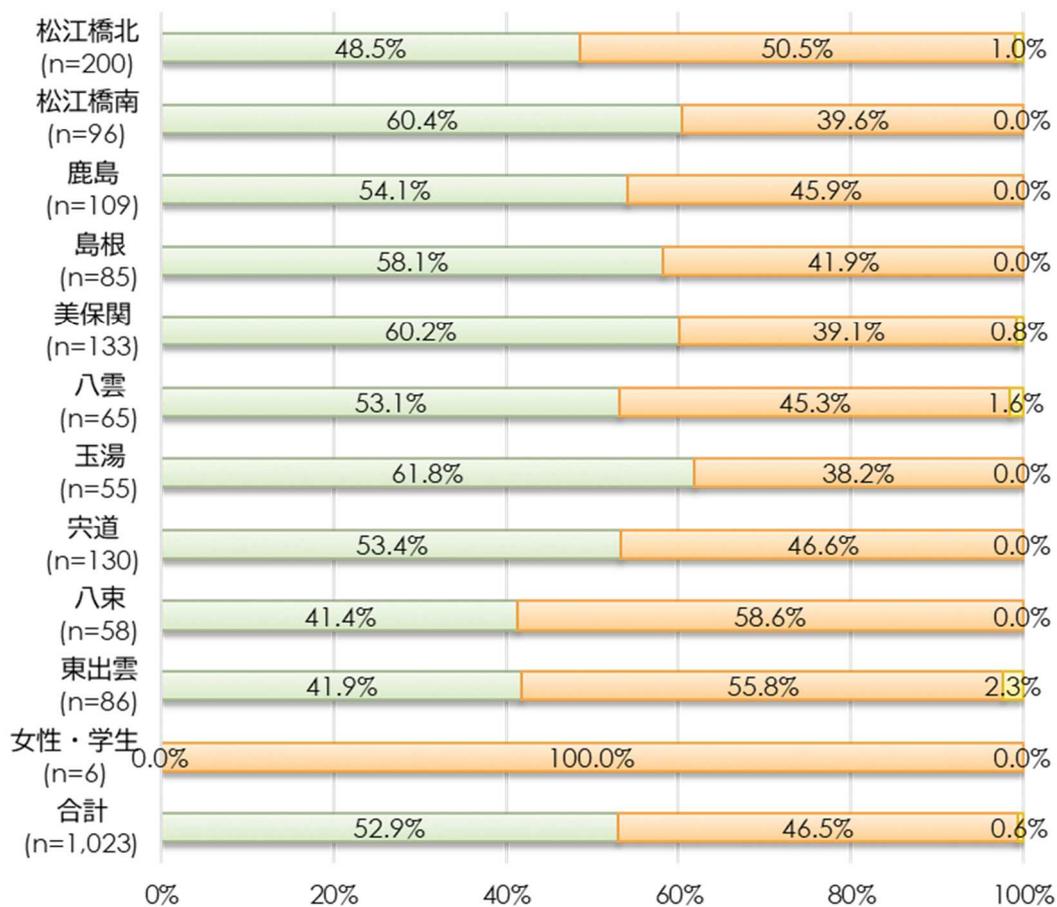
問) 消防団の枠組み（分団、班）を見直す必要があると思いますか。

- ・ 「はい」が若干多く、年齢別では、年代が高いほど「はい」が多く、所属別では、橋南、島根、美保関、玉湯で「はい」の割合が高かった。

■年齢別



■所属別



<問 10 枠組み（分団、班）の見直が必要な理由>問）「1. はい」の方はなぜですか。

- ・ 「団員数の減少」、「高齢化」、「昼間消防力の低下」の順に割合が高く、年齢が低いほど「過疎化」の割合が高かった。
- ・ 所属別では、「昼間消防力の低下」が橋北、島根、八束で7割を超え、「過疎化」が島根、美保関、八束で6割を超えた。

■年齢別

	団員数の減少	団員の高齢化	下に団員による昼間消防力の低下	過疎化	その他
30歳代以下 (n=129)	82.2%	62.8%	60.5%	57.4%	3.1%
40歳代 (n=267)	83.9%	68.9%	65.9%	46.4%	6.4%
50歳代以上 (n=184)	78.3%	77.7%	72.3%	34.2%	8.2%
合計 (n=580)	81.7%	70.3%	66.7%	45.0%	6.2%

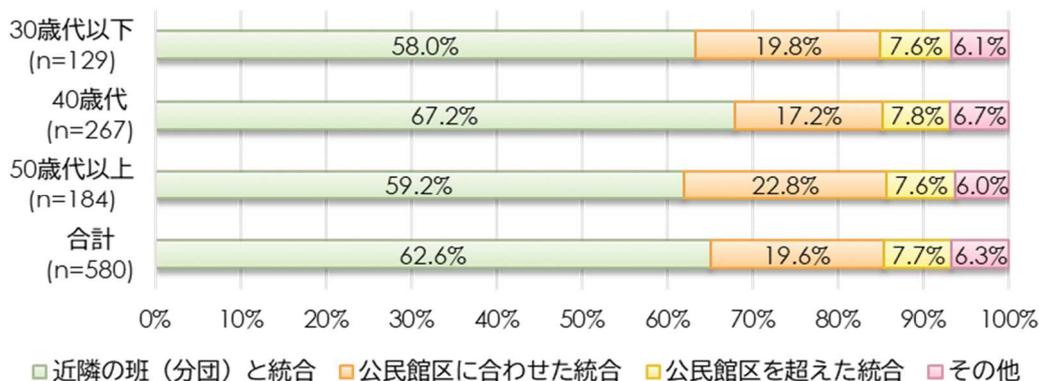
■所属別

松江橋北 (n=98)	69.4%	77.6%	78.6%	38.8%	9.2%
松江橋南 (n=58)	79.3%	74.1%	65.5%	15.5%	8.6%
鹿島 (n=59)	86.4%	74.6%	66.1%	47.5%	5.1%
島根 (n=50)	76.0%	68.0%	72.0%	62.0%	12.0%
美保関 (n=80)	82.5%	75.0%	66.3%	62.5%	5.0%
八雲 (n=34)	85.3%	58.8%	64.7%	52.9%	2.9%
玉湯 (n=34)	97.1%	41.2%	58.8%	38.2%	0.0%
宍道 (n=71)	90.1%	78.9%	62.0%	52.1%	5.6%
八束 (n=24)	91.7%	58.3%	75.0%	62.5%	0.0%
東出雲 (n=36)	86.1%	72.2%	66.7%	27.8%	5.6%
合計 (n=544)	82.4%	71.1%	68.2%	45.8%	6.3%

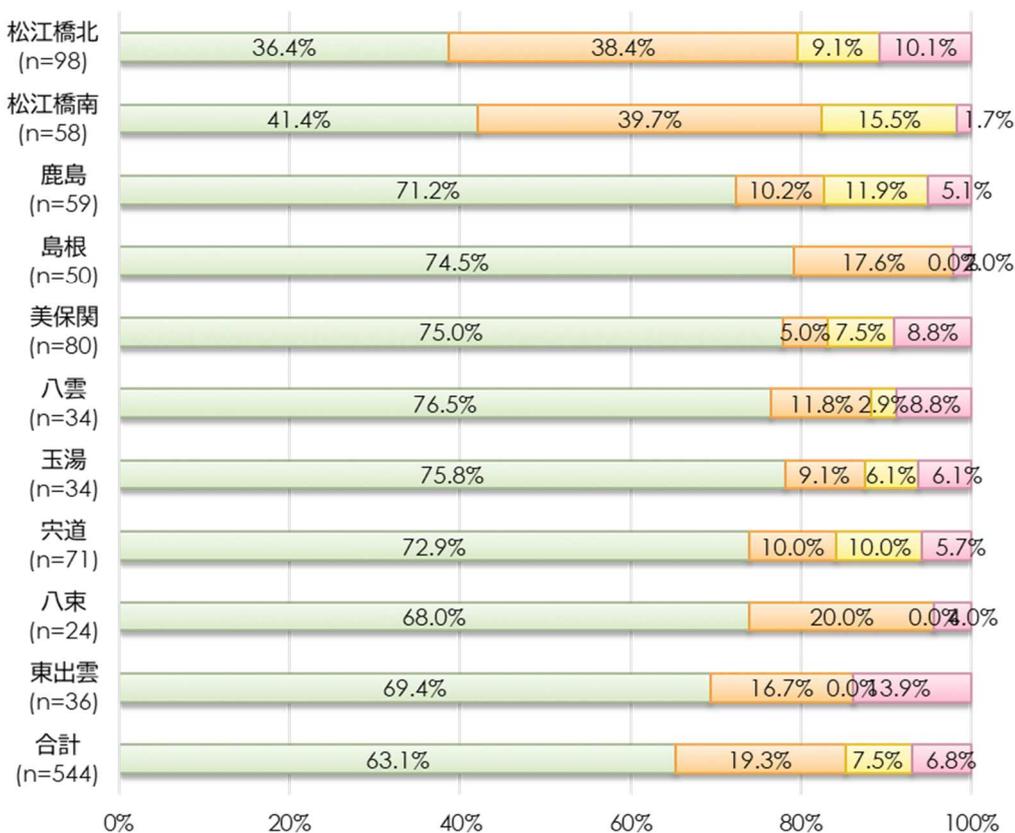
<問 11 統合の方法> 問) 「1. はい」の方は、どのような統合が理想だと思いますか。

- ・ 「近隣の班（分団）との統合」が6割、「公民館に合わせた統合」が2割であった。
- ・ 所属別では、橋北・橋南では、「近隣の班（分団）との統合」と「公民館に合わせた統合」が共に約4割で、その他では、約7割が「近隣の班（分団）との統合」であった。

■年齢別



■所属別



## (5) 行事(操法大会等)について

### <問 12 負担に感じている行事・活動(複数回答:3つ)>

- ・ 「操法訓練・大会」が8割以上、「出初式」が5割であり、年齢別もほぼ同様の傾向であった。
- ・ 所属別では、八雲で「操法訓練・大会」が93%、宍道で「その他の訓練」が47%、八束で「会議参加」が40%と、高い割合であった。

#### ■年齢別

	操法訓練・大会	出初式	その他の訓練	会議参加	材点検 日々の巡回や資機	不明者の捜索	水防活動	消火活動	その他
30歳代以下 (n=290)	81.7%	57.6%	36.2%	22.8%	12.8%	3.8%	4.8%	7.2%	8.6%
40歳代 (n=457)	85.3%	58.0%	34.1%	20.8%	9.0%	5.9%	7.2%	4.6%	8.8%
50歳代以上 (n=289)	78.5%	45.7%	28.0%	25.6%	6.6%	12.5%	6.9%	6.2%	10.7%
合計 (n=1,036)	82.4%	54.4%	33.0%	22.7%	9.4%	7.1%	6.5%	5.8%	9.3%

#### ■所属別

松江橋北 (n=194)	80.4%	51.0%	33.0%	14.9%	11.3%	10.8%	6.2%	6.2%	10.8%
松江橋南 (n=89)	86.5%	42.7%	34.8%	18.0%	4.5%	3.4%	14.6%	5.6%	29.2%
鹿島 (n=103)	83.5%	46.6%	34.0%	22.3%	8.7%	5.8%	6.8%	2.9%	14.6%
島根 (n=83)	84.3%	59.0%	28.9%	36.1%	7.2%	3.6%	2.4%	2.4%	8.4%
美保関 (n=128)	75.8%	62.5%	25.0%	31.3%	7.0%	13.3%	6.3%	5.5%	7.0%
八雲 (n=65)	93.2%	55.9%	35.6%	25.4%	11.9%	8.5%	10.2%	6.8%	5.1%
玉湯 (n=51)	74.5%	52.9%	33.3%	19.6%	9.8%	3.9%	3.9%	9.8%	11.8%
宍道 (n=123)	84.6%	62.6%	47.2%	21.1%	10.6%	5.7%	4.9%	4.1%	8.1%
八束 (n=55)	85.5%	56.4%	27.3%	40.0%	7.3%	3.6%	5.5%	10.9%	9.1%
東出雲 (n=81)	86.4%	55.6%	32.1%	19.8%	12.3%	4.9%	4.9%	2.5%	13.6%
女性・学生 (n=3)	33.3%	33.3%	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	66.7%
合計 (n=969)	82.7%	54.5%	33.3%	23.5%	9.2%	7.2%	6.5%	5.3%	11.9%

<問 13 負担に感じる行事・活動の改革の必要性（複数回答：3つ）>

問) 負担に感じている行事、活動についてどのように変えていけばよいと思いますか。

- ・ 「操法大会の改革」が75%、「出初式等の行事の改革」が52%、「行事、活動回数の見直し」が42%であり、年齢別もほぼ同様の傾向であった。
- ・ 所属別では、「操法大会」が橋南、八雲、東出雲で8割以上、「回数の見直し」が鹿島、宍道で5割以上と高かった。

■年齢別

	操法大会の改革	の出初式等の行事の改革	の行事見直し、活動回数	分団(班)の人数を増やす	その他
30歳代以下 (n=280)	68.6%	53.6%	45.4%	22.9%	8.9%
40歳代 (n=449)	78.2%	54.8%	41.4%	19.4%	6.7%
50歳代以上 (n=266)	76.3%	45.9%	40.6%	22.6%	8.6%
合計 (n=995)	75.0%	52.1%	42.3%	21.2%	7.8%

■所属別

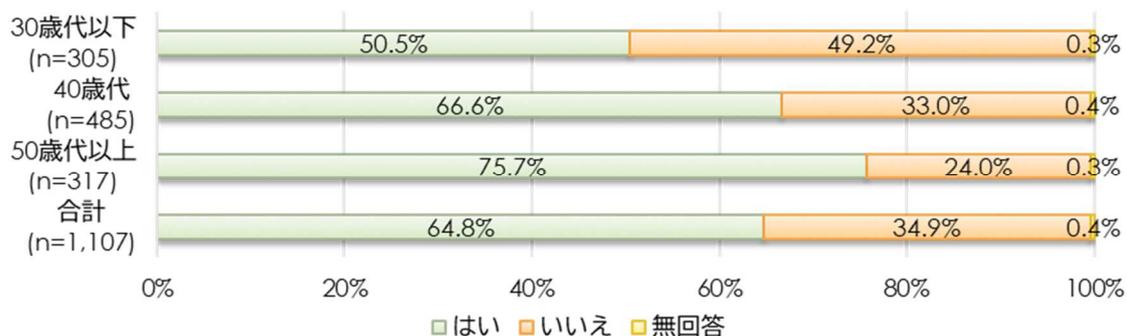
松江橋北 (n=186)	72.0%	47.3%	40.3%	17.7%	9.1%
松江橋南 (n=87)	79.3%	44.8%	35.6%	32.2%	10.3%
鹿島 (n=100)	69.0%	44.0%	51.0%	24.0%	3.0%
島根 (n=83)	72.3%	54.2%	41.0%	14.5%	9.6%
美保関 (n=123)	74.0%	56.9%	29.3%	22.0%	4.1%
八雲 (n=57)	82.5%	57.9%	42.1%	15.8%	7.0%
玉湯 (n=51)	68.6%	52.9%	47.1%	25.5%	7.8%
宍道 (n=120)	75.0%	57.5%	54.2%	19.2%	6.7%
八束 (n=53)	75.5%	54.7%	43.4%	24.5%	5.7%
東出雲 (n=77)	83.1%	50.6%	36.4%	22.1%	13.0%
女性・学生 (n=3)	33.3%	33.3%	33.3%	33.3%	0.0%
合計 (n=940)	74.5%	51.5%	41.7%	21.3%	7.6%

## (6) 報酬・待遇について

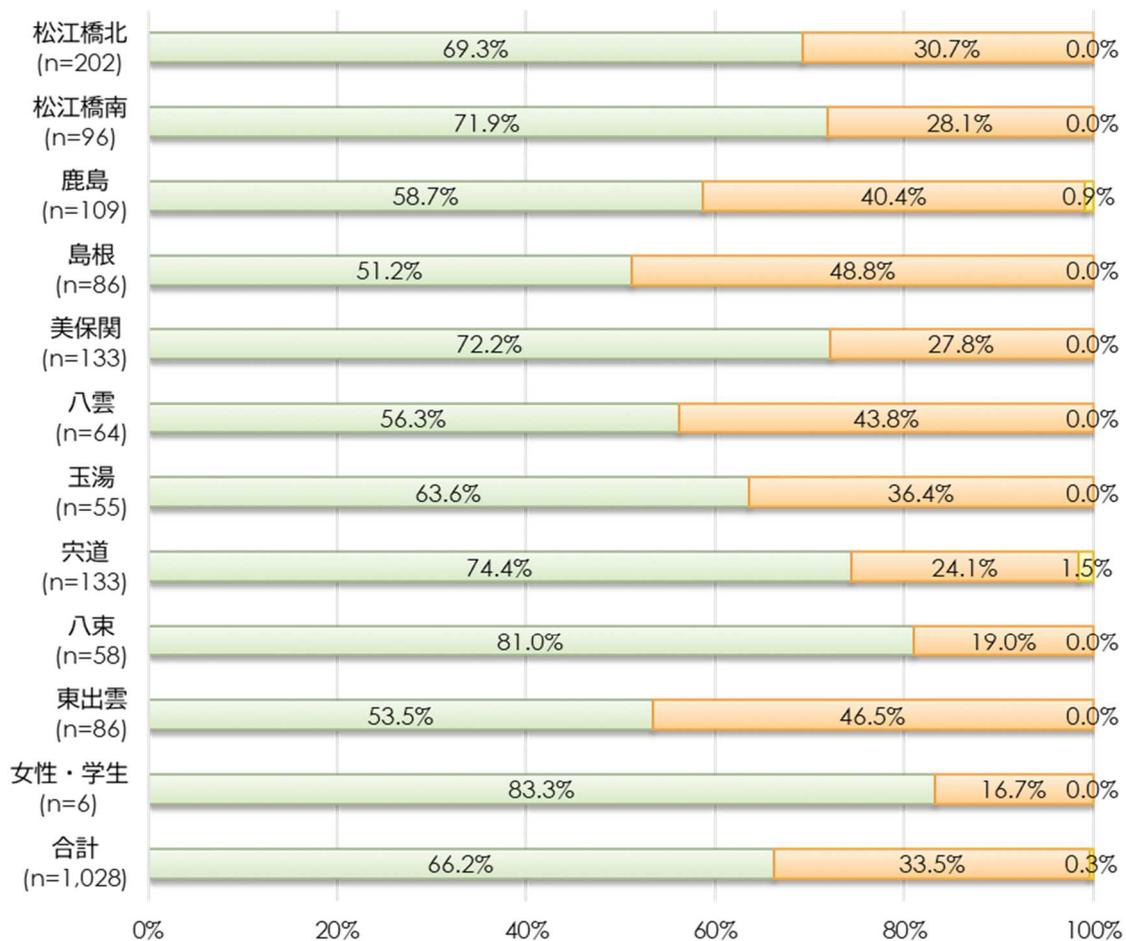
### <問 14 現在の年報酬額、費用弁償の金額をご存じですか>

- ・ 「はい」が65%であり、高年齢ほど「はい」の割合が高かった。
- ・ 所属別では、鹿島、島根、八雲、東出雲が「いいえ」の割合が高かった。

#### ■年齢別



#### ■所属別

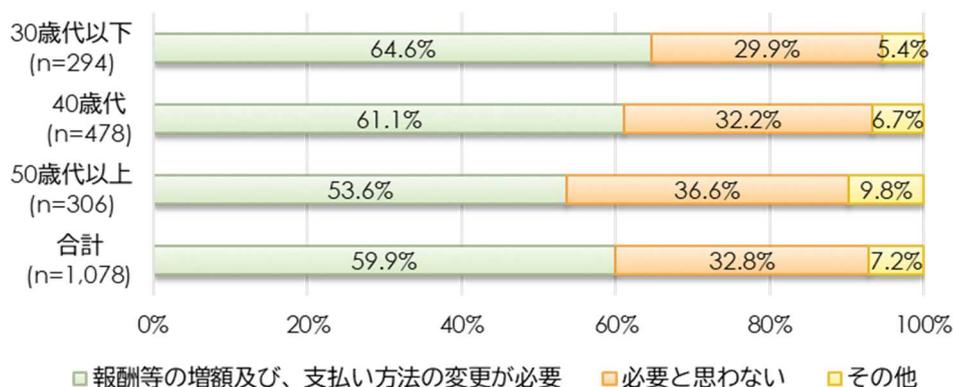


<問 15 報酬、待遇の改善の必要性>

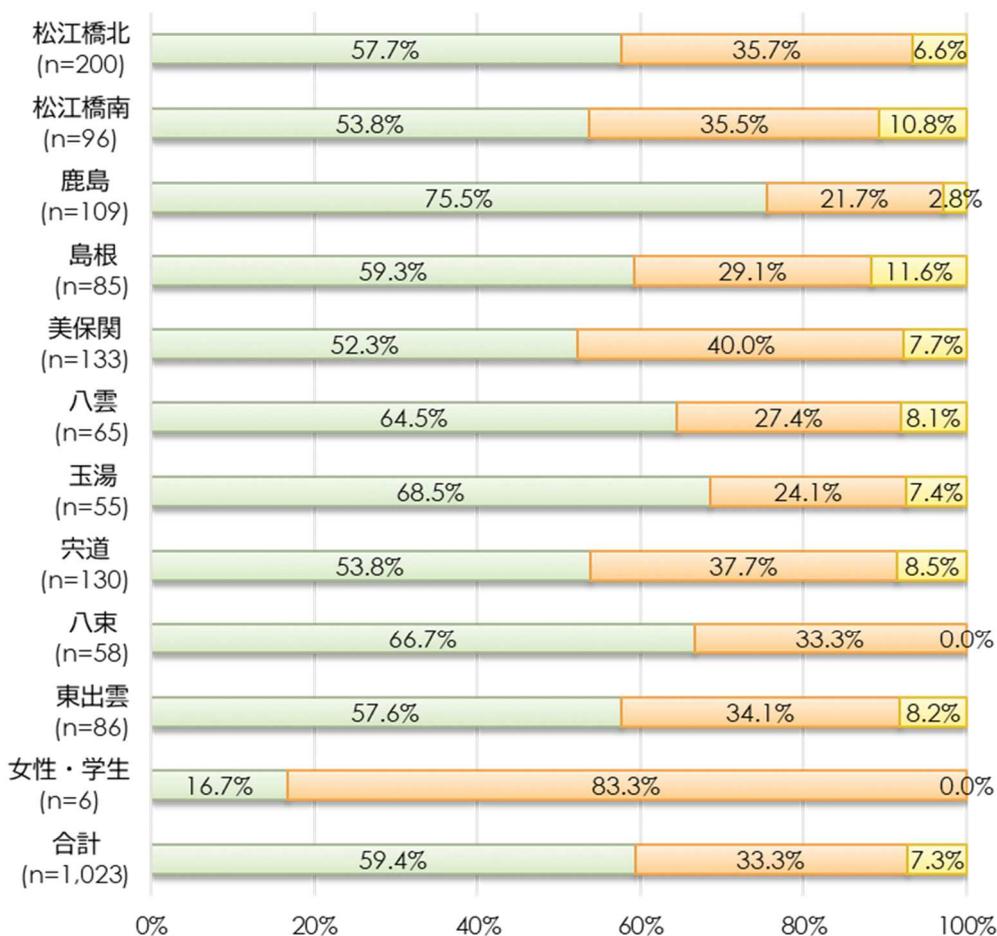
問) 報酬、待遇について改善が必要だと思いますか。

- ・ 「はい」が60%であり、若年齢ほど「はい」の割合が高かった。
- ・ 所属別では、鹿島、玉湯、八束の順に「はい」の割合が高かった。

■年齢別



■所属別



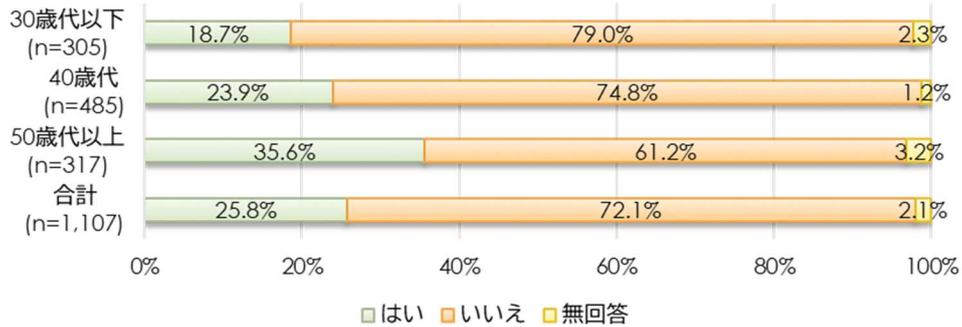
## (7) 車両、機庫及び装備について

### <問 16 資機材、個人貸与品の改善の必要性>

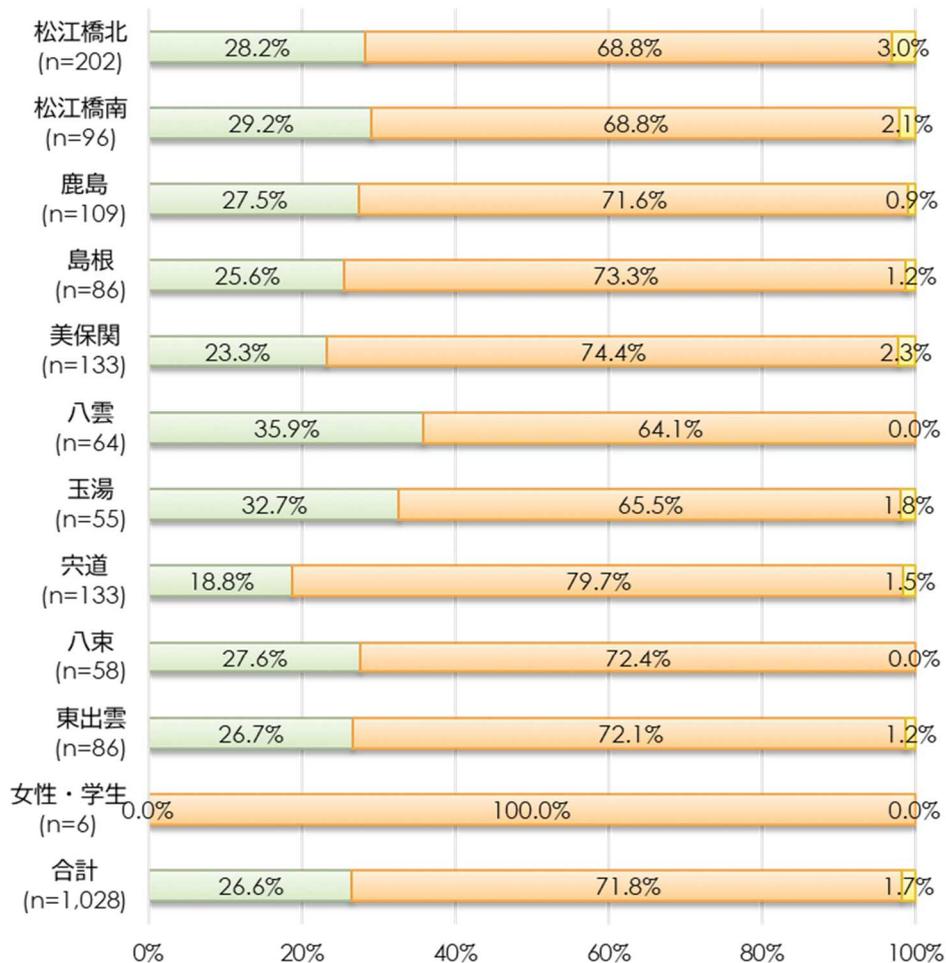
問) 所属する分団(班)で必要となる資機材、個人貸与品について改善が必要と思いますか。

- ・ 「いいえ」が72%であり、若年齢ほど割合が高かった。
- ・ 所属別では、八雲、玉湯で「はい」の割合が高かった。

#### ■年齢別



#### ■所属別



<問 17 資機材、個人貸与品の改善の具体的な内容>

- ・ 具体的な内容についての回答が 281 件あった。
- ・ 最も多かったのが長靴、活動着、防寒着、雨具等の個人装備であり、全体の 5 割を占めた。
- ・ その他、ポンプ・ホース等の資機材（26％）、車両のオートマ化、エアコン装備等の車両関係（22％）についての具体的な内容が記されていた。

(n=281)	実数	割合	主な内容
個人装備	153	54.4%	長靴(40)、活動着(38)、防寒着・雨具(25)、夜間用ライト等(15)、ヘルメット(12)
資機材	74	26.3%	ポンプ・ホース(37)、無線機(7)、土嚢等(5)
車両関係	62	22.1%	消防車、ポンプ車、積載車/車両の更新、オートマ化、エアコン
機庫（設備）	22	7.8%	老朽化、狭い、トイレ・水道・ホース干し場の設置
全般・その他	14	5.0%	車両・資機材の更新、消耗品の補充

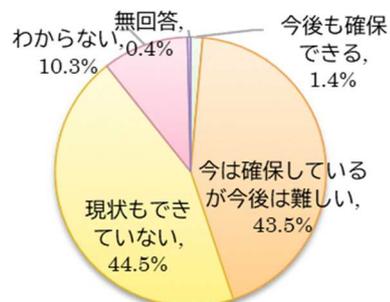
分類	具体的な意見（例）
個人装備	活動服の洗い替えがない。夏場の活動の時は特に。消防団の防火服は動きにくい。
	必要な防寒着などの不足。依頼しても時間がかかる。ヘルメットなども劣化しているが交換が遅い。
	海岸の捜索等発生した場合、ライフジャケットがない。夜間の作業時のヘッドライトがない。
資機材	古くなり動作が不安定になったポンプなど、火災時重要になる機材を速やかに更新できるようにしていただきたい。
車両関係	消防車のAT車化。現在配備されている消防車は、殆どがMT車かと思います。普段の生活でMT車を運転する機会は、かなり少なくなってきており、慣れないMT車の運転は、現在活動中の団員の方でも、不便に感じておられる方が少なくないように思います。（以下省略）
	車両にエアコンが欲しい。夏は熱中症になりそうです。
機庫（設備）	機庫の雨漏りがひどく、車両、装備にサビが落ちたりしているので、雨漏りを何とかして欲しいです。

## (8) 消防団員の確保について

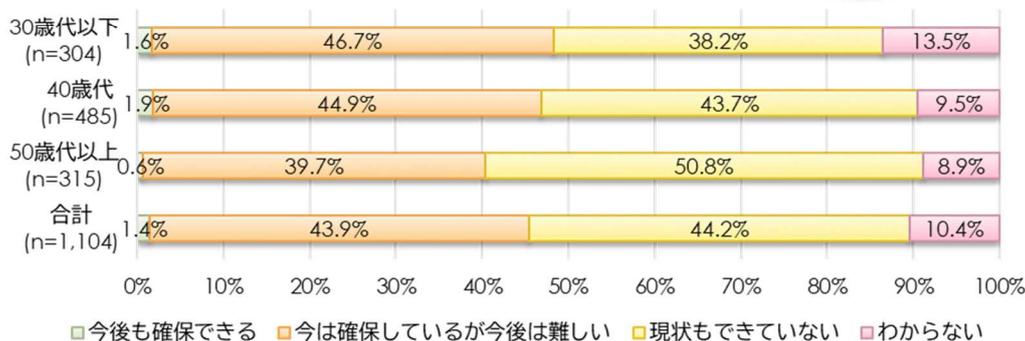
### <問 18 今後の新入団員の確保（複数回答）>

問) 新入団員の確保について、今後も確保できると思いますか。

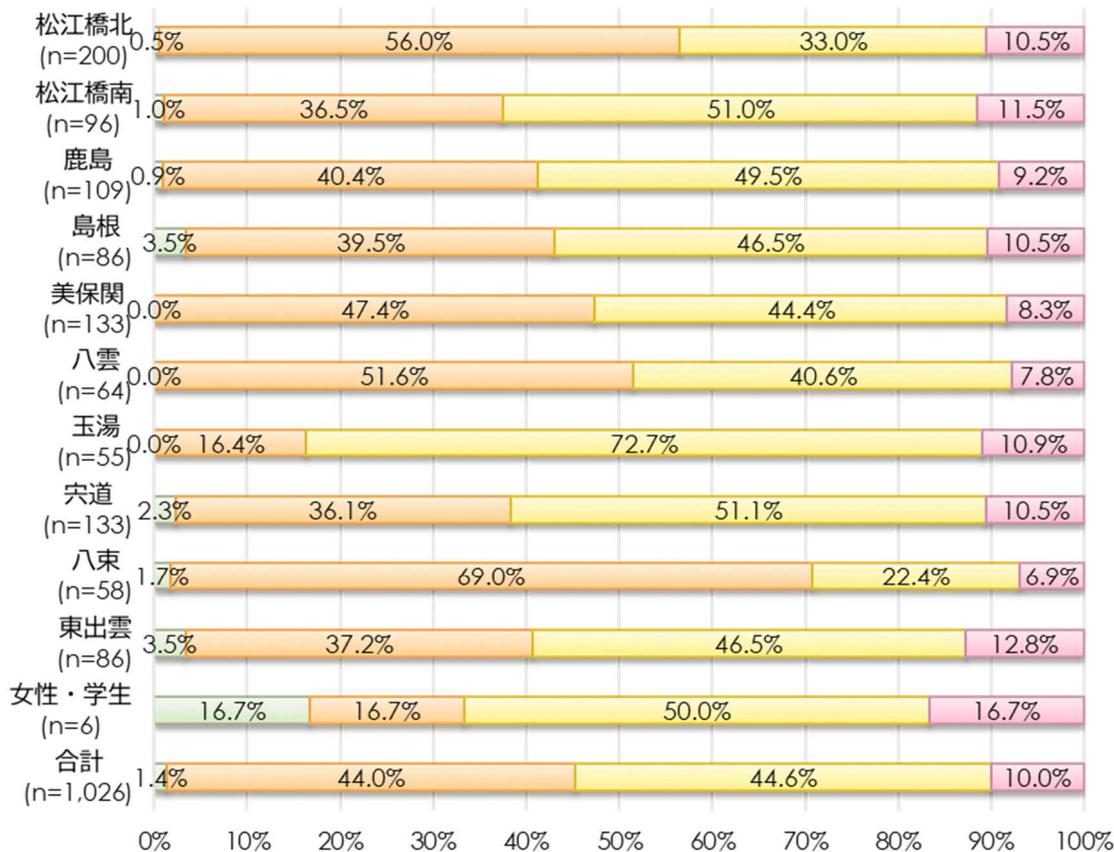
- ・ 「今は確保しているが今後は難しい」、「現状もできていない」が共に4割であり、年齢別では50歳代以上が難しく感じている。
- ・ 所属別では、玉湯で「現状もできていない」が73%と高くなっている。



#### ■年齢別



#### ■所属別



<問 19 勧誘が行いやすくなる対策（複数回答）>

問) どのような対応により、消防団の勧誘が行いやすくなると思いますか。

- ・ 「報酬等のメリットを周知」、「自治会、公民館との連携」が共に5割以上であり、年齢別では40歳代以下で「報酬等のメリットを周知」、50歳代以上で「自治会、公民館との連携」の割合が最も高い。
- ・ 所属別では、橋北、橋南、玉湯、宍道、東出雲で「自治会、公民館との連携」が最も高い。また、橋南、玉湯、鹿島、東出雲で「地元事業者への働きかけ」の割合が高い。

■年齢別

	報酬等の メリットを 周知する	自治会、 公民館との 連携	若年層 からの教育	地元 事業者への 働きかけ	積極的 な情報発信	その他	無回答
30歳代以下 (n=284)	65.5%	41.5%	36.6%	38.4%	35.6%	10.2%	2.1%
40歳代 (n=454)	57.3%	53.7%	41.4%	35.5%	36.8%	11.9%	0.7%
50歳代以上 (n=279)	46.6%	71.0%	42.3%	43.7%	39.8%	11.1%	3.6%
合計 (n=1,017)	56.6%	55.1%	40.3%	38.5%	37.3%	11.2%	1.9%

■所属別

松江橋北 (n=171)	50.3%	64.4%	40.3%	31.9%	36.6%	13.1%	1.6%
松江橋南 (n=89)	60.7%	67.4%	46.1%	51.7%	36.0%	11.2%	0.0%
鹿島 (n=102)	62.7%	47.1%	31.4%	43.1%	30.4%	10.8%	1.0%
島根 (n=81)	58.0%	38.3%	44.4%	29.6%	40.7%	8.6%	2.5%
美保関 (n=122)	46.3%	46.3%	35.5%	32.2%	36.4%	6.6%	5.8%
八雲 (n=57)	63.2%	57.9%	45.6%	36.8%	35.1%	7.0%	3.5%
玉湯 (n=51)	49.0%	74.5%	43.1%	49.0%	35.3%	15.7%	0.0%
宍道 (n=122)	56.6%	60.7%	41.8%	36.1%	36.9%	15.6%	0.8%
八束 (n=55)	74.5%	34.5%	43.6%	40.0%	34.5%	3.6%	0.0%
東出雲 (n=80)	56.3%	65.0%	41.3%	45.0%	48.8%	7.5%	1.3%
女性・学生 (n=3)	66.7%	33.3%	100.0%	100.0%	133.3%	33.3%	0.0%
合計 (n=952)	56.2%	56.2%	40.8%	38.3%	37.3%	10.6%	1.8%

## (9) 家族の考えについて

### <問 20 家族の活動に対する考え（複数回答）>

問)ご家族の立場から、消防団活動についてどうお考えですか。

- ・ 「災害時が心配」、「地域とのつながりができる」、「地域に対する貢献が大きい」の順に5割以上となっており、年齢別では30歳代以下で「家族の時間を取られ負担」が高く、地域のつながりや貢献の割合が低い。
- ・ 所属別では、八束で「地域とのつながり」、島根で「地域貢献」、玉湯、宍道で「家族の時間を取られ負担」が高くなっている。

#### ■年齢別

	災害時は心配である	地域とのつながりができる	地域に対する貢献が大きい	家族の時間を取られ負担を感じる	家族の負担は感じない	その他	無回答
30歳代以下 (n=266)	51.1%	47.4%	35.3%	39.5%	12.4%	3.0%	6.8%
40歳代 (n=433)	58.0%	55.0%	49.4%	34.2%	14.8%	3.0%	4.8%
50歳代以上 (n=262)	61.5%	55.0%	65.6%	20.2%	25.6%	2.7%	27.9%
合計 (n=961)	57.0%	52.9%	49.9%	31.8%	17.1%	2.9%	11.7%

#### ■所属別

松江橋北 (n=178)	60.7%	48.9%	50.6%	30.3%	16.9%	2.8%	7.3%
松江橋南 (n=85)	60.0%	56.5%	54.1%	28.2%	17.6%	2.4%	4.7%
鹿島 (n=95)	47.4%	51.6%	34.7%	29.5%	18.9%	4.2%	7.4%
島根 (n=75)	57.3%	54.7%	72.0%	18.7%	24.0%	1.3%	8.0%
美保関 (n=115)	54.8%	58.3%	56.5%	19.1%	23.5%	0.9%	5.2%
八雲 (n=54)	68.5%	55.6%	59.3%	20.4%	13.0%	0.0%	5.6%
玉湯 (n=48)	47.9%	37.5%	43.8%	64.6%	6.3%	6.3%	6.3%
宍道 (n=119)	63.9%	60.5%	46.2%	51.3%	13.4%	5.0%	2.5%
八束 (n=51)	33.3%	68.6%	52.9%	17.6%	25.5%	2.0%	7.8%
東出雲 (n=79)	63.3%	45.6%	41.8%	35.4%	11.4%	2.5%	1.3%
女性・学生 (n=3)	0.0%	33.3%	33.3%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%
合計 (n=902)	56.9%	53.7%	50.7%	31.3%	17.6%	2.8%	5.5%

## (10) 自由記述

- ・ 有効回答数 1,118 件中 426 件（38%）の自由記述があった。このうち、250 字以上の意見が 80 件（19%）あり、関心の高さがうかがえた。
- ・ 操法大会・訓練に関する意見が最も多く、479 件中 91 件（19%）であり、続いて、団員確保、報酬・待遇に関する意見が多かった。
- ・ 操法大会に関する意見（91 件）は、30 歳代が 30 件（33%）、40 歳代が 43 件（47%）と全体の 8 割であり、関心の高さがうかがえる。

No	分類	件数	割合
1	操法	91	19.0%
2	団員確保	69	14.4%
3	報酬・待遇	47	9.8%
4	組織体制	36	7.5%
5	機庫・車両・装備等	26	5.4%
6	有事の体制	18	3.8%
7	企業・職場の協力	18	3.8%
8	教育訓練	17	3.6%
9	PR	17	3.6%
10	活動参加	15	3.1%
11	退団	12	2.5%
12	地域連携	11	2.3%
13	イメージ・組織体質	11	2.3%
14	存在意義	10	2.1%
15	活動内容	10	2.1%
16	消防との関係	7	1.5%
17	全般	6	1.3%
18	コロナ	5	1.0%
19	IT 関係	5	1.0%
20	新入団員	4	0.8%
21	市との連携	4	0.8%
22	行事	4	0.8%
23	女性団員	3	0.6%
24	計画策定	3	0.6%
25	その他	30	6.3%
	合計	479	100.0%

※ 記述内容が多岐にわたる意見については、主な意見で分類した。

※ ただし、文字数が多く（概ね 200 字以上）、記述内容が多岐にわたる意見については、意見を分割した。

### 3. 方面団

#### (1) 活動のあり方について

##### <問1 活動の現状>

方面団名	現状 (①~④)	理由
橋北	②どちらかといえば適切	
橋南	①適切	
鹿島	②どちらかといえば適切	コロナ禍の中、訓練行事への参加がむづかしい。
島根	②どちらかといえば適切	
美保関	①適切	消防団室、東部分署、消防団、分団長、班長との連絡、災害時等の指揮がとれている。
八雲	②どちらかといえば適切	
玉湯	①適切	各班自主性を持ちながら、参加人数の大小はあるが、全体として前向きな活動ができている。
宍道	①適切	
八束	①適切	
東出雲	③あまり適切ではない	同じ年齢帯(50前後)が多く、数年後が心配。

①適切 (5)、②どちらかといえば適切 (4)、③あまり適切ではない (1)、④不適切

##### <問2 活動上の課題(複数回答)>

方面団名	団員数の減少	高齢化による 消防力の低下	行事・訓練参 加の負担	昼間消防力の 低下	車両資器材の 不足・老朽化
橋北		●		●	
橋南	●	●		●	
鹿島		●		●	
島根				●	
美保関				●	
八雲	●	●	●	●	
玉湯	●	●	●	●	
宍道	●		●		
八束	●			●	
東出雲		●		●	
意見数	5	6	3	9	0

※その他意見：【美保関】昼間活動する場合、時間がかかる時がある。

【玉湯】家庭における役割もあり、理解と言う言葉だけでは表せない一面がある。単に消防団活動だけではなく、地域住民として他の団体への参加している者もあり個人への負担の集中に伴う労力の分散もあり、また、定年 代わりの者が無いなどモチベーションを下げる要素がある。

【東出雲】退職希望者(50才前後、多年勤続者)が多く、ゆうれい化していている。

<問3 活動上の課題に向けての対策（複数回答）>

課題解決に向けてどうしたらよいと思いますか

方面団名	消防団について積極的なPR	報酬・待遇の改善	活動回数等の負担軽減	分団の統合等枠組みの見直し	国・市による財政支援の拡充
橋北	●	●		●	
橋南	●	●			●
鹿島	●	●			
島根	●				
美保関	●			●	●
八雲		●	●		●
玉湯	●	●	●	●	●
穴道		●			●
八束	●				●
東出雲	●			●	
意見数	8	6	2	4	6

※選択肢5（車両、資機材等の充実）については、選択した方面団はなかった。

※その他意見

【橋北】車両配備に関して、配備分団等の意向の確認。

【美保関】広域化を進めるにおいて、各班の活動範囲を広げる事が必要になる。

【玉湯】義務化。消防団発足から右肩下がりであれば抜本的改革が必要なのでは。地域貢献の意義。

## (2) 行事について

### <問4 行事の現状>

方面団名	現状 (①~④)	理由
橋北	②どちらかといえば適切	
橋南	②どちらかといえば適切	
鹿島	②どちらかといえば適切	コロナ禍の中、いろいろ行事や訓練をふやしても、行事の中止延期で、できる事をできるようにして、行っていけばよいと思う。
島根	②どちらかといえば適切	
美保関	②どちらかといえば適切	具体的に選抜(方面団で集める)。ただし、PR、動画等で他の団員には周知する。
八雲	③あまり適切ではない	操法大会の練習においては普段体を動かす機会のない人が突然体を動かすためケガの心配、それに伴う家族の不安、本業への影響。
玉湯	②どちらかといえば適切	操法訓練、大会においては特に火災時における技術、精神力、組織力を高める機会と考えており、また年一で行う方面団訓練においても、災害想定で必要と思われる訓練を実施し先の災害対応にも活かされていると考える。団員としての職務を全うし活動する大事な団員を無事家庭にかえす為、二次災害の防止の為必要である。
宍道	①適切	
八束	②どちらかといえば適切	
東出雲	③あまり適切ではない	輪番制で操法出場(班)を決めているが、今後出場出来ない班があると思う。

①適切(1)、②どちらかといえば適切(7)、③あまり適切ではない(2)、④不適切

<問5 行事を行う上での課題（複数回答）>

方面団名	団員数の減少	高齢化	活動時に団員 が集まらない	マンネリ化
橋北				
橋南	●			
鹿島		●		●
島根				
美保関	●	●		
八雲	●	●	●	
玉湯	●		●	
宍道			●	●
八束	●		●	
東出雲		●	●	
意見数	5	4	5	2

※その他意見

【美保関】5年、10年後を考えます。 【玉湯】マンネリ化？

【東出雲】操法が入団を断る理由となっている。

<問6 行事を行う上での課題解決に向けて（複数回答）>

方面団名	団員数を増やす	操法大会、出初式 等の行事の改革	行事の回数等の 見直し
橋北		●	
橋南	●		
鹿島	●		
島根			
美保関		●	●
八雲		●	●
玉湯			
宍道			●
八束	●		●
東出雲	●	●	
意見数	4	4	4

※その他意見：【美保関】問4、5同じ様に考える。

【橋北】操法大会が競技化して、同じ団員が出場（本来の目的からのずれ）

【玉湯】その意義を伝え動員をかけ続けますが、方面団出初式については是非があります。

### (3) 報酬・待遇について

#### <問7 報酬・待遇についての改善の必要性>

方面団名	改善 (①②)	理由
橋北	①必要と思う	標準金額に準ずれば。
橋南	①必要と思う	他の市町村との比較をして見るのも良い。
鹿島	①必要と思う	鹿島方面団は原子力事故もあるので、危険手当も考えて見てもらいたい。
島根	①必要と思う	機能別団員の年報酬が低い
美保関	②必要と思わない	
八雲	①必要と思う	毎月の巡回、水出し、点検が、参加人数分の報酬が当然と思う。
玉湯	①必要と思う	仕事と比較して
宍道	①必要と思う	
八束	①必要と思う	
東出雲	①必要と思う	待遇面での特典をPRすべき。

①必要と思う (9)、②必要と思わない (1)

#### <問8 報酬等の支払方法 (個人払い等) の改善>

方面団名	支払方法改善 (①②)	理由
橋北	①必要と思う	今後検討必要 (年報酬は直接支払とか)
橋南	②必要と思わない	
鹿島	②必要と思わない	いまさらと思う。
島根	②必要と思わない	
美保関	②必要と思わない	組織の中では必要と思わない。
八雲	②必要と思わない	
玉湯	①必要と思う	本来個人の受け取るものである。
宍道	②必要と思わない	
八束	②必要と思わない	
東出雲	①必要と思う	各班・分団・方面団で状況が違うと思うので、他団の話を知りたい。地域から支援されているところ、ないところ、そのあつかい (金) はどうしているか。

①必要と思う (3)、②必要と思わない (7)

#### (4) 車両、機庫及び装備について

##### <問9・10 車両(車種・配置)の改善の必要性和具体的な内容>

方面団名	車両の改善(①②)	具体的な内容
橋北	①必要と思う	車両配備について、分団に意向の確認。(現状にあったもの)＝地区。軽車両－装備等の積載(予備ホース、人員)、能力。→結果個人車両が常に必要
橋南	②必要と思わない	
鹿島	②必要と思わない	
島根	②必要と思わない	
美保関	②必要と思わない	
八雲	②必要と思わない	
玉湯	①必要と思う	積雪の多い班が軽車両
宍道	②必要と思わない	
八束	①必要と思う	車両のオートマチック化
東出雲	①必要と思う	軽はパワー不足の声多い。(個人・事務所の車を借りた時は、礼金を出しているが、班・団で負担)

①必要と思う(4)、②必要と思わない(6)

##### <問11・12 機庫(種類・配置)の改善の必要性和具体的な内容>

方面団名	機庫の改善(①②)	具体的な内容
橋北	①必要と思う	老朽化による雨漏り等、資機材への影響あり。
橋南	②必要と思わない	
鹿島	②必要と思わない	
島根	②必要と思わない	
美保関	①必要と思う	美保関方面団には、車庫とは別に機庫を持っている班が約14あります。事例、片江班は自治会が所有者に支払いをしている。
八雲	②必要と思わない	
玉湯	①必要と思う	老朽化、トイレが無い。
宍道	②必要と思わない	
八束	①必要と思う	老朽化が激しい機庫もあるので修繕が必要。
東出雲	①必要と思う	コミュニティと兼用施設はコミュニティ分も、消防団維持。分けてほしい。

①必要と思う(5)、②必要と思わない(5)

<問13・14 資機材（種類・配置）の改善の必要性と具体的な内容>

方面団名	資機材の改善①～②	具体的な内容
橋北	①必要と思う	配布物について、サイズの台帳作成とか要望がある（過去にはサイズ調査あった様に思うが）。ヘッドランプ、ゴーグル等
橋南	②必要と思わない	
鹿島	②必要と思わない	
島根	①必要と思う	雨具を支給してほしい
美保関	①必要と思う	問12で回答しましたが、すみません、全て確認してません。
八雲	①必要と思う	火災に対する資機材はある程度充実していると思われるが、水害等の資機材の不備が、今回7月の水害時に痛感した。
玉湯	①必要と思う	トランシーバーについて
穴道	②必要と思わない	
八束	②必要と思わない	
東出雲	①必要と思う	カッパを望む声多い。

①必要と思う（6）、②必要と思わない（4）

(5) 団員の確保・勧誘方法について

<問15・16 今後の確保と確保・勧誘のための方策（複数回答）>

方面団名	今後の確保（①～④）	自治会、公民館との連携	周知のための情報発信	団員の育成・技術向上	報酬等のメリット周知
橋北	②今は確保・今後は難しい	●	●		●
橋南	②今は確保・今後は難しい	●	●		●
鹿島	①今後も確保できる	●	●		
島根	②今は確保・今後は難しい		●		
美保関	③現状もできていない	●	●		
八雲	③現状もできていない	●	●		●
玉湯	③現状もできていない	●	●		
穴道	④わからない	●			
八束	②今は確保・今後は難しい	●	●		●
東出雲	③現状もできていない	●			●
意見数	①1、②4、③4、④1	9	8	0	5

①今後も確保できる、②今は確保しているが今後は難しい、③現状もできていない、④わからない

※その他意見：【美保関】自治会の勧誘も有り。

【玉湯】自治会未加入者もあり世帯数ほど①の対象にならない。そもそも付き合い、活動を避ける人が増えている、地域行事の減少する中コミュニケーションをとる機会が少ない。消防団として子ども対象の祭りにて車輛展示などして未来への働きかけはしている。

## (6) 組織体制について

<問 17・18・19 班・分団の構成・団員数は適当か、統合・再編の必要性と方法>

方面団名	構成・団員数 (①～⑤)	枠組み統合・再編の必要性 (①②と理由)	統合方法 (①～④)
橋北	③適当	①必要と思う(都市部(旧市内)分団で、団員確保が難しくなっている)	④消防署・分署の管轄区域
橋南	③適当	①必要と思う	①近隣の班(分団)
鹿島	③適当	②必要と思わない(長年の歴史もあるので、今必要ではない。)	①近隣の班(分団)
島根	④やや少ない	②必要と思わない	①近隣の班(分団)
美保関	②やや多い ・③適当	①必要と思う(やはり広域化(合併))	
八雲	③適当	②必要と思わない	
玉湯	他	①必要と思う(団員数の減少、同地区に2班ある。過去災害で分断されたことがあり、県道の拡幅の後に進める方向でいる。)	②公民館区に合わせた統合(災害対応する中で集約がし易い。混乱を招かぬよう迅速に対応出来る。)
穴道	③適当	②必要と思わない	
八束	③適当	①必要と思う	①近隣の班(分団)
東出雲	③適当	①必要と思う(地域で人口割合が違う。新しく出来た地区で新しい班を!)	①近隣の班(分団)

※選択肢

問17：①多い、②やや多い(2)、③適当(9)、④やや少ない(1)、⑤かなり少ない(0)

問18：①必要と思う(7)、②必要と思わない(3)

問19：①近隣の班(分団)と統合(5)、②公民館区に合わせた統合(2)、③公民館区を超えた統合(0)、④消防署・分署の管轄区域に合わせた統合(1)

## (7) 自治会・公民館との連携

<問20 自治会や公民館との現在の連携内容（複数回答）>

方面団名	団員の勧誘・確保	災害時の捜索・救助	地域の防災訓練支援	防災行政無線の通信訓練	避難誘導体制の確立	自主防災組織との連携等による地域防災体制の確認
橋北	●	●	●			
橋南	●	●	●			●
鹿島			●			●
島根		●				
美保関						
八雲	●	●	●			●
玉湯	●	●	●		●	●
穴道		●			●	●
八束	●		●			
東出雲			●			●
意見数	5	6	7	0	2	6

※その他意見：【東出雲】地域によって内容の不十分、蜜が違う。

【玉湯】それぞれの地区において対応は違う。その連携度合いも様々。

## (8) 団員育成・技術向上について

### <問21 団員育成・技術向上の取組(複数回答)>

方面団名	消防操法訓練	技術講習	救助訓練	消防本部による救急・救助活動の指導	消防団間の意見交換
橋北	●	●			
橋南	●		●		
鹿島	●			●	
島根	●				
美保関					
八雲			●		
玉湯	●		●		●
穴道	●				
八束	●		●		
東出雲				●	●
意見数	7	1	4	2	2

※その他意見：【玉湯】部隊訓練。中継訓練。

【橋北】本年度、過去3年間での新任団員に対して、基礎訓練実施、安全確保の為の訓練。

【鹿島】山林火災を想定した中継訓練は必要なので、技術向上にもつながるのではないかと思う。

### <問22 育成上の課題(複数回答)>

方面団名	教育訓練の機会が少ない	参加者が少ない	消防団員間の意見交換の機会が少ない
橋北	●		●
橋南			●
鹿島	●		●
島根	●		
美保関			
八雲		●	
玉湯			
穴道	●	●	
八束		●	
東出雲	●		●
意見数	5	3	4

※その他意見：【東出雲】コロナがいわけになっているが、幹部も逃げごしとなっている。

【橋北】現状厳しい面があるが、順次増していきたい。【玉湯】操法訓練の参加者が少数の班もある。

【美保関】訓練の機会は良いと思いますが、別の方法、スマホによる動画等を活かせればと思います。

## (9) 自由意見

【橋北】団員のサラリーマン化は今に始まったことではないが、若年層の意識の低下はみられる。昼間の災害発生での人数不足。地域での消防団への意識に温度差がある。(理解不足-PR不足)。橋北方面団は10分団ある中で、分団ごとに地域性がある中で努力してくれている。公民館単位であるが、1分団には3つの公民館対応で苦勞している。他報告書でも報告します。

【鹿島】将来のことは、今現在、なかなか問題もクリアしてないので、将来のことも大事だが、今の問題を一つづつクリアできるように団員との意見交換の機会を多くとって、話をしていくことが大事ではないかと思う。

【美保関】消防団員の意識を高める方法を考えて行きたい。アンケート問1~22の通り訓練、PR、動画。

【玉湯】消防団、団員皆様の未来が明るいものであることを願います。  
団員皆さんは地域、地域住民の為に志高く取り組んで頂いている貴重な方です。随所で皆さんも大事な市民であり玉湯町民なのです。と伝え活動に当たっていただいています。  
上でも記したよう、無事家庭に帰っていただく為にも訓練は必要不可欠であります。が、一方で団員の負担になるのも事実。大会があれば勝負ですから過度に熱もあがります。操法も資格の取得とするべきではと思ひ、考える時もあります。しかし長い時間、真剣に取り組む苦樂を共にしてこそ絆、成熟が生まれ、信頼関係のもと良き地域に繋がっていくのではないだろうか。など、相反するものの中で葛藤しております。  
今回のアンケートで家庭に関する部分が少なく思いましたが、まず家庭における時間をさいて活動していますし、これも配慮を見て頂く機会でしたね。  
国の方針、指針、教育、時世など見極めは容易ではありませんが、その場しのぎの対応にならぬよう、消防団員の職務を果たす上で何が必要で、何が不必要かこれからも考えて参ります。  
集計大変な作業と思いますがよろしくお願ひいたします。

【東出雲】分団ぐらいの小さい単位で地域の人とどのうの作り方、積方等の訓練をしてはどうか？その時に消防団の現状を見てもらい、勧誘につなげる。地域の防災の会に出ると消防団への期待は大きいですが、現状は団員がいない。今後いなくなる可能性があることを見てもらう。東出雲町は人はいると思うが、入団につながらない。コミュニティは関心が無い。かかわりたくないのかな？

## 4. 女性分団

(1) 活動のあり方について	
活動の現状 (問1)	②どちらかといえば適切 理由) コロナ禍において、なかなか活動することが難しいため。
活動上の課題 (問2)	①団員の確保 ③女性団員の役割の強化
課題解決のための 対策(問3)	①女性団員活動の積極的なPR ⑤訓練内容の改善
(2) 行事について(出初式等)	
行事の現状 (問4)	②どちらかといえば適切 理由) 行事が多くなったとしても参加が難しいこともあるため、現状が良いと思います。
行事を行う上での 課題(問5)	①団員の確保 ②活動時に団員が集まらない
課題解決に向けて (問6)	①団員数を増やす
(3) 報酬・待遇について	
改善の必要性 (問7)	②必要と思わない
(4) 女性団員の確保・勧誘方法	
必要な取り組み (問8)	②女性団員を主としたPR活動 ③グループでの入団勧誘
(5) 団員育成・技術向上について	
実施したい訓練 (問9)	②防災・火災予防・救助等の知識 ③消防本部による救急・救助活動の指導
育成等の課題 (問10)	②参加者が少ない その他) 仕事・家庭との両立の中で、訓練をしようとしても参加者が少ないのと、期間があきすぎて、訓練しても身につかないと思う。
(6) 自由意見	
現在の状況では、今できることを行うしかないと思います。	

# 方面団意見集約結果

## ① 方面団のあり方、組織体系について

### まとめ

- ・ 団員の確保が困難となり、将来的には班（分団）の統合が必要。

※（ /10）は、方面団数を表す。

### 【団員確保について】

#### ● 勧誘活動が困難で、新入団員確保に苦勞している。(8/10)

- ・ 若者の絶対数が少ない。また候補者の情報源が少ない。
- ・ 自治会等と連携して団員候補を推薦してもらいたい。
- ・ 一度、区切りの定年（15年位）を定めてもよいのではないか。
- ・ 友達・後輩等の伝手を使うしかない。
- ・ 小学校、幼稚園への出前授業や一緒に活動出来る場（避難訓練・地域行事の祭）に出向き、子ども経由で入団に結び付くようにしてはどうか。
- ・ 団員の確保が難しくなるため地元企業に協力をお願いしている。
- ・ 女性分団を配置し、女性団員を増やす活動が必要。

### 【統合について】

#### ● 将来的に班（分団）の統廃合等が必要になってくると思う。(8/10)

- ・ 団員数が約60～70人減少している中で、広域化は必要。
- ・ 団員数を維持していく事が困難である。
- ・ 5～10年後、団員の確保を考えると不安になる。分団・班の統合も視野に入れながら考えていく問題だと思う。
- ・ 団員確保も困難のため、現在有る班を合併して定員確保を考えている。
- ・ サラリーマン化・高齢化に伴う団員不足からの分団内での班の統廃合を含む編成の見直しも必要となってくると考える。

#### ● 統合について理解はあるが、方面団体制は維持すべき。(3/10)

- ・ 組織体系は10年以上良い状態だとも思う。
- ・ 隣接する分団の支援出動でカバーする。方面団としての統括は重要であるので、維持すべきと考える。
- ・ 方面団の在り方として、地域的観点からも現状維持ではないかと思う。

# 方面団意見集約結果

## 【その他の意見】(2/10)

●現在の松江市消防団の組織体系は、合併時の各町村の組織体系を合わせたもので、各方面団の人員数や分団と班との関係が方面団によりまちまちである。

松江市消防団としての組織全体を考えるなら、すべての方面団が同じような考え方で組織体系を考えなおす必要があると思う。また、地域により消防団組織や人員数が違うのは、不公平感を助長するものになると思うので、共通化を図ってほしい。

●玉湯方面団は1分団で運営しておられるが、方面団と分団の役割分担や地域性など興味のあるところだ。

# 方面団意見集約結果

## ② 行事について（操法大会・出初式等）

### まとめ

- ・ 操法や出初式は必要であるが、時間・方法の見直しが必要。
- ・ 労苦を共にすることで、自身や士気の向上につながる。
- ・ 家族や仕事への負担感が大きい。

### 【操法の必要性】

#### ●ホースやポンプ等の資機材の習熟のため操法大会は必要である。（5/10）

- ・ 操法大会は消防団の士気と技術を高める機会である重要な行事ではある。
- ・ コロナ禍で操法の練習がなくなり、団全体の士気が低迷している。

### 【操法の課題】

#### ●団員数の減、仕事の多様化等で職場、家庭への負担が大きい。（10/10）

- ・ 団員数も減り、仕事の多様化で訓練時の一人一人の負担が大きい。
- ・ 必要であるが、その一方で職場や家庭でかなりの負担となっている。
- ・ 近年競技性が強くなり、選手の偏り・練習時間の負担等本来の目的からずれてきている点もあるように思う。

### 【操法に関してその他の意見】（10/10）

- ・ 職場や家庭への負担を考えると選考方法や訓練期間の短縮などを検討いただきたい。
- ・ 操法大会の練習期間が長く、選手確保が難しいため、操法選手を町全体で募り、出たい人を選抜で選び選手確保する。
- ・ 全国には消防団維持のため操法参加をやめた消防団（下妻消防団等）があるようだが、その後どうなったのか。
- ・ 操法のための訓練ではなく、実際の現場で全員が対応出来る様な、ポンプ操作・ホースを繋ぐ訓練が必要ではないか。また、技術の継承のため継続的な訓練も必要。
- ・ 有事の際、基本動作・操作・安全の確保は訓練が原点であるが、団員の不足・高齢化等を勘案し、現時点では隔年開催でもよいのでは。
- ・ 行事ごとに消防団員全体から選抜する。訓練もよいが動画を活用しては。
- ・ 毎年実施のため選手、団員の負担軽減の改革（出場班持ち回り・選抜等）は必要である。

# 方面団意見集約結果

## 【出初式についての意見】（6/10）

### ●伝統ある出初式は必要だと思うが、日程や内容の改革を望む。

- ・伝統ある出初式は、非常に大切であると思っておりますが、一方で消防団以外の方には出初式の認知度や意義が浸透されていない。今後、必要に応じて行事の改革や広報（市民の方に対して）も必要になってくると思う。
- ・出初式は団員相互の結束を図るためにも欠かすことの出来ない行事と考える。
- ・出初式の平日開催は出席率が悪いので日曜日に実施してほしい。
- ・出初式の場所を10方面団の持ち回りで行ってはどうだろうか、規模は縮小しなければならないが地域のPRにもなる。そこから城山に向かい一斉放水する。
- ・出初式等は大幅縮小でもよいと思う。従来、出初式は土曜日の開催ですが、団員の出席しやすさを考慮していただき、各消防団活動行事等を日曜日に行ってもらいたい。

## 【その他の行事とその他の意見】（6/10）

### ●研修等の日程は平日の夜間か休日に変更してほしい。

- ・会社勤めの団員も多く、会社に対して肩身が狭いため開催を休日や平日の夕方以降に開催していただきたい。
- ・サラリーマン化による残業、遠方通勤地など、訓練に参加出来にくい状況となってきている。
- ・核家族化により家事負担の増大で家族の理解も得られない。

### ●研修の内容は現状に即したものとし、回数を検討してほしい。

- ・講習や研修などは、負担のかからない様に最小限度にすべき。
- ・近年の水害多発を考慮し、それに即した実践的な講習等を今後増やしていくべき。
- ・地域からの要望（花火大会の警備や川土手の草焼きの警備等）で出動することもあるので、行事が沢山あると団員集めに苦勞する。行事はできるだけ少ない方がよい。
- ・行事を行うことは賛成ですが、新型コロナウイルス感染症への対策が出来てからがよい。
- ・現状維持で良いが、今後は方面団独自の改革も必要になってくる。

# 方面団意見集約結果

## ③ 報酬・待遇について

### まとめ

- ・報酬（メリット）の増を望む。
- ・個人支給等の支払方法は要検討。

### 【報酬について】

#### ●年報酬・出勤手当の増額を希望する。(9/10)

- ・団員勧誘をする点からも増額した方が良いと思う。
- ・会社により欠勤扱いになるため、日当相当の手当てまで額を増やしてほしい。
- ・職場や家庭の理解と協力を得て活動に参加しているので、もう少し上げてほしい。
- ・特に機能別団員の年報酬増額を望む。
- ・出勤した分は支給してもらいたい。
- ・年報酬・出勤手当は、多ければ嬉しいが活動実績とのバランスも必要。

#### ●団員の士気の向上という点で、報酬の増額はさほど関係ないように感じる。(1/10)

### 【支払い方法等について】

#### ●個人支給がよいと考える。(2/10)

#### ●個人支給は難しい。(3/10)

- ・班活動をしていくうえで個人に報酬を支給するのは、今の報酬金額では厳しい。

#### ●その他 (5/10)

- ・支給方法は今後検討していく課題であると思います。

### 【その他の意見】

- ・消防団員確保のために、メリットをなるべく増やす事を望む。(市税の減額等)
- ・勤め先の負担を軽減できるメリットがある事で消防団活動に出やすくなる等の環境整備が必要。
- ・報酬や手当の増額よりも、消防団員の家族や協力をいただいている会社・企業主・団体へ対して何か謝意を伝えられる方法があれば嬉しい。
- ・防災備品や操法の備品等を団員報酬から捻出し購入していること自体が問題である。

# 方面団意見集約結果

④ 車両・機庫及び装備について ※地域の特性に応じたものか。

## まとめ

・地域特性や求められる災害に応じた消防施設や装備の充実、配備を

### 【車両について】(8/10)

- ・軽積載車は狭い場所では有効ではあるが、パワーがなく 4 人乗車での山間地（山道）では動力性能的には厳しい。要望としてターボエンジン搭載車はないのか。
- ・車両・機庫及び装備について、現状維持で良い、特に問題はないと思う。
- ・若い団員は運転免許でオートマ限定の者も多いため、オートマの軽積載車両が良い。
- ・車両更新については、地域的に即したものか、配備前にその分団・班の意向も考慮したものにして頂きたい。
- ・市街地は年々住宅が建ち、また道路幅と機敏性を鑑みれば小型ポンプ付軽搭載車で良い。
- ・災害出動時の個人車両の事故対応等。

### 【機庫について】(6/10)

- ・火災や災害時の初動人員が少なく限られているため、機庫を集約してほしい。
- ・機庫が集会所となっている所は防災情報確認のためマーブル通信費の負担や、除草剤等の維持のために持ち出しが発生している。
- ・先日の水害災害など、長時間対応しなければならない場合、機庫にトイレ・休憩スペースが無いでは辛い。
- ・より迅速に出動できるよう、資機材の棚の整備。個々のヘルメット等を入れるロッカーの支給。
- ・機庫に関しては、老朽化したものが多々あるのが現状。
- ・拠点施設タイプの機庫が整備されているので、比較的不便はない。
- ・出動時、現場で自家用車の駐車の際、消防団の表示板（マグネット式）により駐車出来るようになるとよい。

# 方面団意見集約結果

## 【装備等について】(10/10)

- 装備品（合羽、長靴及びヘルメット等）の拡充。
  - ・ 林道の倒木撤去作業の為のチェーンソー等と、熱中症対策の活動服を希望する。
  - ・ 班員分の長靴や夜間作業時のヘルメット装着式LEDライト等の支給を希望する。
  - ・ 二次災害防止の観点からライフジャケットを数点装備と捜索に必要な双眼鏡など。
  - ・ 分団独自で、ホースバンド、ホース固定用ロープ等を用意しています。
  - ・ 支給品についてサイズ等は検討していただきたい。（台帳整理とか）
  - ・ 活動長靴の定期貸与（3年に一回など）
  - ・ 水害の対応のため胴長の貸与。

# 方面団意見集約結果

## ⑤ その他（消防団活動に関するご意見）

### 【活動に関すること】（3/10）

- ・異常気象で広域的な災害が予想されるので、方面団を超えた広域訓練が必要。他の方面団、分団及び他市消防団など。
- ・コロナ禍の中、訓練等がやりにくく、方面団に合った活動をやっていく方向で考えてほしい。
- ・火災・自然災害・高齢化・団員の意識を高める為に、動画等を多く取り入れたらどうか。

### 【広報、勧誘に関すること】（4/10）

- ・勧誘時、各方面団別のオリジナルチラシ（行事・報酬・待遇の説明等）がほしい。
- ・消防団活動に対する告知・広報活動・一般市民や会社法人向け、広く多くの人達に消防団活動の重要性をアピールする取り組みをお願いします。更なる具体的な広報を。
- ・地域のためにと考え行動できる人材を確保するため、若者に興味をもってもらうように、自治会・公民館行事への参加、幅広い活動を館報等でPRすると共に、団員確保も分団と共に強力で推進するようお願いする。
- ・学校等への出前授業の実施、また女性団員の募集にも注力してほしい。

### 【家族や会社等に関すること】（4/10）

- ・出勤時には出勤者を把握したうえで、企業に礼状を出してもらえば企業の理解が進む。
- ・消防団員が所属する会社に対して、何かしらのメリットがあると会社側の理解がより得られるのではないかと思います。もっと各企業に（雇用者）協力をお願いしてほしい。
- ・災害対応等で職場を休んだ際には、消防本部から職場へ当日の活動報告を送付していただけたら、職場からの理解が得られると思う
- ・消防団の事務に関して、できれば分署の職員の方に方面団事務を担当して頂いたほうが、色々と意思疎通や活動についての相談等、円滑に活動できるように思う。